



大業を教える

ルビ・インスティテュート



Book 6

大業を教える

Teaching the Cause



ルビ・インスティテュート

このシリーズのブックの紹介

以下に、ルヒ・インスティテュートがデザインしたシリーズの現在の表題を示します。これらのブックは、ユースや大人が、自らの属する共同体に奉仕する能力を高めるための系統的な取り組みにおいて、幹となる一連のコースとして使用されることを意図しています。ルヒ・インスティテュートはまた、シリーズの3冊目から枝分かれした、バハイ子どもクラスの教師を養成するためのコースや、5冊目から枝分かれした、ジュニアユース・グループのアニメーターを育てるためのコースも開発しています。これらも以下のリストに示されています。なお、このリストは、この分野での経験が進むにつれて変更される可能性があり、開発中の多くのカリキュラム要素が広く利用できる段階に達するにつれて、表題が追加される予定です。

- ブック1 精神の生命を考える
- ブック2 奉仕に立ち上がる
- ブック3 子どもクラスを担当するにあたって、1学年
子どもクラスを担当するにあたって、2学年(枝コース)
子どもクラスを担当するにあたって、3学年(枝コース)
子どもクラスを担当するにあたって、4学年(枝コース)
- ブック4 一対の『神の顕示者』
- ブック5 ジュニアユースの力を解き放つ
最初の推進力: Book5の最初の枝コース
Widening Circle: The second branch course of Book 5
- ブック6 大業を教える
- ブック7 奉仕の道を共に進もう
- ブック8 バハオラの聖約
- ブック9 歴史的展望を得る
- ブック10 活気に満ちた共同体の建設
- ブック11 物質的手段
- ブック12 家族と共同体
- ブック13 社会的行動との関わり
- ブック14 公の論議への参加

Copyright © 1998, 2024 by the Ruhi Foundation, Colombia
All rights reserved. Edition 2.1.1.PE published in March 2024
Printed in Japan

Originally published in Spanish as *Enseñar la Causa*
Copyright © 1990, 1998, 2023 by the Ruhi Foundation, Colombia
ISBN 978-628-95545-2-6

Permission for a limited printing of this book in Japanese has been granted to BID by the Ruhi Institute.

Ruhi Institute
Cali, Colombia
Email: instituto@ruhi.org
Website: www.ruhi.org

目次

チューターのためのいくつかの考察	v
ティーチングの精神的な本質	1
ティーチングに必須の資質と態度	41
ティーチングの行い	93

チューターのためのいくつかの考察

ルビ・インスティテュートのコースでチューターを務めるすべての人々にとって重要なのは、幹コースの6冊目のブック、『大業を教える』が、参加者が従事する教育プロセスの中で極めて重要な位置を占めていることを理解することです。一方では、奉仕の現場での経験を積み重ねることで、ブック2で初めて紹介されたテーマについて、より広範囲に考察する準備が整うでしょう。他方で、参加者がここで検証するテーマは、今後、彼らが行う多くの事柄の状況の中で捉えられるでしょう。なぜなら、大業への奉仕に捧げられる人生は、バハオラの教えを他の人々と分かち合うという特権を得たいという熱烈な願望に必然的に貫かれるからです。

これまでのコースによって開かれた奉仕の道に踏み出して以来、参加者たちは、友人たちと一緒に、村や近隣で相互に関連した奉仕の行い、すなわち、祈りの会を主催したり、家庭訪問を系統的に行ったり、子どもたちの精神的教育のためのクラスで教えたり、ジュニアユースの精神性を高めるためのプログラムにジュニアユースのグループに従事させたりするといった、多くの経験を積んできました。このようなすべての行いに織り込まれた会話によって、ますます多くの人々が信教の原則に精通し、その教えについての知識を深めています。以前の各コース、特にブック2は、参加者がそのような会話に入るために必要な能力を伸ばすことに貢献してきました。間違いなく、彼らの多くはこの時まで、他の魂がバハオラを今日の『神の顕示者』として認識し、その信教に忠誠を誓うのを援助するという恩恵も受けていることでしょう。彼らは今、本書の第三章の目的であるティーチングという行いについて、より深く考える準備が整っています。第二章では、信教を教える人が身につけるべき精神的資質や態度について考える機会を提供し、第一章では、この神聖な行いの精神的意義についての理解を深めます。

バハオラによって私たちに課せられている、その大業を教える義務の本質を探究するために、第一章ではいくつかの基本的な概念を取り上げます。その中で、この章の初めに紹介されるのは、「燃え立つこと」という概念です。参加者は、ティーチングをするという義務は、私たちが実行する行動と同様に、私たちの内面の状態に関係していることを認識するように促されます。「在り方」(being)と「行い」(doing)が、バハイの教えに従って生きる人生の相補的な二つの側面であるということは、一連のコース全体の根底にあるテーマです。ここでは、そのテーマが明示され、実際に、本書の全体的な構成に形を与えています。この章の最初のセクションは、信教を教えることに関連する、このアイデアに対する精神的洞察を参加者が得る上で役に立つでしょう。「在り方」と「行い」の間の相互関係を理解するために、聖典に見られるいくつかの隠喩(メタファー)が用いられています。特に、どれほど小さくても暖かさや光を与える炎のイメージがそうです。ティーチングという行いは、神の御言葉を広めるために絶え間なく努力するほど、

神の愛が私たちの心の中でとても明るく燃え立っている状態と表現するのが最適な、存在の状態の自然な表現であることが示唆されています。

参加者は、このセクションの箇所を学ぶことによって、「在り方」と「行い」の相補性が奉仕の分野において実践的にどのように顕されるかを理解することができるはずですが。その際、参加者の中で、二つを対立させる考え方が大業の推進に献身する人生に対する見方に影響を与えないようにするために、二つを分離する、特に宗教的な性格を持つ、ある種の一般的な観念の意味を参加者に明確にする必要があります。セクション 9 と 10 の練習問題はこの点で役立つので、チューターは十分な注意を払ってください。もちろん、参加者は、これまで追求してきた二重の道義的目的が、その人生のあらゆる面——知識の探求、神の法への服従、神に仕え神に近づく努力、精神的な資質を身につけ人格を洗練させる努力——を結びつけていることを容易に理解できるでしょう。

ティーチングの義務の神聖な性質は、第一章の次のいくつかのセクションの焦点です。神聖さという概念が失われつつあるこの世界において、参加者はこのコースの学習を通して、「聖なるもの」——神に属するもの——を強く意識し、信教を教えるということは、人間の心と神の啓示という二つの聖なるものと相互作用しているという考えを深く理解するようになるはずですが。聖典から選ばれた引用文を熟考することにより、極めて精神的な行いであるものに光を当てています。それはすなわち、人間の心の都を、神の啓示に対して、発言の鍵で開くことです。第三章では、「発言」の問題を詳しく検討し、参加者は、ティーチングをするときに他の魂に伝えるメッセージの内容について考えます。ここでのセクションでは、この行いの神聖さに対する意識を高めることが、単に実践の場での努力の効果を高めるだけではないことを考えるよう求められます。むしろ、より重要なこととして、そのような努力を世俗的な事柄よりも上に引き上げるために必要な、精神的な力を解放し、それによって、個人と集団の両方に根本的な変化をもたらすことができるプロセスを始動させるのです。セクション 17 では、参加者はこの意識の高まりが意味するものについて時間をかけて検証します。チューターが参加者に確実に理解してほしいと思うことの中で、特に、次の二つの点があげられます。第一に、いくら社会に広まっているとはいえ、その神聖な性質を損うような態度や習慣をティーチングに持ち込まないように注意しなければならないということ。ティーチングという行いは、あたかも進歩的な社会的大業のためにメンバーを募集するようなアプローチであってはならないし、ましてや、ユーザーにとってどんなに有益なものであっても、商品売るという観点から発想されるべきではありません。第二に、奉仕の道におけるすべての行いは、神の御言葉に心を触れさせることを伴うため、これらも本質的に神聖なものであり、その自覚をもって取り組むべきであることを認識すべきだということです。

その後、この章は、参加者がよく知っているテーマである、神の御言葉による変容の効果に目を向けます。ティーチングという行いの中で、人間の心とバハオラの啓示——バハオラが人類に与えた最大の恩恵——との間につながりが形成され、それを通して、変容の永続的なプロセスが始まるのです。神の御言葉だけが、そのような変容をもたらす力を備えています。これまでのコースで参加者がこのテーマについてどの程度考えていたとしても、ここでは、神の御言葉の意義と、神の大業を教えるときにその力を引き出すことの重要性に関するバハオラ自身の御言葉に自身を浸すことになります。ルビ・インスティテュートが聖典や書物の一節を暗記することに重きを置いていることは、参加者の心に、以前にも増して説得力を与えるでしょう。教えるを正確に説明し、純粋な形で他の人々に伝えることは、奉仕の道を歩む私たち全員が身につけようとしている能力の一つであり、そのためには、自分の考えや言葉をできるだけ聖典や書物と一致させるよう、常に努力する必要があります。

そして、この章は、信教について他者と会話するとき、明確で首尾一貫した説明を提供するために、私たちが身につけた知識だけでなく、愛の力にも頼るべきであることを明確にすることで締めくくられます。ティーチングという文脈では、会話は喜びによって特徴づけられるだけでなく、気高い感情や崇高なアイデアが流れるような愛の絆を心の中に作り、強めるものであるべきです。

第二章「ティーチングに必須の資質と態度」は、第一章で学んだ「在り方」と「行い」の相補性を参加者に思い起こさせることから始まります。個人の内面が磨かれることは、他者への奉仕の中で自然に表現されることであり、他者への奉仕の中で自分の内面がさらに向上することを、冒頭から強調します。参加者は、純粋な心、無私、信仰、親切、勇気、知恵、離脱、謙虚さといった精神的資質が、神の芳香を広める努力に関係していることを考えるよう促されます。精神的資質の育成は、それに対応する態度とともに、ルビ・インスティテュートのコースで繰り返し扱われるテーマですが、常に特定の能力、例えば、共同体の祈りの性格の向上に貢献するために必要な能力、バハオラの啓示から得た知恵の真珠を他の人々と分かち合うために必要な能力、子どもの精神的教育のためのクラスを実施するために必要な能力、といった能力の育成という文脈で扱われます。このようにして、上述の、人間の魂の本質的な属性に対する参加者の理解は、それぞれの属性の力学を新たな視点で検証し、新たな行動領域におけるその作用を目の当たりにするにつれ、時間の経過とともに拡大し、より深いものとなるのです。

この章を通してグループを導く際、チューターは、精神的資質の探究の中心となる概念、すなわち、幹コースのすべてのコースで提示され、このコースにおいて最前線に来た概念に留意したいと思うでしょう。その概念とはすなわち、精神的資質が適切に表現されるために、

それらは互いに依存し合っているということです。ティーチングという行いにとって特に重要なのは、次のことを理解することです。勇気がいかに知恵を要求するか、勇気がなければ知恵はいかに表現されないままであるか、純粋さがいかに世俗的野心からの離脱と無私を要求するか、優しさが人の能力を信じることによって加減されなければいかにパターンリズム(温情主義、^{おんじょう}権威者的態度)によって曇^{くも}らされるか、そして、誠意がなければ、ティーチングが実際には偽善以外の何であるか、ということです。

精神的資質とは、人間としての私たちを構成する永続的な構造であるという考え方は、ブック 3 で紹介されたものであり、チューターはこの考え方に慣れ親しんでいるでしょう。このような資質を身につけることで、私たちは他者との関わりの中で適切な態度を示すことができるようになり、育ちや文化を通じて身につけた可能性がある好ましくない態度を避けることができるようになります。人々に対する寛容さや、真実を理解しようとする彼らの努力に対する共感、ティーチングに影響を与える態度の一例です。すべてのチューターが理解する必要があるのは、ティーチングについての話し合いは、この章の大部分で焦点となっている精神的資質の探究に組み込まれているということです。例えば、セクション 7 で優しさと忍耐の資質について考える際、参加者は、パターンリズム、怠慢や無関心という態度が、優しさと忍耐の名において自己主張し得る状況を分析します。同様に、セクション 8 で離脱の資質について考えた後、それが、私たち全員が目指す崇高な願望であるティーチングへの情熱とどのように関係しているのかを考えるよう促されます。参加者は、意気込みと熱意を、示すよう努力すべき態度として認識し、無気力と無関心を、自らが抵抗すべき態度として認識することができるはずで、これがセクション 9 の練習問題の目的であり、注意深く考えるべき課題です。

チューターを務める者はもちろん、どのような精神的資質の向上にも、関連する多くの概念の理解が必要であることを知っているでしょう。一例を挙げれば、より高い純粋さを得るためには、人間の心が何を映し出すために創造されたのか、その輝きを曇^{くも}らせる塵^{ちり}や屑^{くず}は何なのか、そのような不純物を浄化し続けるためには何が必要なのかを、ある程度、理解する必要があります。しかし、そのような概念の理解を深めるだけでなく、人は精神的に進歩しようとする意志と真摯な願望を持たなければなりません。意志と願望は、単なる知的議論によって生み出されるものではなく、各人が自分の内面状態を、心から深く内省する必要があります。そして、この深い内省をもたらす環境を養うことこそ、チューターのタスク(課題)です。つまり、罪悪感を起こさせず、罪の告白を求めず、非難を促さない環境であり、自分に求められていることについて個人的に考えることは各自に任され、友人同士で抽象的な事柄も実践的な事柄も冷静に話し合うことができるような環境です。

特に注目される精神的資質の一つが謙虚さです。一方では、真の謙虚さは、私たちすべてが到達しようと努力している、燃え立っている状態と密接に結びついています。その高みに到達するには、ますます自己を意識しないようになることが求められます。それは、私たちの言動に精神的な力を与え、高慢や虚栄心の猛攻撃から私たちを守る資質なのです。その一方で、それは効果的なティーチングに不可欠な、学ぶ姿勢を生み出します。真の謙虚さの土台の上に形成された学びの姿勢は、私たち個人の努力においても、集団的な事業への貢献においても、信教を教える際に採用する方法やアプローチが厳格になるのを防ぎます。大胆に進むべきか慎重に進むべきか、敏速^{びんそく}に行動すべきか好機を待つべきか、バハオラという人物について、あるいはその教えやバハオラが宣言された原則について、より一般的に、直接的かつ明確に語るべきか、などです。これらの考え方の話し合いはセクション 10 から始まり、セクション 14 の練習問題で終わります。いつものように、この章を締めくくるアブドル・バハの模範は、参加者が受容性のある魂と対話し、信教についての会話に臨む方法^{のそ}を特徴づけるべき資質と態度について考察する際の指針となるでしょう。

ティーチングという行いそのものを取り上げる第三章では、個人的な努力と、草の根の集団的な努力という二つの文脈でこのテーマを取り上げます。かなりの部分が前者に割かれていますが、チューターは、参加者と話し合う内容の多くが、どちらにも等しく当てはまることを忘れてはいけません。実際、この章ではそれぞれを順番に考察していますが、実際にはそれらは互いに孤立しているわけではなく、多くの点で重なり合っています。

この章では、参加者がどちらの状況においても効果的になるために育む必要がある能力として、バハオラのメッセージに対する受容性を認識し、それを育むことが挙げられています。これには、第二章の焦点であった精神的資質が鍵となり、セクション 3 の一節で守護者が述べているように、今日の社会の混乱によって生まれた機会を利用する能力も鍵となるでしょう。参加者は話し合いの中で、衰退しつつある世界秩序がもたらす精神的重圧と緊張の中で、人間の内心中にどのような状況が生まれてくるのか、十分に考える必要があります。

もちろん、そのような機会がどれほど十分にあっても、状況に適した説得力のある方法でバハの教えを提示する能力に十分な注意が払われなければ、そのような機会は実現しないでしょう。そこで、この章の中核は、この能力の探求にあてられ、参加者は、ユースのアンナが友達のエミリアに信教を紹介する会話という例を用いて、その本質について考えるよう援助されます。チューターは、参加者がこの中心的な話し合いから、少なくとも二つの考えを明確に得るようにしたいと望むでしょう。

第一に、参加者はセクション 4 から 6 で提起された概念と情報の違いだけでなく、なぜその違いが重要なのかを理解することが不可欠です。結局のところ、魂がバハオラに近づくことを可能にするのは、概念と深遠な真理を理解することによってであり、単なる情報の吸収によるものではありません。ティーチングという行いが意識を高め、理解を育むことに関係している限り、それは知的にも精神的にも個人を力づけるのを助ける手段とみなすことができます。参加者がインスティチュート・プロセスに入って以来、神の御言葉に触れ、理解に達するために伸ばしてきた能力は、彼らが他の人を真の知識の^{きしべ}岸辺にどのように導くか考えている今この時において、発揮されるのです。

第二に、参加者は、セクション 7 から 21 までで説明されているアンナとその友達との会話は、説得力のある、信教のプレゼンテーションが何を必然的に伴うのか、アイデアを与えるためのものであり、手当たり次第に使用される公式として受け止められるべきではないことを理解する必要があります。実際、プレゼンテーションの各セクションに続く練習は、その全体的な論理を強調し、^{さまざま}様々な背景や関心に応じて、どのように適合させることができるかについて、最初の考えを引き出すためのものです。しかし、参加者がこのような能力を身につけるには、第一に、プレゼンテーションをそのままの形でよく学び、一連のアイデアを自分の言葉で表現できるようになる必要があります。

個人のティーチングの努力についての話し合いはセクション 26 で締めくくられ、参加者は自分の生活環境を見つめ、個人的なティーチング計画の要素を特定するよう求められます。セクション 27 では、それに基づいて、数週間から数ヶ月の一定期間の最初の行動計画を考案することが奨励されています。この訓練によって、生涯を通じて個人的な取り組みとして定期的にティーチングに取り組むことの重要性に対する意識が高まることが期待されます。

セクション 28 では、この章の残りの部分の焦点である集団的行動の問題に移ります。この時点で、参加者は既に、様々な種類の集中的キャンペーンに参加していることが予想されます。さらに、各自が居住するクラスターで、共同体づくりのプロセスを着実に進めるために活動する、活発な信教の支持者の成長しつつある核に属していることでしょう。この後の最後の^{すう}数セクションは、そのような集団的行動の参加者としての経験を振り返るのに役立つはずですが、練習問題はそれほど広範囲に渡るものではありませんが、だからといって、各セクションを急いで進める必要はなく、チューターは、参加者が学んでいることを自分自身の経験と関連づけられるよう、十分な時間を確保することが重要です。そうすることで、参加者は、集団的行動において、一人ひとりが、様々な面で和合の度合いを高めていくことを特徴とする環境にどのように貢献すべきかを理解できるようになるはずですが、彼らは、草の根における統合された行動が、個人の努

力とともに、バハイ共同体が従事している世界的事業を前進させるためにどのように役立つかというビジョンを得るべきです。

そのために、各セッションでは、参加者が考えるべき、たくさんの疑問を提起しています。集団的行動の本質とは何か？ 集団的行動が統合されるとはどういうことか？ 世界的な信教の成長に対するアプローチの特徴は何か、また、集中的なキャンペーンの役割は何か？ 村の住民であれ、近隣に住む受容性のある集団であれ、クラスター全体に分散している人々であれ、参加者が共に働いている人々の特徴にはどのようなものがあるか？ バハオラの世界秩序のビジョンに向けた住民の運動(movement)を推進するために、彼らの集団的行動によって生み出される力はどの程度強いのか？ 子ども、ジュニアユース、ユース、大人を対象に、インスティテュートが推進している教育プロセスを通じて構築された能力は、信教の成長とどの程度密接に関係しているのか？ 効果的な集団的行動に必要な条件が整いつつあるか？ 親交の絆きずなは絶えず強化されているか？ 集団的行動の参加者の中で、目的の一致が達成されているか？ 目的の一致が、喜びにあふれた、集中的な活動として顕されているか？ 成長についての学びへの彼らのアプローチは、行動・行動の振り返り・協議によってどの程度定義されているか？ この最後の質問の重要性は、いくら強調してもしすぎることはありません。というのも、このようなアプローチが、友人たちの拡大しつつある核における活動様式として、どの程度まで浸透するかによって、成長のある段階から次の段階へと進むために求められるものを発見する上で必須である、より高度な思考の一致を築くことができるからです。



ティーチングの精神的な性質

目的

ティーチングという行いに特別な精神的意義があることを理解し、効果的なティーチングには「在り方」と「行い」の両方が必要であることを理解する。

セクション 1

あなたは、これまで、奉仕の道のある程度の時間をかけて進んできました。この道では、個人の精神的・知的な成長は、社会の変革への貢献と不可分です。この奉仕の道のあらゆる地点において、学びと行動の結合が、様々な方法で奉仕する能力を高めてきたことでしょう。共同体の祈りの性格を強めること、近隣地区または村の友人や家族と精神的に高揚する会話を始め、それを維持すること、系統的に家庭を訪問するプログラムに参加すること、子どもクラスの先生やジュニアユース・グループのアニメーターとして活動すること、あるいはその両方をする、ことです。これらのすべての活動において、あなたは、多様な背景と様々な年齢の人々と、バハオラの啓示の大海から知恵の真珠を分かち合う喜びを感じているでしょう。

間違いなく、みなさんは共同体の精神的基盤を強化するために働く中で、関心を持つ人々と、バハオラという人物について、そしてその啓示について直接、深く話す機会を掴んできたことでしょう。例えば、集中的なキャンペーンの一環として、インスティテュートの教育プログラムに参加している子を持つ親御さんを訪問するときや、奉仕したいという願望からインスティテュート・プロセスに入った若者たちと会話するときなどです。親戚、友人、同級生、同僚、知人との日常的な交流の中でも、同じような機会を見つけたに違いありません。さらに、このような機会や他の機会において、あなたは、バハオラのメッセージの真理を受け入れ、その信者の共同体に加わるよう、受容性のある魂を誘うことに尻込みしませんでした。本書の三つの章は、ティーチングという行い、魂をバハオラの啓示の大海の岸边に導くという行いについて考える助けとなるでしょう。もちろん、人々がこれらの岸边にたどり着くには、実に多くの道があります。ティーチングの精神的な力学について学ぶことの多くは、バハイの理想について話し合い、信念と確信を分かち合い、他の人々と精神的な事柄を探求し、さらには若者を育てるといふ、あらゆる場面や状況における私たちの努力すべてに広く当てはまることを認識すべきです。なぜなら、これらの努力もまた、魂を神の御言葉に触れさせることを伴うからです。

セクション 2

「おお、バハの人々よ。神の大業を教え広めよ」というのがバハオラの勧告です。「何となれば、彼のメッセージを宣言することを神は万人の義務と定め、最も価値ある行為と見なしたからである」。ティーチングが、バハオラを認めたすべての人の義務であるとはどういう意味でしょうか。

「義務」という言葉は、人の発言の中でいろいろな意味で使われます。ある時は、明白な理由もなく私たちに課された一連の規則という概念をこの言葉は伴います。私たちは、ある種の義務を、やらなくて済むのであればはるかに楽であるにもかかわらず、やらなければならないタスクだと考えます。一方、自分自身の幸福や、自分が気にかけている人々の幸福に関する義務は、喜んで引き受けるでしょう。グループで協議しながら、楽しい義務をいくつか、リストにしてみましょう。

一般的に、私たちは自分にとって重要だと思われる義務を勤勉に実行する傾向があります。たとえば、農夫が自分の畑を丹念に手入れするのは、一つひとつの作業が、家族の暮らしの支えとなる豊かな収穫を得るという最終目標に不可欠であることを知っているからでしょう。さて、私たちが信教を教えようと努力することによって、どのような実^{みの}りが得られるのでしょうか？

神の顕示者によって私たちに課せられた義務は、最大の善に資するものです。しかし、その価値は、それらが生み出す善のみにあるわけではありません。神の規定は、私たちに何をすべき

か、何をすべきでないかを指示する単なる規則ではありません。それは本質的には、人間存在の現実についての声明なのです。簡単な例を挙げれば、この点が明らかになるでしょう。

私たちは、健康的な生活を送るためには、定期的に適量の食事をする必要があることを知っています。しかし、規則正しく食べるということは、誰かが私たちに押し付けた恣意的な行動規則ではなく、私たちの肉体的存在の現実についての声明なのです。私たちの身体は、まとまった時間ごとに栄養を必要とするようにできており、私たちはその要求に応えなければなりません。それを無視すれば、最終的には死に至るでしょう。

同じように、神の顕示者が私たちに勧告や命令を与えるとき、たとえば、毎日祈ることを求めるような場合、神は私たちに恣意的な行動規則を押し付けているのではありません。この場合、人間の魂が養われるためには、定期的に心と知性を神に向け、私たちの存在の『源』と「対話」しなければならないように、人間の魂は創造されたということです。同様に、私たちの義務である、神の大業を教えることは、それが私たちや人類にもたらす明らかな恩恵にとどまらず、人間の魂の本質とその必要条件に関するある種の真理を明らかにしています。次のいくつかのセクションでは、これらの真理のいくつかを探ります。しかし、その前に、以下のそれぞれの本質について文章を書くことが理解の助けになるでしょう。例文を示しますので、参考にしてください。

1. 蠟燭ろうそく: 蠟燭の本質は光を与えることです。_____
2. 蛾が: _____

3. 炎: _____

4. 泉: _____

5. 雨雲あまぐも: _____

6. 芳香ほうこう: _____

人間の本质とは、絶え間なく与えること、つまり自分の所有物、時間、エネルギー、知識を惜しまず分け与えることです。あなたはこれに同意しますか？

セクション 3

このセクションと次の二つのセクションで、アブドル・バハの聖典から、いくつかの引用文を学ぶことによって、ティーチングをするという私たちの義務の意味合いについての考察を始めましょう。ある時、師はこう書かれています。

おお、天上の愛の活気ある炎よ！一万里離れていても、その熱と輝きが感じられ、見られるほど、汝の心は神の愛で燃え立っている。人間の手で灯される火はごく僅かな空間を照らし暖めるだけだが、神の手によって灯された神聖な炎は東方で燃えながら西方を燃え立たせ、南北をも暖めるのである。いや、その炎がこの世から立ち上り、天上の領土にて灼熱の炎で輝き、不朽の栄光の王国を光で満たすのである。¹

上の文節によると、私たちの心は、_____離れたところからでも、その_____と_____が_____、_____ほど、神の愛で_____いるべきです。_____で灯される_____はごく僅かな_____を_____、_____だけだが、_____によって灯された_____は_____で燃えながら_____を燃え立たせ、_____をも_____のであると、アブドル・バハは私たちに仰っています。その炎がこの世から立ち上り、天上の領土にて_____で_____、_____の王国を光で_____のである。

セクション 4

長い間、師の御前に立つことを望み、ついに師と、短い対面を果たした友人の一人に対し、アブドル・バハは次のように語っておられます。

この会合が、火に触れて^{てんか}点火されたランプの^{しん}芯のようなものであったことを願っている。汝が^{なんじ}蠟燭のように燃え上がり、神の^{ほのお}愛の炎によって^が蛾のように焼き尽くされるのを我が見出すことができるように、この会合の成果を期待して待っている。汝が愛と^{みずみず}歓喜の熱烈さに感動し、雲のように泣き、^{なえぎ}瑞々しい草原のように笑い、アブハの楽園の微風に揺り動かされた^{なえぎ}比類なき苗木のように喜びに^{ふる}震えるように。²

上の文節によると、アブドル・バハは私たちが_____のように燃え上がり、神の_____の_____によって_____のように焼き尽くされるのを見出すことを望んでおられます。_____と_____の_____に感動し、私たちは_____のように泣き、_____のように笑い、アブハの楽園の_____に揺り動かされた_____のように喜びに震えるべきです。

セクション 5

また、初期の信者の一人からの質問に答えるために書かれた書簡の中で、アブドル・バハは次のように述べておられます。

神の^{じじょ}侍女らは自分の力で誰の援助に頼ることもなく、この内に^{ひそ}潜む意味を理解し、一語一語について十分に解説できるほどの地位に達しなければならない。その地位において、彼女らの心の奥底にある真理から知恵の泉が湧き出、^{わいで}あたかもその源泉から^ふ噴き出る^{ふんすい}噴水のようにほとぼしるであろう。³

アブドル・バハは、私たちが、自分の力で誰の援助に頼ることもなく、教えの内なる意味を_____し、_____十分に_____できるほどの地位に達することを望んでおられます。これは、私たちの心の奥底にある_____から、_____が湧き出、あたかも_____から_____のように_____地位です。

セクション 6

先のセクションで学んだ三つの引用文は、大業を教えるという私たちの義務は、私たちが実行しなければならない行動と同様に、私たちが到達しなければならない存在の状態にも関係していることを示唆しています。このような状態について、引用文に含まれるイメージから学ぶことは非常に多くあります。それらは、その存在自体が自らを分け与えることを要求するものについて述べています。炎は光を発しないことを選び、それでもそれは炎と呼ばれるのでしょうか？ 泉は流れないことを選び、それでも泉であり続けることができるのでしょうか？ 私たちもまた、与え、寛大であるように創られています。与えること、自分が持っているものを他者と分かち合うことは、私たちの精神的存在の条件です。私たちが所有するものの中で最も貴重なものは、信仰という贈り物——バハオラを、今日の『神の顕示者』であると認めることです。私たちがバハオラの啓示から得た知識と、この啓示によって私たちの魂に満ちる愛と喜びを他者と分かち合うのは、当然のことです。

もちろん、大業を教えようと努力するとき、多くの障害にぶつかるかもしれません。私たちは恥ずかしがり屋かもしれませんし、行動することや発言することを恐れるかもしれません。明確さを持ってアイデアを表現するのが難しいときもあるかもしれません。しかし、神の大業を教えることによって、自分にとって最も大切なものを惜しみなく与えることを学んでいるのだと理解すれば、このようなことは徐々に克服していくことができます。守護者の代理によって書かれた手紙の中の次の言葉は、バハオラの啓示に含まれる神聖な知恵を他者と分かち合うという私たちの義務を常に思い出させるものとなるでしょう。

世界は大変な混乱状態にあり、その問題は日毎に激しくなっているようです。したがって、のんびり座っている場合ではありません。さもなければ、私たちは自らの神聖な義務を遂行し損うでしょう。バハオラは、私たちが個人的な喜びや楽しみのために大事にしまって隠しておくものとして、自らの教えを与えられたものではありません。彼がそれを与えられたのは、全世界がそれについて知り、その恩寵と高揚させる影響力を享受するようになるまで、私たちがそれを口から口へ伝えるためです。⁴

セクション 7

私たちが目指している存在の状態を特徴づける一つの方法は、燃え立っている状態と言えます。ティーチングに思考とエネルギーを集中するとき、私たちの心の中にあるバハオラへの愛の炎は、日々ますます明るく燃え上がるべきであることを忘れてはなりません。アブドル・バハの聖典の中の次の一節を暗記することで、心の中の神の愛の炎をさらに燃やす必要性を常に思い起こすようにするとよいでしょう。

おお^{なんじ}汝、神の愛の火で燃え立っているランプのような者よ！我は汝の最近の手紙を読んだが、それは汝の熱烈な愛と、汝の主、強力なる御方、讚^{さん}美^びされる御方の愛の火に汝が燃え立っていることを知らせ、汝の四肢と神経、静脈と動脈、骨と血と肉の中にある『真理の霊』の浸透する影響を示すものだった。このようにして、それは汝の手から力の^{たづな}手綱を奪い、汝を意のままに動かし、意のままに語らせ、意のままに惹きつける。実に、この状態は、神の愛の精神に満たされたすべての心にふさわしい。やがて汝は驚くべき結果を見、汝の強力なる主の印を発見するであろう。⁵

セクション 8

上記の一節は、私たちが大業に奉仕し、大業を教えずにはいられない状態を描写しています。『真理の霊』が私たちの存在そのものに吹き込まれているので、それは私たちから力の手綱を奪い、その意のままに私たちを動かすのです。そのような自然な衝動に抵抗することの成り行きについて考えるために、次のことをそれぞれ熟考してください。

a. 水を受け入れながらも、流れるのを拒む^{こぼ}泉: _____

b. 神の恩恵を絶えず受けながらも、他者とそれを分かち合うのを拒む人: _____

c. 知識を受け取りながらも、他者とそれを分かち合わない人: _____

d. 信仰の贈り物を受け取りながらも、大業に奉仕して、それを教えることをしない人:

セクション 9

燃え立つことの本質について考えるとき、「在り方」と「行い」は、バハイの教えに従って生きる人生の相補的な二つの側面であることを心に留めておくべきです。この二つは密接に織り交ぜられているので、それらを分けようとするのは無駄なことです。私たちは行動する前に、完全に燃え立っている状態になるまで一生待っていることはできません。たとえ最も小さな炎であっても、暖かさ^おと光^まを与えてくれます。同時に専心^{せんしん}しなければならぬことはたくさんあります。私たちは、毎日、祈り、学んでいる聖典の深い意味について瞑想しなければなりません。心を清め、主の属性を反映させるよう努めなければなりません。内なる目を開き、主の美を見つめ、それに魅了されなければなりません。そして、奉仕の分野で積極的に活動し、バハオラの啓示から得た知識を他の人々と分かち合わなければなりません。「在り方」と「行い」の間に相互に関連性があることを認識した上で、あなたはためらうことなく、どの声明を口にするでしょうか？

○を付けてください。

_____ 人々の家を訪問し、有意義な会話を交わすには、かなりの勇気が必要です。まず、人見知りを克服したら、この奉仕を提供する準備ができると思います。

_____ よく知らない人たちと会話を始めるのは緊張しますが、行動することでしか自分のもつ臆病^{おくびょう}さを克服できないということに気づいているので、私は神に信頼を置いています。

_____ 他者と信教について話し合うには、十分な知識がありません。教えを分かち合える受容性のある人を探す前に、もっと自分の知識を深めるべきです。

_____ バハオラの啓示から私たちが引き出せる知恵は無尽蔵であり、そこから得られる些細な洞察でさえもかけがえのないものだから、それを自由に他の人と分かち合うべきです。

_____ 私は決して完璧ではないし、聖典に書かれている多くの精神的資質を反映させるまでには長い道のりがあることは分かっています。それでも、バハオラの約束によれば、バハオラは、彼に奉仕しようと立ち上がるすべての人を助けてくださるのだから、私はそうするよう最善を尽くすべきです。

_____ 私は不十分ですが、立ち上がって大業に奉仕します。バハオラの教えを他の人と分かち合うことは、バハオラへの愛を深め、必要な能力と精神的資質を身につける助けとなります。

_____ 私は子どもクラスで教えたいと思っていますが、まず良い教師として必要な資質をすべて身につけるべきです。私が適切な手本を示さなければ、生徒たちはどのようにして学ぶでしょうか。

_____ 子どもクラスで教えることで、子どもたちへの愛情が深まり、寛大さ、忍耐、慈愛を実際に示す機会をたくさん見出すでしょう。

_____ アニメーターとして導いているグループのジュニアユースは、私に話しかけることができるはずですが、もし私が聖人君子すぎると思われたら、彼らは自分の考えを自由に表現することに抵抗を感じるでしょう。一番大切なのは、私が毎週毎週、彼らのためにそばにいることです。

_____ ジュニアユース・グループのアニメーターとして奉仕する際には、彼らの精神的・知的成長を助けようとするのと同じように、私自身の人格も磨くよう注意しなければなりません。

_____ 一般的に、どのような奉仕の分野でも、正しいことを言いさえすれば、私の魂が燃え上がっていくといまいと、違いはありません。

_____ 私がすべきことは、バハオラを愛することに集中することだけです。そうすれば、何も言う必要はありません。それにより、私の心は燃え上がり、人々はなぜ私がそ

ういうふうなのかと不思議に思うでしょう。私がバハイだからだと分かれば、彼らは自分たちで調べて信教を受け入れるでしょう。

_____ ティーチングとは、存在の状態です。自然にそうなります。なぜ努力なんてするんでしょう！

_____ ティーチングとは、存在の自然な状態です。受容性のある魂を探し出し、バハオラという人物について、その教えについて会話を交わすために、系統的な計画を立てる必要はありません。成り行きに任せればよいのです！

セクション 10

私たちは、バハオラを認めたその瞬間から、その教えを分かち合うことができ、また分かち合うべきであるということに同意しました。私たちが用いたイメージは、どれほど小さくても光と暖かさを与える炎です。同時に私たちは、奉仕の分野での努力を怠^{おこた}ることなく、常に精神生活を豊かにし、心の中にある神の愛の炎をさらに燃え立たせ、その強度を高める努力をしなければならぬことを理解しています。そこで、私たちは一歩立ち止まって、火の勢いを増すものについて考えてみましょう。

次のページにあるのは二組の声明です。左のセットには、ある種の真実を含みながらも、この問題に関して混乱を引き起こす記述が含まれています。それぞれを、右のセットの中で、より適切と思われる文と一致させてください。

知識はヴェールだ。知識が多すぎると高慢さにつながる。聖典を学ぶことに重点を置きすぎないように注意すべきだ。神と人類を愛することに集中すれば十分だ。

燃え立つことはとても重要なので、そのために、しばらくの間、人はあらゆる活動から離れ、自分の内面状態を改善することだけに取り組むことが必要だ。

神への愛に燃えているとき、人は永遠の喜びの状態で楽々と生きる。

私たちが神の命令に従うことに失敗するのは、バハオラを十分に愛していないからだ。

燃え立つことは神の恵みによるのみ、もたらされる。だから、その強度を高める努力をする必要はない。

一旦、神の愛の火が心に灯れば、決して消されることはない。それは自ずと燃え続け、自己と情熱から心を浄化する。

- a. ティーチングと大業への奉仕は、精神的成長に必要であり、個人の、燃え立っている状態を高めるものだ。
- b. 最終的に、燃え立つことは神の恩寵に依存する。しかし、これは努力が必要ないという意味ではない。毎日祈ること、神の御敷居で嘆願すること、聖典を読むこと、積極的に神に奉仕すること、これらは神の恵みと恩恵を受ける魂の感受性を高める。
- c. 知識は、心の中にあるバハオラへの愛の炎をいや増す。バハオラの啓示の学びと、彼の大業への奉仕を通してバハオラを知れば知るほど、バハオラをより深く愛するようになる。高慢さにつながり、知識をヴェールに変えてしまうエゴから解放された時、知識の習得は人の燃え立っている状態を高めることに大きく貢献する。
- d. 祈りと大業への奉仕が、自分の心の中の神への愛の炎を強める助けになるのと同じように、エゴの風と利己的な欲望はそれを消してしまう。したがって、人は用心深く、自分の心の中の神の愛の炎を守らなければならない。
- e. 神の道において、弛みなく働くにつれて、自己のヴェールは神の愛の炎によって焼き払われ、人は神に近づく喜びを感じる。
- f. 私たちは弱い存在で、常にバハオラの慈悲と許しを必要としているため、バハオラを愛しているときでさえ、たくさんの間違いをする。彼の命令に従おうと努力することは、燃え立つ状態を高める。

では、燃え立っている状態をどのように強めるか、自分の言葉で短い段落を書いてください。

セクション 11

神の愛に燃えて、バハオラの啓示の光を拡散するために絶え間なく努力する状態である、燃え立っている状態について考えた後、以下の文章を読んで考えてみましょう。

言^{こと}挙^あげよ。我を援助するとはわが大業^{たいぎょう}を人に教えることである。この主題こそ、複数の『書簡』^{しょかん}全体がもつ主題である。これは、久遠^{くおん}の過去から永遠の未来まで変わることもなき神のご命令である。⁶

おお、世の人々よ。わが美^びの昼^{しず}の星^{まくや}が沈^{なんじ}み、わが幕屋^{まくや}の天界^{てんがい}が汝^{なんじ}らの目から隠されるととき、失望してはならない。わが大業を促進し、わが言葉を人々の間に高めるために立ち上がれ。われは常に汝らと共にあり、真理の力で汝らを強めるであろう。⁷

最も高遠^{こうえん}なる者のペン^{ペン}は、この大業を教えひろめる義務^{ぎむ}を定め、その義務^{ぎむ}を万人^{ばんにん}に課したのである…。神以外のすべてを超脱^{ちょうだつ}したものに対し、神は靈感^{しんかん}を与え、その心に英知^{えいち}と言葉の清水^{しみず}を湧きおこし、豊かに流れ出させ給うであろう。このことは疑いもない。⁸

神はあらゆるものに対し、神の大業を教えひろめる義務^{ぎむ}を定めた。この義務^{ぎむ}の遂行のために立ち上がるものは、神の教え^{せんぶ}を宣布する前につきのことをしなければならぬ。つまり、感受性をそなえた人の心をひくためには、まず、賞賛^{しょうさん}に値する高潔な特性をもつて自ら^{みづか}を飾る装飾^{さうじき}としなければならない。⁹

おお、神に愛されし人々よ。創造者^{なんじ}なる汝^{なんじ}の主^{しゅ}を認め、彼の身^みに降りかかったことを聞いたなら、長椅子^{ながいす}に横たわるのではなく、直^{ただ}ちに奮起^{ふんき}して彼の加勢^{かせい}に急げ。自らの舌^{かぜい}を解き放ち、彼の大業を休むことなく宣言^{せんげん}しつづけよ。こうすることは、汝らにとって過去と未来のすべての財宝^{さいほう}にも増して価値のあることである。おお、汝ら、この真実^{まこと}を理解できたならば。¹⁰

みなさんは、上記の文節をできるだけ多く暗記したいと思うでしょう。

セクション 12

私たちのティーチングの義務の様々な側面を考えると、神の命令は私たちへの神の恩恵のしるしであることを忘れてはいけません。神の勧告や命令に従うことで、神の願いを自分は聞いてあげているなどは一瞬たりとも思っただけはいけません。神は、たった一言で、神の大業の完全な勝利を確保することができるのです。神が私たちに信教を支持する機会を与えてくださったことは、私たち一人ひとりに与えられた計り知れない祝福です。バハオラはこう述べておられます。

言挙げよ。もし、それがわが喜びであるならば、わが面前からのたった一言の力でこの大業を勝利せしめるであろう。真に彼は全能にして全てを従わせる御方におわす。もしそれが神の御心であれば、山々にこだまする雷鳴の如き咆哮と共に、不撓不屈のライオンが天の威力の森から現れ出るのである。しかし、わが愛情深き摂理は万物を凌駕するものであるから、我は言葉と発話によって完全な勝利を収めるように定めた。それによって、地上のわが僕が聖なる宝の受領者となるように。これは、汝らに与えられた神の恩恵のしるしの一つに過ぎない。¹¹

話し言葉や書き言葉で、あるアイデアを伝えるために隠喩(メタファー)が使われることが度々あります。つまり、あるイメージを思い起こさせる言葉やフレーズが、無形のものを描写するために使われます。上記の文節で、バハオラはライオンの隠喩を用いています。ライオンは天の威力の森から現れ、その咆哮は山々にこだまする雷鳴のようです。このイメージは、創造主である神の力を垣間見せてくれます。たった一つの行いによって、神はその力を知らしめ、地上のすべての人々は神の前にひれ伏すのです。神の僕である私たちが神の信教を広める手段となることを許されたのは、ひとえに神の慈愛ゆえです。引用文にある単語や表現を使って、以下の文を完成させましょう。

1. もしそれが神の喜びであるならば、神は_____。
2. もしそれが神の御心であれば、_____。
3. このライオンの咆哮は_____。

4. しかし、彼の愛情深き摂理は万物を凌駕するため、神は_____
_____ 定めた。
5. 彼がこうなされたのは_____
_____ ためである。
6. これは、_____
_____ に過ぎない。

セクション 13

ある信念を持ちながら、同時にそれと根本的に矛盾することを言う人は珍しくありません。概して、一貫性を保つことは容易ではないのです。私たちは皆、生涯を通じて形成された心の癖を持っており、それにより、考えもせず^{めずら}に発言してしまうためです。もう少し考えれば、自分が発言したことのいくつかを実際には信じていないことがはっきりするでしょう。教えに照らして、また経験を通じて、理解が深まるにつれ、時折立ち止まって、特定の発言の妥当性^{だとうせい}を検討することには価値があります。次のうち、義務としてのティーチングという概念に対する、あなたの理解に合致するものはどれでしょうか。それらに○をつけてください。

- _____ ティーチングの仕事について、私の属する共同体での協議に積極的に参加し、どうあるべきかを提案します。私はそうやって、ティーチングの義務を果たしています。
- _____ 私の属する共同体で集中的なティーチングの取り組みがあるときは、いつもそのために特別な祈りを捧げます。私はそうやって、ティーチングの義務を果たしています。
- _____ 機会があればいつでも、バハオラの教えから引き出した洞察を提供します。私にとっては、ティーチングの義務を果たすにはこれで十分です。
- _____ 今年、私は一人の人に信教を教えました。今年の義務を私は果たしました。
- _____ 私を知っている人は皆、私がバハイであることを知っていますし、関心のある人にはバハオラとその啓示について話しています。信教を教えるために、私に開かれた、すべての手段を使い果たしました。

_____ 私は会う人すべてに自分がバハイであると伝えることで、ティーチングの義務を果たしています。

_____ 私がティーチングの義務を果たす最善の方法は、模範的な生き方をすることです。言葉は必要ありません。

_____ 私は、バハオラの大業を教えるという命令を含め、そのすべての命令と勧告に従うよう努力しています。こうすることでのみ、模範的な人生を生きることができるからです。

_____ バハオラが、信者一人ひとりに、ご自分の大業を教える義務を課されたことは知っています。しかし、実際に、バハオラは「全員」を意味していたのではありません。信教についての多くの見識けんしきを持ち、かなり多くの経験を積んだ人たちのことを指しているのです。

_____ バハオラの教えの美を思うとき、私は喜びに満たされ、バハオラのメッセージを他の人々に伝えないわけにはいかないと思うのです。

_____ 大業を教えるという私の義務を果たすことで、私は『神聖な確証』を受けとります。

_____ 私は、バハオラへの愛と、バハオラが私に教え込んでくださった全人類への愛のために、大業を教える義務を果たしています。

_____ 私たちの近隣地区では、多くの共同体づくりの活動が進行中で、より多くの個人や家族が信教に入信するのは時間の問題です。バハオラとその啓示について話し、その大業において魂が信仰を固める手助けをする機会を探す必要は私たちにはありません。

アブドル・バハによってあらわされた書簡からの次の引用文を暗記しましょう。

おお、^{なんじ}汝、神の王国を探し求める者よ！汝の言葉や発言が、^{かたく}頑なになった心に浸透するよう願うなら、この世界に対する全ての愛着あいちゃくを自身から取り除き、汝の顔おもてを神の王国へ向けよ。汝が燃え盛る炎も さか ほのおとなり、導きの光り輝くろうそく蝋燭となるように、汝の心の内に神の愛の火ともを灯せ。そうすれば、『聖霊』の確証を通して、汝の語る言葉はすべての心をかき立てるであろう。¹²

セクション 14

さて、義務としてのティーチングの意義について考えたところで、セクション 6 で学んだ引用文において守護者が私たちに注意するよう促した、この行いの神聖さについて考えてみましょう。ティーチングはどのような意味で神聖なのでしょうか。もちろん、それが神からの勧告であるという事実だけで、この義務は神聖なものとなります。しかし、ティーチングに関して探求すべき、神聖さの他の側面もあるでしょうか。バハオラは、書簡の中で次のように述べておられます。

神は、人の心の都^{みやこ}を御自分のために取っておかれたのである。そして、すべてに君臨する真理におわす御方に愛されし人々こそはその都の鍵である。彼らの一人一人が最大名の威力^{さいだいめい}によりこれら都の門^{あはな}を開け放つことができるよう、われは神に嘆願する。¹³

他の文節で、バハオラは述べておられます。

主^{しゅ}が自分のために残した唯一のものは人の心の都である。その目的は、心の都を地上のあらゆる汚れ^{けが}から清め、不信仰なるもの^{けが}の手が決して汚すことのできない聖所^{せいじよ}に人々が近づくことができるようにすることである。おお、人々よ。汝^{なんじ}らの言葉^{かぎ}の鍵によって人の心の都の扉を開放せよ。これこそは、あらかじめ決められた定めによってわれが汝らに課す義務である。¹⁴

以下の質問は、上記の引用文が、神聖さとティーチングという行いにどのように関係しているか理解する助けとなるでしょう。

1. 神がご自分のために取っておかれたものは何ですか？ _____
2. 人の心は誰に属しますか？ _____
3. 「神に属するもの」を描写するときに私たちが遣う言葉^{つか}は何ですか？ _____
4. 人の心の都の鍵とは誰のことですか？ _____
5. 神は、これらの都を何から清めるよう願っておられますか？ _____

6. 神は、これらの心が何に近づくことを願っておられますか？ _____

7. どのような鍵でもって、私たちは人の心の都を開けるのでしょうか？ _____

8. 上記の引用文で、私たちにはどのような義務が定められたのでしょうか？ _____

セクション 15

神聖さとティーチングの関係を探る努力の中で、私たちが考慮しなければならない神聖さには、さらに別の側面があります。バハオラは、その啓示について、ある書簡の中で次のように述べておられます。

言^{こと}挙^あげよ。これこそは、神の取り消し難^{がた}い定め^{さだ}を納^{おさ}めた神秘^{しん}なる封印^びの巻^{まき}物^{もの}である。神聖^{まき}なる指^{さし}が書^かきとめ^めた言葉^{ことば}を記^ししたこの巻^{まき}物^{もの}は、不可^ふ知^かなる神秘^{しん}のヴェール^べの内^{うち}につつま^つまれてきた。しかし、今^{いま}やそれは全能^{ぜん}者^{じや}なる日^ひの老^おいたる者^{もの}の恩^{おん}寵^{ちやう}の証^{あかし}として下^{くだ}されたのである。われはこの巻^{まき}物^{もの}に、天^{てん}と地^ちにあるすべての住^す人^{にん}の運^{うん}命^{めい}を定め^{さだ}記^しし、万^{ばん}事^じに係^かわる知^ち識^しを始^はめから終^はわりまで書^かき記^きした。¹⁵

上記の箇所、バハオラはご自身の啓示を、神秘なる封印の『巻物』であると述べておられます。巻物とは、重要なメッセージが書かれた紙を巻いたもののことです。この神秘なる封印の『巻物』は、神のご命令の保管庫です。つまり、神が命じられたものを運ぶものであり、不変のものなのです。次の練習問題は、この文節の意味を理解するのに役立つはずですが、引用文にある単語を使って空欄を埋め、文章を全体として読んでください。

1. バハオラの啓示は、神の _____ の証として私たちに下された。
2. 下されたものは、 _____ の _____ につつまれてきた、 _____ なる _____ の巻物である。
3. それは神の _____ を納めている。
4. その中に、神は天と地にあるすべての _____ の運命を定め記した。

5. バハオラの啓示はその中に、万事に係わる_____を_____から
_____まで含んでいる。

セクション 16

先の二つのセクションで学んだことについて考えてみましょう。ティーチングは、神によって私たちに命じられていることですから、すべてのバハイにとって神聖な義務です。さらに、ティーチングをするとき、私たちは二つの非常に神聖なものを扱っています。一つは、本質的に神に属する人間の心です。実際、ティーチングは、人間の心の都を神に向けて開かせる精神的な行いであると言えます。ティーチングに関係するもう一つの神聖なものは、バハオラの啓示です。私たちがティーチングするのは、心を、バハオラから人類への最大の恩恵である、バハオラの啓示につなげるためです。

人生の中で、聖なるものの存在を感じた時を思い出してみてください。バハオラとバブの聖なる廟びやうに行ったことがあるなら、その聖なる敷居しきいに近づき、ひれ伏したときの気持ちを強く覚えていることでしょうか。しかし、まだそのような恩恵に浴したことがないとしても、祈りの中でうっとりし、精神と心を神に向け、神の御前に立っていることを鮮明に感じたことは、人生の中で何度もあるはずです。そのような瞬間にあなたの心を満たす感情は何ですか？ 次のリストに○をつけてください。

_____ 熱烈な愛	_____ 喜び	_____ 恍惚 <small>こうこつ</small>
_____ 畏れ <small>おそ</small>	_____ 価値のなさ	_____ 感謝
_____ 謙虚さ	_____ 無関心	_____ 崇敬 <small>すうけい</small>
_____ 不安	_____ 服従	_____ 穏やかさ

セクション 17

直前の最後の設問は、神聖なものに近づくときにとる敬虔けいけんな態度と、神聖なものの前に立つたときに心に沸き起わこる崇高な感情を思い出させてくれたことでしょうか。この文脈で、重要な問いを投げかけなければなりません。ティーチングの神聖な性質に対するあなた自身の気づきは、あなたの行いにどのような効力を与えているのでしょうか？ この問いに答えるために、ティー

チングという行いに対する三つの異なる見方が説明され、それぞれの結果について考える練習問題をするをおすすめします。この練習が多少、作為的に見えても気にしないでください。そう見えたとしても、必要な洞察を得られるはずです。

近隣地区あるいは村で、信教を積極的に支持する人たちの大きくなりつつある核の一部として、あなたは集団的なティーチングの取り組みに携わるチームの一員です。あなたと他のメンバーは一緒に家庭を訪問し、個人や家族——その中には、既に何らかの形で、現在進行中の共同体づくりの活動に関わっている人もいます——と、バハオラの啓示に含まれている基本的な真理について話し合い、バハオラを、今日の『神の顕示者』として認めるよう助けます。あなたのチームが、ある期間にわたって 30 人ほどの人々が大業を受け入れ、バハイ共同体に参加するのを支援したというシナリオを想像してみましょう。チームの各メンバーは、バハオラへの愛のみから、最大限の誠意をもってティーチングの義務を遂行したと仮定することができます。しかし、もしチームの認識がすべてのケースで一定でなかったとしたらどうでしょうか。

最初のうち、あなたは、多かれ少なかれ、自分たちを販売員として見ていたとしましょう。「ティーチングは売ることと同じです」と、あなたは自分と他のメンバーに言います。「信教は最高のアイデアを持っています。信教を効果的にパッケージして、これらの素晴らしいアイデアを人々に売れば、よいティーチングができているってことです」。このようにして、10 人が入信しました。

それからしばらくして、あなたやチームの他のメンバーが、自分たちのしていることを、進歩的な社会的な大義に参加する人々をリクルートするという大きな観点から捉えたとしましょう。「世界の悲惨な状況を考えれば」と、あなたは自分と他のメンバーに言います。「必要なのは、できるだけ早く、できるだけ多くの人々——この教えの中に人類の病に対する解決策を見出し、和合の確立のため、偏見の除去のため、正義の大義のために働く人々をリクルートすることです」。こうしてあなたは、平和、和合、男女平等、偏見の除去といった重要な理想を推進するために、他の人々を熱心に招待し始めました。こうした努力の結果、10 人が入信しました。

それからしばらくして、もちろん、あなたはまだ世界の状況を憂慮し、バハオラの教えを適用して世界を変革できる人々の数を増やす必要性を感じていました。しかし、あなたのチームはティーチングの神聖な性質について、より深遠な理解をもつに至っていました。今、あなたが誰かに信教の真理を説明するたびに、あなたは神のものである人

上記で問いかけた質問、つまり、ティーチングの神聖な性質に対するあなたの意識の高まりが、あなたの行いに効力を与えるかどうか、についてさらに考えるために、次のシナリオを検討してみましょう。先に述べたように、あなたが村または近隣地区で行っている共同体づくりの活動の多くは、魂を神の御言葉に触れさせることであり、広い意味ではティーチングとみなすことができます。あなたは今、インスティテュートの幹コースに入り、奉仕の道を歩き始めるよう、特にユースを中心としたグループを次々と招待することに専念しているチームの一員であるとしましょう。上の段落で述べたような、その時点での異なる認識を持って、あなたはユースの三つのグループと会話を交^かわし、彼らがあなたの招待を受け入れたとします。もう一度、それぞれのグループを全体として考えてみて、例えば、自らの精神的・知的成長を追求し、社会の変革に貢献しようと彼らが示すコミットメントの度合いに関して、グループの間に何らかの違いがあると思いますか？

セクション 18

人の心の都への門が開かれ、心がバハオラの啓示とつながるとき、深遠な変容のプロセスが始まります。この変容は即座に起こるものではなく、確固たる決意をもって学びと奉仕に取り組む中で、時間をかけて起こります。それでも、バハオラを受け入れるという行いが、この変容

のプロセスにとってどれほど重要であるかを決して過小評価すべきではありません。『真理の太陽』を認め、その光線が心の中に入り、心を照らすようにすることは、人が人生において踏み出すことのできる、たった一つの、最も重要な一歩なのです。バハオラを認めた後に起こる変容を熟考することで、私たちは他の人がこの重要な一歩を踏み出すのをどのように助けることができるかをよりよく理解することができます。私たちがバハオラを受け入れ、その教えに従って行動し始めるとき、次のそれぞれに起こる変化について、一文か二文で書いてください。

1. 私たちの心: _____

2. 私たちの知性: _____

3. 私たちの考え: _____

4. 私たちの性格: _____

5. 同胞である人間と私たちの関係: _____

6. 人生における私たちの目標: _____

7. 世界に対する私たちの見方: _____

セクション 19

ブック 5 で、精神的なエンパワーメントの力学について考察した際に、力という概念について簡単に触れました。このテーマは、ここでの話し合いの文脈でさらに考察する価値があります。物理的な世界では、力の行使によって変化が起こります。私たちがいる地点から別の地点に移動するにも、植物が成長するにも、ランプが暗闇を光に変えるにも、川が流れ、潮の満ち引きが起こるにも、力が必要です。つまり、人体の筋肉によって供給される力、太陽によって、電気によって、あるいは引力によって生み出される力です。では、次の質問を問うことは重要でしょう。先のセクションであなたが描写したような変化をもたらす力とは何でしょうか？ この問いは、ティーチングの精神的な本質を理解する上で非常に重要であるため、この章の残りを、この問いに対する答えを探すことに費やすことにします。まず初めに、以下の力のうち、個人、そして社会の精神的変容に貢献できるものはどれか選んでください。

- _____ 祈りの力
- _____ 清らかなる善き行いの力
- _____ 神の御言葉の力
- _____ 正義の力
- _____ 剣の力
- _____ 和合の力
- _____ 真実の力
- _____ 模範の力
- _____ 親切な言葉の力
- _____ 説得力ある口論の力
- _____ 金の力
- _____ 正しい人格の力
- _____ 聖約の力
- _____ 政治的支配の力
- _____ 抗議の力
- _____ 愛の力
- _____ 説得の力

- _____ 信仰の力
- _____ 建設的で無私の思考の力
- _____ 銃^{じゆう}の力
- _____ 真の知識の力
- _____ 理性の力
- _____ 脅迫^{きょうはく}の力
- _____ 大業への謙虚な奉仕の力

セクション 20

精神的な変容に貢献するあらゆる力の中で、他の力の背後にある根源的な力として、唯一無二の存在として際立^{きわだ}っているものがあります。それは何でしょうか？

何世紀にもわたり、銅や他の元素^{どう}に塗ると、それを金に変える「靈薬^{れいやく}」(あるいは、錬金薬^{れんきんやく})と呼ばれる物質が存在すると信じられてきました。多くの人が探し求めたけれども、決して発見されることはなかった、このプロセスは「元素の変成」と呼ばれています。バハオラは、その書簡の一つでこのイメージを用いて、最も深遠な精神的真理を明らかにしています。

神に対する信仰心はあらゆる国で衰^{おとろ}えつつある。彼の健全なる妙薬^{みょうやく}の他にそれを回復^うさせ得るものは何もない。不信心による腐食^{ふしよく}は、人間社会の核心をもむしばみつつある。彼の威力みなぎる啓示の靈薬^{れいやく}以外に何が人間社会^{じょうか}を浄化し、復活させ得るであろうか。おお、ハキムよ。物質の微小^{しょう}かつ不可分な分子の構成要素に完全な変化をもたらし、その物質を純金^{じゆんきん}に変えることが果^{はた}して人間の力で可能であろうか。これは複雑で困難な課題に見えよう。しかし、われにはより偉大なる事業を成し遂げる力が付与^{ふよ}されているのである。その事業とは、悪魔的勢力を、天来の威力に変革させることである。このような変革をもたらし得る力は、かの靈薬の効力をも越えるものである。神の御言葉^み以外に、これほど崇高な、そして広範囲にわたる変革を達成するに必要な能力を有するものは存在しない。神の御言葉^みのみがこのような卓越性^{ほこ}を誇り得るのである。¹⁶

さて、この一節を読んで、他の力の背後にある根源的な力として、唯一無二の存在として際立っているものはどれだと思いますか？ _____
この力は何を成し遂げることができますか？ _____

セクション 21

上記の引用文では、ある元素を純金に変えることは難しいかもしれませんが、悪魔的勢力を天来の威力に変えることはもっと難しいことだと言われています。しかし、神の御言葉は、そして神の御言葉だけが、そのような根本的な変化をもたらすことができるのです。しかし、そのような途方もないことを成し遂げることが可能な「神の御言葉」とは何なのでしょう。バハオラは述べておられます。

さらに、神——彼の栄光に賛美あれ——の御言葉は、感覚が知覚できることをはるかに高く、超越したものである。なぜなら、それはいかなる所有物、物質からも聖別されているからである。それは既知の要素の限界を超え、本質的かつ認識されている全物質を上回る。それはなんの音節や音声もなく顕され、それは全創造物に浸透する神の命令に他ならない。それは存在の世界から差し控えられたことはない。それは、すべてに浸透する、神の恩寵であり、すべての恩寵はそこから発する。それは、これまでもこれから、あらゆるものをはるかに超える存在物である。¹⁷

1. 神の御言葉は、感覚が知覚できることを _____、 _____
_____ ものである。
2. 神の御言葉は、いかなる _____、 _____ から _____
_____ されている。
3. 神の御言葉は、 _____ の限界を _____ いる。
4. 神の御言葉は、 _____ かつ _____ いる全物質を _____
_____。

5. 神の御言葉は、なんの_____や_____もなく顕される。
6. 神の御言葉は、神の_____である。
7. 神の御言葉、神の命令は、_____に浸透する。
8. 神の御言葉、神の命令は、_____から差し控えられたこととはない。
9. 神の御言葉は、すべてに浸透する神の_____である、_____はそこから発する。
10. 神の御言葉は、_____、あらゆるものを_____存在物である。

セクション 22

神の御言葉の力を垣間見ることができる、もう一つのイメージは、存(B)と在(E)の文字の結合です。聖典には、神が存(B)と在(E)の文字を結合させ、「存在せよ(BE)」という命令を発したと書かれています。こうして、すべての創造が起こったのです。バハオラによって啓示された祈りの中で、バハオラは私たちの創造主である神を、次のようにお呼びになっています。

その指の一つの動きですべての名称とその王国を存在させ、すべての属性とその領土を創造させ給う御方、さらにその同じ指のもう一つの動きで、存と在の二文字を結びつけ給うた御方であるあなたは、あなたの間近にいる選ばれた者らの最高の思考をもってしても理解し得ず、あなたに全く献身し、あなたに愛される者らの最も深遠な知恵によっても、計り知ることができないことを明らかにし給うのである。¹⁸

他の書簡で、バハオラは次のように宣言しておられます。

あらゆることには起源が、そしてすべての建物には建造者が必要である。誠に、神の御言葉はこの偶然性の世界——『日の老いたる者』の輝きに飾られ、しかもいつの時代においても更新され、再生される世界——に先んじた原因である。この崇高な構造を立ち上げた御方なる知恵の神は計り知れぬほど称賛される。¹⁹

セクション 23

私たちは今、神の御言葉とは、神のすべてに行き渡る命令と恵みであり、音節や音声で作られたものではないことを学びました。しかし、私たちが読んだり聞いたりすることのできる言葉には、神の御言葉の力を持つものが存在します。つまり、顕示者によって発された言葉です。これらは創造し、再生し、変容させる力を持っており、この理由から「創造的な言葉」と呼ばれています。バハオラは私たちにこう語っておられます。

神の御口^{みくち}をもれる一つ一つの言葉は、すべての人体に新たな生命を授けるに十分な威力を有する。おお、汝^{なんじ}ら、この真理を理解するものならば。

20

おお、わが友よ！神の御言葉^みは言葉の王者であり、すべてに浸透するその影響力は計り知れない。御言葉はこの存在の世界を支配してきたし、これからも支配し続ける。『偉大なる存在者』^{のたま}は宣う。御言葉は全世界のためのマスターキーであり、その威力により、実際は天国の扉^{とびら}である、人の心の扉を開くからである。²¹

神の言葉は世界の核心^{てんか}に点火したのである。もし汝ら^{ほのお}がその炎にともされなければ、これほど残念なことはない。²²

以下は、このセクションと前のセクションの引用文に関連したいくつかの質問です。質問の中には「はい」か「いいえ」で答えるだけのものもありますが、全問に答えることで、神の御言葉の力についての理解が明確になるでしょう。

1. 神の御言葉は音節や音声で作られていますか？ _____
2. 神の御言葉は何らかの既知^{きち}の物質で作られていますか？ _____
3. 神の御言葉は私たちの感覚によって知覚することができますか？ _____
4. 神の御言葉とは何ですか？
 - a. それは _____ に他ならない。
 - b. それは神の _____ である。

5. 神の命令はすべての創造物に浸透しているとは、どういう意味ですか？ _____

6. もし神の命令によって生み出されていなければ、宇宙のあらゆるものは存在するでしょうか？ _____
7. 神の恩寵がすべてに浸透する、とはどういう意味でしょうか？ _____

8. もし、神の恩寵が存在の世界から差し控えられたらどうなるでしょうか？ _____

9. 神の御言葉は、肉体的な感覚や能力では知覚することができないのですが、私たちはどのようにしてそれを認識するのでしょうか？ _____
10. 神がその人を通して話す「神の御口」とは誰ですか？ _____
11. 神の顕示者が発するすべての言葉には、何が付与ふよされていますか？ _____

12. 神の御言葉によってすべての人間に吹き込まれた「新たな生命」には、どのような特徴があるのでしょうか？ _____

13. 神の御言葉の影響はどれほど大きいのでしょうか？ _____
14. 全世界のマスターキーは何ですか？ _____
15. 神の御言葉は人の心に対して何をしますか？ _____
16. 世界の核心に点火したのは何ですか？ _____
17. 私たちはどんな炎で燃え立つべきなのでしょう？ _____

次の引用文を暗記しましょう。

今日は話す時である。バハの人々は最大の忍耐と寛大さをもって世の人々を『最も偉大なる地平線』に導くために努力しなければならない。すべての肉体は魂を求めて呼ばわっている。天来の魂は、神の御言葉の息吹によって、死んだ肉体に新たな精神を与え、蘇えらせなければならない。²³

セクション 24

ここまでのセクションで述べてきた、いくつかのアイデアの関係を検証してみましょう。バハオラは、私たちの発言の鍵で、人間の心の都を開くよう呼びかけておられます。ひとたび、この都への門が開かれ、心が彼の啓示につながると、素晴らしい変容が起こり始めます。この変容をお押し進める力の中でも、顕示者の言葉を通して伝えられる神の御言葉の力が最も不可欠なものです。ということは、ティーチングにおいて、私たちは自分の言葉を使わず、バハオラの聖典の一節だけを他の人に暗唱するのが最善だということでしょうか？

この質問に答えるにあたり、聖典を持ち歩き、それを用いて人々に絶えず教えを説く、ある種の宗教的狂信者の行動を思い起こしてください。確かに、これは私たちが取りたいアプローチではありません。ブック 2 の学習において、あなたは、聖典から直接引用することと、自分自身の言葉を使って信教の教えや原則を説明することのバランスをとるように勧められました。それ以来、あなたは間違いなく、自分の近隣地区や村で行ってきた奉仕活動を通して、この能力を高めてきたことでしょう。次のバハオラの勧告を読み、ティーチングの努力において、どのように神の御言葉の力を引き出すことを学ぶべきか、今一度、考えてみてください。

聖別された魂はティーチングの方法について心中深く沈思黙考すべきである。また、素晴らしい天来の聖典の文中からさまざまな状況に関連する句や節を選んで暗記すべきである。それにより、話をする中で、その場の必要に応じ、聖句を暗唱することができるように。このような聖句は、最強の妙薬であり、最強最大の護符であるから。その影響力の大きさ故、聴き手が迷う理由はないであろう。²⁴

1. バハオラは私たちに、_____の_____について、心中深く_____するよう述べておられます。
2. 私たちは、聖典の_____からさまざまな状況に関連する句や_____を選んで_____すべきです。
3. _____をする中で、_____, 聖句を_____することができるように聖典からの節を暗記すべきです。
4. これらの_____は、最強の_____であるので、私たちは話の中で聖句を暗唱すべきです。
5. 聖句の_____の_____ゆえ、_____が_____理由はないでしょう。

セクション 25

バハオラは、聖典の句や節を暗記し、機会があればいつでも発言や会話に使えるようにしなさいと仰おっしゃっています。明らかに、この言葉が指している最初の、主要な聖典は、バハオラご自身による聖典です。なぜなら、バハオラは、今日の『神の顕示者』であり、バブのような以前のすべての顕示者たちと同様に、バハオラの言葉は『創造的な言葉』を構成しているからです。

しかし、アブドル・バハの言葉についてはどうでしょうか。グループの他のメンバーと一緒に、師の言葉が聞き手に与える力について考えてみましょう。例えば、この幹コースの初めの方のブックで師の言葉を学んだとき、あなた自身の心に、その言葉が及ぼした影響こうわについて考えてみてください。また、ブック2の第二章の声明から得た洞察が、師の講話や書簡に基づいているもので、有意義で気持ちを高揚させる会話に必要な能力を伸ばすのに役立ったことを覚えているでしょう。師による聖典は、神が啓示された聖句とは見なされないかもしれませんが、それ自体の地位を有しています。師の言葉は、どこから力を得ているのでしょうか？ バハオラによる聖典から一節を取り入れるように、師による聖典の一節を私たちの発言や会話に取り入れることは望ましいのではないのでしょうか？

では次に、守護者による書物に関して同じ質問を考えてみてください。例えば、以前のブックで引用された文章が、様々なテーマについて、あなたの考えをどのように照らしたでしょうか。その後、万国正義院のガイダンスに関する同様の話し合いを行ってください。

セクション 26

私たちは、聖典や書物の一節を暗記することが、大業を教える努力にとって、いかに重要であるかを見てきました。しかし、私たちはまた、バハオラの教えを伝える際に、自分の言葉を使う必要があることも知っています。信教の聖典や書物の一節一節を、人々に対して、ただ順々と引用することはできないからです。引用文は、私たちの会話や話し合いの中に自然な形で織り込まれるべきです。そこで問題です。どうすれば、私たちの言葉が会話の相手の心に触れ、彼らがバハオラに引きつけられ、その啓示の大海の岸辺に到達するのを助けることができるのでしょうか。

その答えは明らかに、自分の言葉を使いながらも、私たちが話すことは完全に教えに沿ったものでなければならないということです。私たちが伝えるべきは、私たち自身の理論ではなく、可能な限り、純粋な形でのバハオラのメッセージなのです。そのためにはもちろん、聖典や書物に自らを浸し、常に信教についての知識と理解を深める必要があります。この関連で、守護者は次のように助言なさっています。

言わんとすることを常にバハオラや師が実際に遣われた言葉で証明することは、確かに理想的なティーチング方法です。そうすることは、個人の誤った解釈から大業を守るでしょう。真実はこれらの聖なる『光』が言われたことであり、私たちはその權威に従って発言すべきです。

だからといって、私たちの表現の自由が制限されるわけではありません。私たちは常に真実に近づく新しい方法を見つけ、あるいはそれが私たちの生活や状況に及ぼす影響を説明することができます。学習すればするほど、教えの意義をもっと深く理解できるようになります。²⁵

大業について知識を深めるということは、他の人々にそれを純粋な形で与え得るほどまでに、バハオラや師の書物を徹底して読むということです。多くの人は大業が何を表すかについて表面的にしか理解していません。そういう人は、自分自身の考えを混ぜ合わせて大業を人に伝えます。大業はいまだその初期段階にあるため、このような過ちに陥り、私たちの大切な『運動』を害すことがないように十分に注意する必要があります。

大業の学習には限りがありません。書物を読めば読むほど、もっと多くの真理をその中に見つけることができ、自分の以前の考えは間違いであったことにさらに気づくのです。²⁶

次の声明を読んで、どれが正しいか判断してください。単に、○か×をつけて満足しないよう注意してください。一連のアイデアは、聖典や書物を系統的に学ぶことの重要性を考える助けとなるはずです。

_____ 聖典や書物の学びは、高い教育を受けた人のためのものだ。それ以外の人は、基本的な考え方を簡単な言葉で説明してもらっただけでいい。

_____ すべての人が聖典や書物を学ぶべきだ。読むことに慣れていない人でも、他の人の助けを借りながら、一節ずつ勉強することができる。

_____ 私たちは聖典や書物を学び、信教をより深く理解することで、啓示に述べられている真理をより忠実に表現できるようになり、その結果、私たちの言葉は聞き手に大きな影響を与えるようになる。

_____ 大業を教えるときに聖典や書物に忠実であるよう努力することで、私たちは自らの思考と表現の自由に制限をかけている。

_____ 大業を教えるときに聖典や書物に忠実であれば、私たちの考えはより高いレベルに引き上げられ、他者の意見の奴隷^{どれい}になったり、狭い考えに制限されたりすることはない。

_____ 大業を教えるときに聖典や書物に忠実であれば、私たちはインスピレーションを受け、以前は考えもつかなかったような洞察や答えが心に浮かんでくるだろう。

_____ 信教の中心人物の一人が啓示した本や書簡を一度読んだら、再読する意味はない。

_____ 聖典や書物の一節を何度読んでも、そこに新たな意味や新鮮な洞察を見出すことができる。

_____ 人は、信教に関する情報を単に大量に蓄積するために聖典や書物を学ぶのではない。大切なのは、どれほど聖典や書物の内容を熟考し、そこに秘められた意味を理解しようと努める^{つと}かどうかだ。

_____ 私たちが信教を教えるとき、聖典や書物から得た真理を、一時的な人気を得るような表面的な考えを混ぜることによって曖昧あいまいにしてはならない。

_____ 非公式な会話に教えからの洞察を取り入れたり、友人や隣人の家を訪問して精神的に重要なテーマを学んだりするとき、バハオラの啓示の大海に見出された知恵の真珠から恩恵を受けるのは、会話かを交わす相手だけではない。私たちもまた、バハオラの聖典に秘められた深遠な真理への理解を深めている。

_____ インスティテュートのコースを進み、インスティテュートが奨励する奉仕活動を実行する中で、私たちは絶えず、信教に関する知識を深め、同時に共同体に奉仕する能力を高めている。

セクション 27

アブドル・バハと守護者によって解釈されたバハオラの教えと、そして、万国正議院から私たちが受け取るガイダンスに私たちの言葉を適合させることで、その言葉に大きな力が与えられます。この力は、もし私たちが実際に聖典や書物の一節を学び、自然に、かつ知恵をもって私たちの発言の中に織り込んでいけば、倍増します。しかし、私たちの言葉が、会話を交わす人々の心に響くためには、他の条件も満たさなければなりません。その条件の中でも特筆すべきは、単なる見せかけの愛ではなく、心から感じられる愛の力を伴っている必要があるということです。アブドル・バハは、ある講話の中で次のように述べておられます。

もし私が皆さんを愛みなしていれば、私の愛について話し続ける必要はありません。言わなくとも皆さんは感じとるでしょう。一方、もし私が皆さんを愛していなければ、それも皆さんは感じることができ、私が皆さんを愛していると何千回言っても、皆さんは私を信じないに違いありません。²⁷

愛とは、単に人が語る抽象的な原理ではありません。愛とは現実のものであり、人が他者を真に愛するとき、心と心きずなの間に、気高い感情や崇高なアイデアが流れる絆きずなが生まれます。一つの魂がもう一つの魂を高揚させ、喜びが双方を満たすのです。

アブドル・バハが最も信頼を寄せていた、熱心なバハイであるミルザ・アブル・ファズルは、友人たちに対して行った講話の中で、人類愛という概念を分析したことがあります。私たちの

誰もが、素敵な庭のある家の中でゆったりと腰掛^かけて、「私は人類を愛しています」と言うことがいかに容易^{ようい}であるかと、彼は説明しました。しかし、ミルザ・アブル・ファズルが指摘したように、愛は試^{ため}されて初めて本物になるのです。愛の戦い^{とう}に身を投じ、愛のために何度も何度も傷ついたとき、初めて私たちは「(私は)愛しています」という言葉を堂々と、そして確信を持って、口にすることができるのです。だから、自分の心に愛があると主張する人は、自分自身を試し、真の愛の条件をすべて満たしているかどうかを確かめなければならないと彼は続けました。

これらの条件にはどのようなものがあるでしょうか？ 実直^{じつちよく}さと誠実さ、寛大さと公平無私、許しと信頼性がその条件に含まれることは明らかです。愛が存在するためには、これらすべてが必要であることはすぐにわかるでしょう。不誠実な愛とは、偽善以外の何でしょうか。愛が嫉妬と支配^{おさ}によって治められ、心の広さと寛大さによって治められないとき、その愛の結果は何でしょう。許しではなく、復讐^{ふくしゅう}に結びつく愛とは、どのような種類の愛でしょうか。もし私たちが信頼に足る人間でないなら、誰が私たちの愛に信頼を置くことができるでしょう。

愛についての上述の理解を念頭に、次に、ティーチングの力学に目を向けましょう。大業を教えるとき、あなたは同胞である人間とコミュニケーションをとっています。ただ抽象的に教えるのではありません。大切な友人、母親や父親、兄弟姉妹、夫や妻、子どもたちといった、あなたが愛する人に対して抱^{いだ}く感情について考えてみてください。これらの感情はとてもリアルなものです。もちろん、見ず知らずの人を、身近な人を愛するのと同じ強さで愛せると考えるのは無理があるでしょう。しかし、理解しなければならないのは、私たちはティーチングによって人類への愛を表現しているのであり、その愛は人類の個々のメンバーに対する具体的な愛に変換されるべきであるということです。人類という抽象的に理想化されたものに対して抽象的な愛を抱くだけでは十分ではありません。

この点で重要な疑問があります。その人が見知らぬ人であったとしても、バハオラのメッセージに耳を傾^{かたむ}けたいと思うほど惹きつけられた人を、私たちが愛さない理由にはどんなものがあるでしょうか？ この問いを考えると、アブドル・バハと人類に対するその愛を思い浮かべてください。アブドル・バハは、出会った人間、一人ひとりに愛と優しさを降り注^ふいだ^{そそ}いだのではないでしょう。

大業を教える際の愛の力についての理解を深めるために、次の声明が真実かどうか判断してください。

_____ 言葉は言葉です。心からの愛情をもって言っても言わなくても効果は同じです。

- _____ 言葉が愛に包まれていると、聞く人の心に、より大きな影響を与えます。
- _____ 私たちが愛することができるのは、母や父、あるいは大切な友達のような、知っている人だけです。
- _____ ほとんど知らない人を愛することは可能です。
- _____ すべての人間に愛を示すことは、ある種の聖人でもない限り不可能です。
- _____ 人類を愛するということは、すべての人間を同じ強さで愛するということです。
- _____ 見知らぬ相手が時間を割いて、信教について^きのあなたとの会話に参加してくれること、それ自体が、あなたの心にその人への愛を生むのです。
- _____ 「私は人類を愛しているけれど、誰かに大業を教えたり、バハオラを、今日の『神の顕示者』として受け入れることによってもたらされる偉大な恩恵を提供したりする気はない」と言うのは矛盾しています。
- _____ もし私たちが大業を教えないなら、それは人類への愛が十分ではないからです。
- _____ 大業を教えることをためらう人が人類を愛していないのではありません。恐怖心、自信のなさ、内気さなど、愛に満ちた人がティーチングをする上で妨げになる他^{さまた}の要因があるかもしれません。
- _____ 私たちは友達だけに大業を教えるべきで、見知らぬ人には教えるべきではありません。
- _____ 私たちは大業を教える相手、全員を愛するべきです。
- _____ 人類に対する愛が十分でないと感じたら、ティーチングするべきではありません。
- _____ ティーチングの行いは、同胞である人間への私たちの愛を高めます。ですから、愛が足りないことをティーチングしない言い訳にはなりません。
- _____ 信教を教えるという神聖な義務を引き受けるよう私たちを駆り立てるのは、神への愛であり、神に対する愛は私たちの心の中に人類に対する愛を生み出します。

セクション 28

ティーチングするとき、私たちは人類への愛を、そのメンバーの一人またはそれ以上への愛に変換している、ということを私たちは述べてきました。愛の力は、それが何か、あるいは誰かに向けられたときに表現されます。しかし、愛それ自体は限定されたものではないことを覚えておくべきです。愛は無制限で、果てしなく、無限です。この無限の愛は狭くて制限的な動機によって閉じ込められると、十分に表現することはできません。アブドル・バハは次のように私たちに述べられました。私たちが誰かを愛するとき、「無限の神の愛の光をもって愛するようにしましょう。神の中にある愛、また神に対する愛と同じ愛で愛しましょう」。神に対する愛は「人間の考えや想像を超えて聖別されています。私たちは、出会う「すべての人に限りない愛の光を投げかけ」るべきだと、アブドル・バハは述べられました。次の引用文を暗記しましょう。

おお、神の愛の^{ほのお}炎よ！光線は光を投げかけ、太陽は昇るべきである。満月は輝き、星はきらめくべきである。汝は^{なんじ}光線であるから、光や啓発を与え、地平線を輝かせ、神の愛の炎で世界を燃え尽きさせることができるよう、主に^{たんがん}嘆願せよ。我は汝がそのような地位を得ること、^{いな}否、それを^こ超えることを願う。²⁸

セクション 29

この章を終えるにあたって、私たち全員が人生において学ぶ、重要な事実を思い起こすべきでしょう。すなわち、聖なる援助がなければ、何事も成し遂げることにはできないということです。大業を教えるとき、私たちは聖なる援助を常に意識し、『至高の群衆』の軍勢に力を求めなければなりません。以下は、この主題に関する聖典からの多くの文節のほんの一部です。これまでの機会に暗記したことがなければ、ここで暗記するとよいでしょう。

神の正義にかけて^{ちか}誓う。この日、口を開き、主の名を述べるものの上には、全知者にして全賢者なるわが^{ぜんけんじゃ}御名^{みな}の天上より聖なる^{ぐんぜい}靈感の^お軍勢が降りてくるであろう。天上の集合もまた、^{おのおの}各々^{せいはい}純粋な光の^{たかだか}聖杯を高々とかけ、彼のもとを訪れるであろう。このことは栄光に満ち、最も力強い御方の命令により、神の啓示の領土において前もって定められたことである。²⁹

彼は、まことに、彼を援助する者^{みな}皆を援助されるであろう。そして彼を覚えている者^{みな}皆を覚えておかれるであろう。汝^{なんじ}らの主^{しゅ}、栄光に満ち給う御方、すべてを従わせる御方の慈愛^{じあい}の光輝^{こうき}を注いだこの書簡^{しょかん}はこのことを証言する。³⁰

言^{こと}挙げよ。おお、バハの人々よ、地上の権力者^{なんじ}が汝の力を奪うことのないように気をつけよ。また、この世の支配者が汝を恐怖で満たすことのないように気をつけよ。神に信頼を置き、汝の諸事^{しよじ}を神に預けよ。神はまことに、真理の力で、汝に勝利をもたらすであろう。彼はまことに、意のままになす力を持ち給い、そしてその手中^{しゅちゆう}に全能なる力の手綱^{たづな}を握り給う。³¹

その他に神がおわさぬ神にかけて誓^{ちか}う！もし、誰であれ、わが大業の勝利のために立ち上がったなら、たとえ何万もの敵が同盟を結んでその者に対抗したとしても、神はその者に勝利をもたらすであろう。そしてもしその者の、我への愛がさらに強まるならば、神は、天と地の全ての力を凌ぐ優勢^{ゆうせい}をその者に確立するであろう。こうして我は、あらゆる地域に力の精神^ふを吹きこんだ。³²

彼は目に見えぬ軍勢^{なんじ}でもって、汝らを助けるために到来し、天上の『集合』からの靈感の軍隊で汝らを支持するであろう。彼は、最高の樂園から甘い芳香^{ほうこう}を汝らに送り、天上の『仲間』のバラ園から吹き出る清らかな息吹^{いきふき}を汝らの上に漂^{ただよ}わせる。彼は、汝らの心に生命の精神を吹き込み、汝らを救いの『箱舟』に入らせ、彼の明らかな証^{あかし}と印を汝らに示される。まさに、これは溢るる恵^{あふ}みである。まさに、誰も否定することのできない勝利である。³³

おお、汝^{なんじ}ら、聖なる敷居^{しきい}の僕^{しもべ}らよ！天上の領土^{せい}に勢ぞろいし、整列している天の群衆^{い きようよう}の意気揚々とした軍勢は、奉仕の場へと、自信をもって馬を走らせる勇敢な騎手^{きしゅ}を援助し、勝利を保証すべく期待して待ち構えている。真の『知識』の力をもって武装し、戦場に馳せ参じ、無知の軍隊を分

散させ、誤りの軍勢を蹴散らし、聖なる導きの旗印を高く掲げ、『勝利のラッパ』を明快に鳴り響かせる恐れを知らない戦士は幸いなり。主の公正さにかけて！その戦士は輝かしき勝利を打ち立て、真の勝利を手にしたのである。³⁴

参考文献

1. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2010, 2015 printing), no. 177.1, p. 283.
2. *Tablets of Abdul-Baha Abbas* (New York: Bahá'í Publishing Committee, 1915, 1940 printing), vol. 2, p. 473. (authorized translation)
3. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 142.9, pp. 232–33.
4. From a letter dated 27 March 1933 written on behalf of Shoghi Effendi to a Local Spiritual Assembly, published in *Bahá'í News*, no. 73 (May 1933), p. 2.
5. *Tablets of Abdul-Baha Abbas* (New York: Bahá'í Publishing Committee, 1916, 1930 printing), vol. 3, pp. 716–17. (authorized translation)
6. *Tablets of Bahá'u'lláh Revealed after the Kitáb-i-Aqdas* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 1988, 2021 printing), no. 13.4, p. 241.
7. バハオラ、ケタベ・アグダス(最も聖なる書), par. 38, ; また、落穂集 71, par. 1.
8. 落穂集 149, par. 1.
9. 同上 158, par. 1.
10. 同上 154, par. 2.
11. *Tablets of Bahá'u'lláh Revealed after the Kitáb-i-Aqdas*, no. 13.9, pp. 242–43.
12. *Tablets of Abdul-Baha Abbas* (New York: Bahá'í Publishing Committee, 1909, 1930 printing), vol. 1, p. 194. (authorized translation)
13. 落穂集 115, par. 3.
14. 同上 139, par. 5.
15. 同上 129, par. 6.
16. 同上 99, par. 1.
17. *Tablets of Bahá'u'lláh Revealed after the Kitáb-i-Aqdas*, no. 9.10, p. 173.
18. *Prayers and Meditations by Bahá'u'lláh* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1987, 2008 printing), CLXXIX, par. 5, p. 303.
19. *Tablets of Bahá'u'lláh Revealed after the Kitáb-i-Aqdas*, no. 9.12, p. 174.
20. 落穂集 74, par. 1.
21. *Tablets of Bahá'u'lláh Revealed after the Kitáb-i-Aqdas*, no. 11.30, p. 214.
22. 落穂集 147, par. 2.
23. Bahá'u'lláh, cited by Shoghi Effendi, *The Advent of Divine Justice* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 2006, 2018 printing), par. 114, p. 125.
24. *Tablets of Bahá'u'lláh Revealed after the Kitáb-i-Aqdas*, no. 13.18, p. 246.

25. From a letter dated 16 February 1932 written on behalf of Shoghi Effendi to an individual, published in *The Importance of Deepening Our Knowledge and Understanding of the Faith: A Compilation of Extracts from the Writings of Bahá'u'lláh, the Báb and 'Abdu'l-Bahá and the Letters of Shoghi Effendi and the Universal House of Justice*, compiled by the Research Department of the Universal House of Justice (Inglestone: Bahá'í Publications Australia, 2021), no. 103, pp. 48–49.
26. From a letter dated 25 April 1926 written on behalf of Shoghi Effendi to an individual, *ibid.*, no. 93, p. 44; also in “The Universal House of Justice: A Compilation Prepared by the Research Department of the Universal House of Justice” (February 2021), par. 58.13.
27. アブドル・バハ、バリ講話集, no. 1.13.
28. From a Tablet of 'Abdu'l-Bahá (authorized translation)
29. 落穂集 129, par. 3.
30. Bahá'u'lláh, cited by Shoghi Effendi, *The Advent of Divine Justice*, par. 109, p. 115.
31. *Ibid.*, par. 113, p. 124.
32. Bahá'u'lláh, cited by Shoghi Effendi, *The World Order of Bahá'u'lláh: Selected Letters* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1991, 2012 printing), p. 106.
33. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 157.4, pp. 259–60.
34. *Ibid.*, no. 208.1, pp. 365–66.



ティーチングに必須の資質と態度

目的

効果的に信教を教えるために
必要な資質や態度について考える。

セクション 1

この一連のコースで定められた奉仕の道を歩む中で、皆さんはコースが要求する知識、技能、能力を身につけただけでなく、着実に進歩するために必要な精神的資質や態度のいくつかについても見識を深めたことでしょう。これまでのコースでも、そのような資質や態度についていくつか考察してきましたが、ここでは、ティーチングという神聖な行いに関連する、いくつかの具体的な資質や態度について考えてみましょう。その際、前の章で強調したように、決して忘れてはならないのは、「在り方」と「行い」は、精神的な生活において相補的で不可分の側面であるということです。内面状態を完成させ、精神的資質を発展させる努力は、私たちの在り方の中心となるもので、それは奉仕の分野で表現されなければなりません。そうすることで、この神聖な行いを際立たせる精神的資質が、私たちの中でさらに強化されることを確信しながら、私たちはティーチングするために立ち上がらなければなりません。この観点から、私たちがますます効果的に信教を広める手段となるために、私たちがますます大きく^{あらわ} ^{つと} 顕すよう努めるべきだと思う資質をいくつか挙げ、リストにしてみてください。

この後に続くセクションでは、いくつかの精神的資質に関する短い引用文が紹介されます。そのいくつかは、あなたが上で挙げた資質と同じものでしょう。各セクションに含まれている質問と練習は、一定の資質を伸ばすことで、大業を教える際のあなたの言動の有効性がどのように高まるかを検討するのに役立ちます。この時点で、ここでの私たちの話し合いが、完璧さを達成することに関心があるのではなく、完璧さに向かって努力することに関心があるのだと明確にすることが重要です。例えば、次のセクションでは、自分の心の純粋さを高めることが、ティーチングの分野での努力をどのように高めるかを考えますが、それは人が純粋さの^{しんすい} 真髄とならない限り、ティーチングはできないと示唆しているわけではありません。当然、聖典や書物は私たちが完璧さへと向かわせますが、私たちは目標を認識しなければ、どうやってそれを達成しようとするのでしょうか？

セクション 2

その書簡の一つにおいて、アブドル・バハは私たちに教えを広めるよう求めて、次のように述べておられます。

そのねらいはこうである。つまり、教えを広める者は動機が純粹で、心が独立し、精神が神に惹かれ、思考が安らかで、決意が確固とし、寛大さが卓越し、神への愛で輝く聖火でなければならない。¹

別の書簡で、師は私たちに熱心に勧めておられます。

この世とその住民から、自らを聖別し清めよ。万人を利することに向かつて働くことを目的とせよ。地上への執着を断ち、精神の真髄のように明るく繊細であれ。…確固たる決意、純粹な心、喜びに満ちた精神、そして雄弁な舌をもって神聖なる原則の普及に時間を費やすがよい。²

なぜ、純粹な心と純粹な意図がティーチングに不可欠だと思いますか？ もし私たちの意図が純粹でなくても、そう見せかけ、他者を納得させるのが非常に上手だとしたらどうでしょう？ ティーチングに関連して、容易に心に浮かぶ不純物として、優越感、承認欲求、野心などが挙げられます。それぞれがティーチングの行いにどのような影響を与えるかを説明してください。

1. 優越感: _____

2. 承認欲求: _____

3. 野心: _____

セクション 3

守護者の代理によって書かれた手紙で、次のように述べられています。

師は、私たちが自分を忘れ、全力を尽くして信教に奉仕しティーチングをするとき、神の援助を得られると保証されている。仕事をするのは私たちではない。私たちはただ神の大業を教え広める時に使われる手段にすぎないのである。³

他の手紙で、彼は説明しておられます。

精神的理解と、信教について深い知識を持った成熟した人なら、一人でも一つの国全体を燃え上がらせることが出来る。純粹で無私の水路を介して働く大業の力はそれほど偉大である。⁴

教えの精神に沿った人生を送るために、私たちは皆、エゴを取り除き、無私であろうと努力しています。この無私へ向かう旅において、私たちは、たとえ動機が純粹であっても、自己中心の罠に陥る可能性があることを理解しなければなりません。他の人の進歩や幸福に心から関心を持っていながら、あらゆる状況の中心にいたいという欲求に駆られることがあり得ます。「私が他の人を助ける」と考えるとき、この罠に捕らわれた人は「自分」に重点を置き、「他の人」や助けるという行いには重点を置いていません。あなたが、友人と信教について会話しているところを想像してみてください。意識的に自分本位、つまり自分をすべての中心に置くことを避けようとしているとしたら、次の声明の内、どれが、あなたの考えや感情を表しているでしょうか？

_____ 神がこの人の心を開き、真の理解を授けますように。

_____ 私自身の欠点が、この人が信教の真理を認める妨げにならないよう願います。

_____ ティーチングは気持ちの良いことです。誰かを真理で納得させる時、私は素晴らしい気持ちになります。

_____ これだけ丁寧に説明して、この人のために私はすべてをしたのだから、この人はバハイになった方がいい。

_____ 私の友人がバハオラを認め、バハオラの大業に奉仕する中で私が感じたのと同じ喜びを感じてくれることを願っています。

_____ 神よ、どうか私の心に正しい考えを置き、正しい言葉を与えてください。そうすれば、私はこの人の心に触れるような方法で教えを共有することができるでしょう。

セクション 4

アブドル・バハは述べておられます。

心をふるい起こし、現在を越えて、信仰の眼をもって将来を見ましよう。今日、種が蒔かれ、その種は地上に落ちました。それが一本の光栄ある樹木となり、その枝々が果実に覆われる日を思い浮かべましよう。この日の夜明けの始まりを喜び、それがいかに力強いものであるかを悟るよう努めましよう。それは実にすばらしいものです。神は、皆さんに栄誉の王冠を与え、皆さんの心に輝く星をちりばめてくださいました。まことにその光は全世界を明るくすることでしょう。⁵

次の言葉は、守護者から私たちへの助言です。

したがって、あなたは心の中に信仰の松明を燃え立たせるよう最善を尽くすべきである。なぜなら、それによって必ずや導きや力、そして最後には成功を見出すであろうから。⁶

誰かがバハオラを、今日の『神の顕示者』と認めた瞬間、その人の心に信仰の火花が灯ったことに、あなたはきっと同意するでしょう。そして、教える人はこの火花を灯す手段でなければならないということにも同意するでしょう。しかし、もし私たち自身の心に信仰の炎が燃えていなかったらどうでしょう。私たちは何をもって、聞き手の心に火花を灯せばいいのでしょうか。私たちは人を最も惹きつける会話を始め、最も雄弁な声明を述べることができますが、信仰がなければ、それらはほとんど効果を持ちません。なぜなら、聞き手は、私たちが言うことを私たち自

身が本当に信じているかどうか感じ取ることができるからです。そして、私たちの心の中で信仰の松明たいまつがより明るく燃えれば燃えるほど、他の人々がバハオラを認めるのを助けることができる可能性が大きくなります。しかし、ティーチングの場に足を踏み入れるとき、私たちは何に確信をもたなければならないのでしょうか？ いくつか挙げてみてください。例として、三つの文が下に示されています。

1. 聖なる援助の力への確信
2. バハオラの教えは人類が本当に必要としているものだという確信
3. あらゆる人にバハオラを認める能力があるという確信
4. _____
5. _____
6. _____
7. _____
8. _____
9. _____
10. _____

セクション 5

アブドル・バハは私たちを次のように促しておられます。

それゆえ、話しなさい。あらゆる集会において大いなる勇気を持って話しなさい。汝が発言しようとするとき、まずバハオラに向かい、聖霊の確証を求めなさい。それから汝の唇くちびるを開き、心に浮かんだことを言うのです。しかし、これは最大限の勇気、威厳いげん、確信をもってなされなければなりません。⁷

そして、守護者の代理によって書かれた手紙には次のようにあります。

バハイの教えを広める者は自信そのものでなければなりません。そこに

セクション 6

アブドル・バハは仰っています。

ティーチングは、信者がどのような状況下にあっても常に積極的に従事すべき活動です。なぜなら、神の確証はそれに依存するからです。もしバハイがティーチング活動に活発に心を込めて参加しないなら、その者は疑いもなくアブハ王国の祝福を受け損うでしょう。それでもなお、この活動は知恵によって調節されるべきです。そのような義務を忘れて沈黙することを求める知恵ではなく、むしろ、神聖なる寛容さ、愛、親切、忍耐、立派な性格、聖なる行いを示すことを求める知恵です。¹⁰

別の文節で、師は説明しておられます。

「人は自分の知っていることのすべてを明かすことはできない。また、明かし得ることのすべてが時機を得ているとは言えない。そして、時機を得た言葉のすべてが聞き手の能力に合致しているとも言えない」。これが、^{なんじ}汝の取り組みにおいて考慮すべき究極の知恵です。もしどのような状況下にあっても、行動する人であることを望むなら、このことを忘れてはなりません。最初に診断して病気を見極めてから治療薬を処方しなさい。これが熟練した医師の完全な方法だからです。¹¹

勇氣は知恵によって加減されなければなりません。これは知恵が勇氣を抑えるという意味ではありません。勇氣と知恵は手を取り合うものでなければならないのです。勇氣と知恵があるとき、私たちは果敢に行動の場へと入り、健全な判断と明確な思考をもって進みます。何を言い、何を言わないか、繊細な状況にどう対処するか、質問にどう答えるか。これらすべての決定が知恵をもって為されなければなりません。しかし、知恵が行動しないことの言い訳になってはなりません。私たちは、「これをするのは賢明ではない。あれをするのは賢明ではない」と常に言う習慣に陥ってはなりません。以下は、あなたが直面する可能性のある、いくつかの状況です。それぞれに対処する最も賢明な方法は何かと思いますか？

1. あなたは二人の人と信教について話し合っています。会話が進むにつれ、一人は信教に興味を抱いていますが、もう一人はそうではないことがはっきりしました。あなたはどうしますか？

2. あなたはある集まりで、ある人と会い、信教についての会話に進みました。その人はあなたの話に熱心に耳を傾けるものの、多くを言わず、質問もしません。あなたはどうしますか？

3. 信教に非常に関心のありそうな人が、信教についてもっと知りたいと、あなたを自宅に招きました。あなたは彼女に教えの様々な面を紹介し、訪問はうまくいっている様子です。彼女はあなたに、「聞いた話がとても気に入りました、信教は人類の問題に対する答えだと思います」と言います。そして、自分が翌日出席する政治集会で配れるように、信教に関するパンフレットをたくさん渡してほしいとあなたに頼みました。あなたはどうしますか？

4. あなたは自分の村で行われている2週間のキャンペーンに参加しています。その目的は、共同体づくりの努力に携わる人の数を増やし、受容性のある魂に大業を受け入れるよう誘うことです。もちろん、多くの家族は既に村でのバハイの活動を知っているか、何らかの形でそれらとつながっています。あなたはキャンペーンの日中、家庭を訪問し、家族の受容性に適したテーマで家族と会話をします。夜には、村の誰もが参加できる集まりが開かれ、信教の教えの様々な側面と、それらの共同体生活への影響について話し合われます。

ある晩、集まりに参加した人が、特定のバハイの法についてあなたに質問します。あなたは答えましたが、その人はその説明を受け入れませんでした。キャンペーンに参加している他の数人がその質問に答えようとしますが、しばらくすると、その人が、集まりに出席している人たちの目を意識して信教の評判を傷つけようとしていることが明らかになります。あなたはどうしますか？

5. あなたは、精神的教育のためのクラスに参加する子どもの数を増やしたいという希望を持って、近隣の家庭を訪問するチームのメンバーです。ほとんどの家庭は、既にクラスが開かれていることを知っており、近隣のこの発展に好意的で、喜んでクラスについてもっと知りたいと思っています。訪問の際には、バハイの聖典や書物にある特定の教育的な概念に主に焦点を当て、その概念は親御さんとの活発な話し合いを刺激します。しかし、ある家では、訪ねて来ていた親戚が懸念を表明し、あなたがクラスの子どもたちを信教に改宗させようとしているのではないかと示唆しました。あなたは どうしますか？

6. 以前からインスティテュートのコースを学び、ジュニアユース・グループのアニメーターとして奉仕していた若者が、信教への入信を決意しました。しかし、彼の両親は息子の決断に不安を感じています。あなたは どうしますか？

セクション 7

バハオラは次のように仰っています。

仲間のひとりがある真理を把握できないでいるとき、またはある真理を理解しようと努力しているとき、大いなる親切と好意の精神をもって対話せよ。その仲間より自分の方が優れているとか、才能に恵まれているなどと少しも考えることなく、彼が真理を発見し、認めることができるよう援助せよ。¹²

別の文節で、バハオラは勧告なさっています。

おお、バハの人々よ。親愛と友情の精神をもって万人と交われ。もし汝がある真理を把握し、他人の知らない宝石を有するならば、最高の親切と善意の言葉をもってそれを彼らと分かち合え。もしそれが受け入れられ、その目的を果たしたならば、汝の目的も果たされたことになる。また、もしそれを拒むものがあれば、そのものを放置し、神が彼をみちびくよう嘆願せよ。彼を不親切にあしらうことのないよう注意せよ。親切なる舌は人々の心を引きつける磁石である。それは魂の糧であり、言葉に意味という衣を授けるものである。それは、英知と理解力の光の泉である。¹³

私たちは皆、人々との関わりの中で慈愛と忍耐を示そうと努力しています。しかし、親切を他物と混同してはいけません。例えば、一見親切に見えることが、実はパターンナリズム(温情主義、権威者的態度)であるということがあります。人の能力を認識するのに困難があり、他者にしばしば親切さをもって接しますが、まるで子どもに対するように振る舞う人は、温情主義的です。偽善もまた、親切のように見せかけることができます。最大限の慈愛を示しながらも、本当は自分の利益を心の中で考えているのです。優しさと同じように、忍耐も時に誤用されることがあります。例えば、忍耐が怠慢の言い訳になることもあるでしょう。これらのアイデアについてさらに考えるために、以下の練習問題を解いてください。

1. あなたは誰かに信教の教えをととも親切に説明します。しかし、最後に彼女があなたに対してある反対意見を述べると、あなたはイライラします。あなたの親切は誠実でしたか？

2. 正式な教育を自分より受けていない人たちに信教を紹介するとき、あなたは度々話を止めて、「ねえ、わかりますか？」と言います。これは親切でしょうか、それとも温情主義たびたびでしょうか？
-

3. あなたは、正式な教育をほとんど受けていない人に信教を紹介しようとしています。あなたは、聖典にある深遠な概念の多くは、その人にとっては難しすぎると判断し、バハオラのメッセージをいくつかの単純な考えに縮小します。これは親切でしょうか、それとも温情主義でしょうか？
-

4. あなたは、正式な教育をほとんど受けていない人に信教を紹介しようとしています。時間はかかりますが、あなたは彼女に信教の本質的な真理について一通り説明し、聖典の関連箇所と一緒に読み、その意義について話し合います。これは忍耐でしょうか、それとも温情主義でしょうか？
-

5. 隣人の一人が信教に受容性があるように見えたので、あなたは彼女と一連の話し合いをすることにしました。会話の中で、あなたはとても親切に、彼女がバハイの教えの重要性を理解するのを助け、バハオラを認めるまで彼女の理解を育みます。彼女が共同体に加入した後も、あなたは彼女が教えについてさらに学び、他の人々と教えを分かち合うようになるまで、彼女を育て、援助し続けます。これは温情主義でしょうか？
-

6. 近隣の家庭を訪問するキャンペーン中、あなたは信教について学ぶことに熱心な様子の父親と出会いました。短い会話の後、彼は聞いた話が気に入ったことをあなたに告げ、読むための本をあなたに求めました。あなたは紹介のための小さな本を渡し、彼が忙しそうなので、数カ月待ってから再度訪問することにしました。これは忍耐でしょうか、怠慢でしょうか？
-

親切の形で温情主義や偽善が示される状況、または、忍耐の形で怠慢が示される状況が他に思い浮かびますか？

セクション 8

バハオラは宣言しておられます。

もしわが大業を教えひろめるために立ち上がるならば、彼らは、何ものにも束縛されぬ御方の息吹によって奮い立たされなければならない。そして決意を固め、思いをまったく彼だけに集中し、あらゆるものを完全に超越し、独立した心と、この世とその虚栄より聖別された魂とをもって、わが大業を地球上にひろく伝えなければならない。旅のそなえとして彼らを選び得る最高のものは、神への信頼である。また、最も崇高にして、栄光に満ち給う彼らの主の愛をもって身を装うことが彼らにとって最もふさわしいことである。これをなせば、彼らの言葉はその聞き手に影響をおよぼすであろう。¹⁴

アブドル・バハは述べておられます。

これらの人々は昼も夜も絶え間なく働き、苦難や苦悩をかえりみず、中断することなく努力し、休息を求めず、いかなる安楽や快適さも無視し、超然として、汚れることなく、生涯の過ぎゆく一瞬一瞬を神の芳香を拡散し、聖なる御言葉を高揚することに捧げるであろう。¹⁵

私たちはブック 2 の学びから、喜びあるティーチングの条件として離脱が必要であることを知っています。私たちが提供する奉仕が価値ある結果をもたらすことを望む一方で、その結果に執着しすぎたり、賞賛や批判に過度に影響されたりすると、私たちの歩みを早める喜びを失ってしまうことを認識しています。以下の文章を完成させることは、ティーチングの場に入るとき、離脱しているとはどういう意味かをさらに考える役に立つでしょう。

1. 大業を教えるために立ち上がるとき、私たちは_____奮い立たせられるべきです。
2. 大業を教えるために立ち上がるとき、私たちの思いを_____させるべきです。

3. 大業を教えるために立ち上がる時、私たちの心は_____し、_____しているべきです。
4. 大業を教えるために立ち上がる時、私たちの魂は_____されているべきです。
5. 私たちは、旅の最高の備えとして_____を選ぶべきです。
6. 私たちは自らを_____でもって装うべきです。
7. 奉仕の場へと足を踏み入れたなら、私たちは昼も夜も_____働くべきです。
8. 私たちは_____や_____をかえりみず、_____を求めず、いかなる_____も無視するべきです。
9. 私たちは超然として、汚れることなく、生涯の_____を_____し、_____することに捧げるべきです。

セクション 9

バハオラは述べておられます。

すべての人々が汝を通じて点火されるよう、大いなる熱意をもって人々を声たからかに召喚し、すべての世の主権者たる主のもとに呼び寄せよ。¹⁶

ショーギ・エフェンディは私たちに、次のように促しておられます。

… 公正さ、信念、理解、気力をもって彼の大業を教え広めるために立ち上がりましょう。これこそあらゆるバハイの最も重要で、火急を要する任務とすべきです。それを私たちの人生の支配的な情熱としましょう。¹⁷

もし私たちが、多くの人々をバハオラの啓示の大海へと導く努力を成功させようとするなら、信教を教えたいという情熱に駆られなければなりません。私たちの心が熱意によって灯されて

いなければいけません。私たち自身が喜びに満ち、熱心でなければ、どうやってバハイであることの喜びを伝えることができるでしょうか。しかし、バハオラのメッセージを他の人々と分かち合いたいという熱意のあまり、適切な範囲を超えて、私たちが教えたいと思う人々を遠ざけてしまわないように注意しなければなりません。この関連でよく耳にする言葉に「改宗」というものがありますが、これは人に対して信仰を変えるよう不当な圧力をかけることを意味します。バハイは誰かを改宗させることを固く禁じられています。しかし、改宗を避けるために、私たちのティーチングの努力が、何の効果もないような消極的で説得力のないものであってはなりません。

ティーチングに対する情熱と改宗の違いについて考えるために、以下の声明を読み、どのような場合に適切な範囲を超えてしまうか判断してください。それらに「超」をつけてください。また、以下の文章の内どれが、あまりに熱意がなく、効果的でないと思いますか？ それらに「不」をつけてください。どのような場合、あなたのアプローチは熱意があり、適切な範囲内でしょうか？ それらに「熱」をつけてください。

- _____ あなたは信教に強く惹きつけられているので、機会があるごとに、自然な方法で、知恵をもって、バハイの原則や教えを会話に取り入れている。適切なときには、自分の考えの源がバハオラの教えであることに言及する。
- _____ 人が信教について紹介を聞きたくないと思っても、あなたは事実上、強制的に聞かせるほど熱心だ。
- _____ 宗教について狂信的だと思われたくないので、信教について人から聞かれても短く答えるだけだ。しつこく何度も聞かれたら、最後に本を渡して自分で読むように言う。
- _____ とても開放的で受容性がある住民が住んでいる、多くの村で信教を教えるためにキャンペーンが組織された。実際、もしあなたがある隣人を訪問し、他の人の所に訪問をしなかったら、ほとんどの人が怒るだろうから、あなたのチームは、一軒ずつ訪問して信教を紹介するのが最良の方法であると決定する。
- _____ 最近、新しく信教に入信した人々に教えの知識を深めてもらおうと、隣の村で集中的キャンペーンが始まった。あなたは何軒かの家を訪ねるが、そのたびに家族の人から、あなたが探している人たちの不在を告げられる。あなたは落胆して、その場を立ち去る。
- _____ 最近、新しく信教に入信した人々に教えの知識を深めてもらおうと、隣の村で集中的キャンペーンが始まった。探している人たちのほとんどに会えなかったが、

あなたは出会った他の家族の人に挨拶し、村の人たちが開放的で受容性があることを知っているため、信教について会話をしたいか尋ねる。

あなたは隣村で教えているチームのメンバーです。その村の人々は正式な教育や公共医療をほとんど受けられないので、チームは、信教が彼らに対してできる良いことすべてを強調することが最良のアプローチであると判断する。もし彼らがバハイになったら、彼らの子どものために学校と小さな診療所を設立する手助けをすると約束する。

あなたは隣村で教えているチームのメンバーです。その村の人々は正式な教育をほとんど受けられないが、あなたは彼らの精神的な能力を信じており、バハオラの教えについて深く語り合うことを避けてはいない。あなたは村の議会のメンバーに、これらの教えに基づくインスティテュートのコースが、共同体をより良くするために働く能力を養うのに役立つことを説明する。あなたは再び村に戻り、若者たちの小さなグループが最初のコースを学ぶのを手伝いたいと申し出る。

あなたは、信教に関心のある人たちとのあらゆる集まりを、加入カードを配り、彼らが心を動かされたときにはいつでもバハイ共同体のメンバーになるように招待することから始める。

あなたはしばしば、信教に関心のある人々との集まりの初めに、バハオラのメッセージは全人類のためのものであり、その教えのいくつかをみなさんと分かち合えることが喜びであると伝える。また、彼らの心に浮かんだ疑問は遠慮なく質問すべきで、自分はできる限り、その質問に答えるということも述べる。集まりの終わりに、適切だと思えば、信教に加入することの意味を説明するが、もちろん、これは、プレッシャーを感じることなしに、各人が熟考すべき個人的な問題であると伝える。

あなたは、信教に関心のある人たちとのあらゆる集まりで、この集まりの目的は改宗させることではないと説明することから始める。あなたは単に彼らといくつかの考えを分かち合いたいだけだ。バハイ共同体に加入する可能性を考える前に、真理を調べる時間を彼らが十分に取ることが重要だ。

あなたは、これまでかなりの間、ある友人をティーチングしてきて、彼女の心に信仰の火花があることがわかる。なので、ある日、あなたは彼女をバハイ共同体に加わるよう招待した。

あなたは、これまでかなりの間、ある友人をティーチングしてきて、彼女の心に信仰の火花があることがわかる。なので、いつか彼女がバハイになるだろうと思い、バハイの活動に誘い続けている。

あなたは、自分が属す近隣地区で信教を教えるキャンペーンに参加するチームのメンバーです。あなたは話し合いや企画にあまり貢献せず、ほとんどの時間を携帯電話を見つめて過ごしている。キャンペーンが始まると、時々、携帯電話から目を離し、何が起きているのかを見たり、近隣の人々と会話をしているチームの他のメンバーへの同意を示してうなずいたりする。

あなたは、自分が属す近隣地区で信教を教えるキャンペーンに参加するチームのメンバーです。あなたのチームは公共の場所に行き、すれ違う人を呼び止め、「バハオラをご存知ですか？」と尋ねる。

あなたは、ある近隣地区の共同体づくりを強化するキャンペーンに参加している。主に最近、その地域に引っ越してきた数人の友人で構成されている、あなたのグループは、キャンペーンの初期段階の一部として、近隣地区について学び、人類に奉仕するという願いをもった若者と出会えるかもしれない、学校や公園、コミュニティ・センターといった空間をよく知るようになる。学んだことを基に、グループは様々な活動を行う計画を立てる。具体的には、これらの空間で過ごす、地元の中学校でプレゼンテーションを行う、夕方に集まりを開く、インスティチュートの推進する教育プロセスに関心を示す個人の家を訪問するなど。若い人たちに会うと、青年期の特別な特徴や、他の人たち、特に自分より若い人たちが知識や技術、精神的資質を身につけるのを助けることを学ぶことができる、奉仕の道を歩むことの意義について話し合う。あなた方は、もっと学びたい人がいれば、夕方に計画している集まりで会話を続けられるよう招待する。あなた方は、望む人は誰でも一連の幹コースを学び始めるのを助け、彼らが行う奉仕の行いに同行するよう準備する。また、すぐに信教を受け入れる人がいることも承知しており、そのような人たちをバハイ共同体に招くことをためらわないだろう。

あなたは、ある近隣地区の共同体づくりを強化するキャンペーンに参加している。主に最近、その地域に引っ越してきた数人の友人で構成されている、あなたのグループは、キャンペーンの初期段階の一部として、公園、学校、コミュニティ・センターで若者と話すことによりかなりの時間を費やし、夕方に行われる集まりに彼らを誘う。歌を歌ったり交流する時間はたっぷりあることを必ず強調し、結果として、若者たちのエネルギーを共同体への奉仕に向けて、どのように使うことが

できるか話し合うという集まりの目的は軽く扱われる。こうして彼らの興味を引き、友情の絆^{きずな}を結ぶことができれば、青年期の特別な特徴や奉仕の道を歩むことの意義について話をするのは簡単だと、あなたは確信している。夕方の集まりに参加した人のうち、招待された内容を理解した時点で残っているのはごく一部であることから、思い描いた目標を達成するには、より多くの人を引きつける必要があると判断する。

_____ あなたは、あなたの村の子どもクラスやジュニアユース・グループの若者のいる多くの家庭を訪問する1週間のキャンペーンに参加している。あなたのチームは、かなりの数の家庭を訪問し、受容性のありそうな家族をバハイ共同体に加わるよう招待する予定だ。あなたは、最良のアプローチは、地元の人々が気に入るだろうとあなたが思う2、3のアイデアだけに言及し、重要ではあるが、疑問を引き起こすかもしれない話題から遠ざかることだと判断する。その後、各家庭のすべてのメンバーを登録するよう招待する。

_____ あなたは、あなたの村の子どもクラスやジュニアユース・グループの若者のいる多くの家庭を訪問し、受容性のある人たちをバハイ共同体に加わるよう招待するという、1週間のキャンペーンに参加している。あなたのチームは、訪問した家族のほとんどがバハイの教えについて熱心に話し合い、ある家族はすぐに信教を受け入れ、またある家族はさらに探究したいと疑問を投げかけていることに気づく。あなたは、このキャンペーンが継続的で長期的な、拡大と強化のプロセスの一部であることを意識して、各家族と必要な時間を過ごし、生じた質問に答え、信教の教義についての彼らの理解を深めるようにする。このようにして、数的な成長と活動の増加への貢献に留まらず、各訪問によって、共同体に信教が深く根を下ろすことになる。

セクション 10

先に述べたように、私たちがティーチングの話し合いにおいて精神的資質を強調したのは、私たちが大業を教えるために完璧でなければならないということの意味しているのではありません。私たちはむしろ、自分の内面状態を常に振り返り、心の純粹さ、無私、信仰、勇気、知恵、慈愛、離脱といった資質をより高い次元で顕すよう努力しながら、立ち上がって信教に奉仕するよう求められているのです。もちろん、私たちの注意を必要とする資質^{けんきよ}は他にもたくさんあります。いくつか挙げるなら、寛大さ、度量の大きさ、確固不動です。しかし、謙虚さという資質について話し合わないのであれば、このテーマにおける探求として不十分でしょう。

謙虚さのあり方は、もちろん、捉えがたいものです。私たちが神に魅せられ、「自己」を忘れ、神のご意志に従うようになるとき、私たちの言葉や行動に力が吹き込まれるようになります。アブドル・バハは述べておられます。

教えを広める者はティーチングをする時、燃え立っていないなければならない。それにより、その者の発言は炎のように影響を及ぼし、自我と熱情のヴェールを焼き尽くすように。その者はまた、他の人が啓発されるように完全に謙虚で慎ましくなければならない。そして、天上の『群集』のメロディーを持ってティーチングができるよう、完全に自己を消し、儼くなるべきである。そうでなければ、そのティーチングは効果をもたらさないであろう。¹⁸

そして、大業の真理を認識するよう他の人々を助ける私たちの努力について、アブドル・バハは述べておられます。

栄光あるこの宗教制における神の教えに従って、私たちはいかなる人をも軽んじてはならず、また、「あなたは知らないが、私は知っている」と言っ
て、相手は無知呼ばわりしてはなりません。むしろ、他者を尊敬の念をも
って見つめ、説明し実証しようとするときには、あたかも自分たちが真
理を探求しているかのように話すべきである。「私たちの前にこれらの事柄
があります。真理がどこに、どのような形で見出されるのか、探求してみ
ましょう」。教えを広める人は、自分は学識があり、他人は無知であると思
えてはならない。そのような考えは高慢を生み、高慢は影響力をもたらさ
ない。教えを広める人は自分の中に優越性を見るべきではなく、最大限の
親切心、慎ましき謙虚さをもって語るべきである。そのような語りは影
響力を及ぼし、魂を教育するからである。¹⁹

上記の最初の引用文で言及されている熱情と、前のセクションで論じた情熱の違いは何でしょうか？

グループの他のメンバーと共に、謙虚さが、私たちの言葉が発揮する影響力をどのように増大させるかについて話し合ってください。あなたの考えをいくつか書いてください。

セクション 11

前のセクションの話し合いでは、謙虚さに関連するもう一つの注目すべき点を提起しました。ティーチングしようとする努力の効果は私たちが顕す精神的資質に依存することを意識して、確かに、私たちは常に自分の人格を完成させ、内面状態を向上させるよう努力しなければなりません。しかし、ティーチングの分野で成し遂げたことが自分自身の功績の結果であると、一瞬たりとも思い込んではいけません。謙虚さは、自惚れの感情を持つことから私たちを守ってくれます。

私たちは常に、大業を教える上での達成を自分自身から切り離さなければなりません。ある魂がバハオラを認めるのを助けるために私たちが果たすどのような役割も、神によって私たちに与えられた贈り物です。神は、神が働かれる媒介となる人たちを選ばれます。私たちはただ、神が働かれる水路となることを望み、神の手段となれるような資質を身につけるよう努力するのです。『かくされたる言葉』に、次のようにあります。

わが前にへりくだれ。さればわれ汝を恵み深く訪わん。わが教えの勝利のために立て。されば汝この世にて勝利を得ん。²⁰

ショーギ・エフェンディの代理によって書かれた手紙の中の次の一節は、私たちに警告を与えてくれます。

あなたがティーチングの分野で、さほど成果を上げていない理由は、自分の弱さと、メッセージを広めることに対する無力さに目を向けているからでしょう。バハオラと師は、自分自身の短所を顧みることなく、神へ

ぜんぶく
全幅の信頼を置くよう繰り返り力説りきせつされました。私たちが立ち上がり、神の恩恵が流れる活発な水路となりさえすれば、神は私たちの力となってくださるでしょう。相手を改宗かいしゅうさせ、人の心を変えるのが教えを広める者だと考えますか？ とんでもありません。教えを広める者とは最初の一步を踏み出し、その後はバハオラの精神に動かされ、使われるままになる、純粋な魂にすぎません。もし誰かが、たとえ一瞬たりとも自らが達成したことを自分の能力によるものだと考えるなら、その者の仕事はそこで終わり、墮落だらくが始まるのです。実際、多くの有能な魂が素晴らしい奉仕すばの末に、突然、自分が全く無能であることを発見し、ことによると、大業の『霊』により役立たずの魂として捨てられたのは、実はこれが理由なのです。ことを左右する基準となるのは神のご意志が私たちを通して働く上で私たちがどの程度準備ができているかです。

ですから、自分の弱さを意識することを止め、神に完全な信頼を寄せなさい。神の大業に奉仕し彼の呼びかけを宣布しようとして熱望する心を持ちなさい。そうすれば当然のこととして、雄弁さと人の心を変える力を授かるということを見出すでしょう。

ショーギ・エフェンディは、あなたが立ち上がり、教えを広め始めるなら、その成功を必ずや祈るでしょう。事実、立ち上がるという行為だけであなたは神からの助けと祝福を受けるのです。²¹

高慢ごうまんさや傲慢さが、大業を教える上で、私たちがどのように無力にするのか、いくつか例を挙げられますか？

さて、高慢さがティーチングに関連して取り得る、様々な形について、さらに考えるために、次の練習問題を行いましょう。

1. ある近隣地区で、共同体づくりの活動に関わりがある個人や家族に信教を教える集団的な取り組みが進行中です。参加者はチームに分かれ、以前の機会に効果が実証されているアプローチを活用するよう求められています。しかし、ある参加者は、このアプローチでは、自分の最も優れた才能だと考えている才能を發揮できないと感じています。この人に高慢さが無いことを示す反応は、次のうちどれでしょうか。

_____ 自分の才能を思うように發揮できないので、取り組みに参加することを拒否する。

_____ 喜びをもってこの取り組みに参加し、必要であれば仲間である他の参加者と共に働き、自分の他の能力を活用する。

_____ 参加者の才能や能力をすべて引き出していないから、この取り組みは良いアプローチを用いていないと言って、集団的な取り組みの欠点を見つけようとする。

2. ある近隣地区で奉仕している友人グループが、その地域の別の近隣地区で優れた結果をもたらしているティーチングのアプローチについて耳にしました。高慢さ、または知恵の欠如のいずれも表していない、グループ側の対応として最も適切なものはどれでしょうか。

_____ そのアプローチを検証することなく、状況が違うのだから自分たちの近隣地区ではうまくいくはずがないと結論づける。

_____ ある場所でうまくいったのだから、他の場所でもうまくいくはずだと結論づけ、そのまま即座に採用するべきだと結論づける。

_____ アプローチの全部または一部が新しい環境でも機能するかどうかを注意深く

検討し、それに基づいて アプローチを活用し、経験から必要だと思えば、どのような形であれ変更を加える。

3. 共同体づくりのプロセスがかなり進んでいる近隣地区のある人が、信教の機構からの要請で近くの近隣地区を訪れています。そこでの努力は進んではいますが、十分とは言えず、彼女は友人たちの努力を助けるように頼まれています。次のうち、彼女に高慢さが無いことを示す対応はどれでしょうか。

_____ 機構によって派遣されたことを近隣地区の友人たちに明らかにし、彼らに従ってもらうための長い指示リストを提示する。

_____ 自分が住んでいるところの進歩について、絶え間なく、そして熱烈な言葉で話し続け、訪問している先の近隣の人たちが自分たち自身の現実における経験を共有する機会を与えない。

_____ 近隣地区の友人たちの経験談に耳を傾け、彼らと共に計画や行動に参加し、適切であれば、彼女が住んでいる近隣地区で学んだことで、次のステップを決める際に役立ちそうなことを共有する。

4. より多くの若者たちに、自分の才能や能力を伸ばし、共同体の改善に貢献する方法についての会話に加わってもらうためのキャンペーンが、近々、ある近隣地区で着手されます。興味を示した若者たちは、奉仕の能力を高めるため、インスティテュートのコースに招待されます。キャンペーン参加者は全員、二人一組のチームに分けられ、あるチームでは、経験豊富な人が、まだ実践の場で勇気と自信を得ていない経験の浅い人とペアを組みます。次のうち、経験豊富なメンバーに高慢さが無いことを示す対応はどれでしょうか。

_____ 経験の浅いメンバーが若者と話すときは頻繁に話を中断し、最終的には会話を自分が引き継ぐ。

_____ 若者との会話で経験の浅いメンバーにほとんどの話をさせながら、その人がしたと思われる間違いを頭の中書き留めておいて、後で、その欠点について話し、行われるべきだった会話の進め方を教えることができるようにする。

_____ 会話の大半は自分から始めるが、すぐに経験の浅いメンバーを会話に引き込み、その人が若者との会話に慣れていくのをサポートする。

セクション 12

これまでのセクションでは、謙虚さは私たちの話し方に影響力を与え、精神的に成長しようとする私たちを落とし穴から守ってくれる資質であることを考察してきました。謙虚さが私たちの人生にもたらす、もう一つの重要な貢献があり、それは特にティーチングに関連しています。謙虚さは、私たちが行うすべてのこと、特に大業に奉仕する私たちの努力において、学ぶ態度で取り組むことを可能にしてくれます。そのような態度がないと、私たちは自分の無知に盲目になり、自分が知らないことを知っていると思い込む傾向があります。神の道を謙虚に歩む人の最も称賛に値する特徴は、学ぼうとする姿勢です。

大業を効果的に教えたいと願う私たちにとって、学ぶことに対して開放的な態度を持つことが、なぜそれほど重要なのでしょうか？ この質問に答えるために、あなたがティーチングについて知っていることを振り返ってみてください。あなたは常に、取るべき最も適切なアプローチを知っていますか？ 目の前で展開する、あらゆる状況において、何を、どのように話せばよいかを知っていますか？ 非常に神聖な行いについて知るべきことを、一つ、または二つのコースですべて学ぶことが可能だと思いますか？ ティーチングは、一つの公式に還元できるものなのでしょうか？ これらの質問に対する答えが「いいえ」であること、そしてティーチングの効果を高める唯一の合理的な方法は、学ぶ姿勢をとることであることに、あなたはきっと同意するでしょう。

大業をより効果的に教えようと努力するとき、私たちはティーチングの方法やアプローチについて、共同体の他の人たちと議論する罫に陥らないように注意しなければなりません。もし注意深くなければ、私たちは簡単にこの種の議論に巻き込まれ、それぞれが正しい「公式」を見つけたと信じ、ティーチングが自分たちのやり方で行われたい限り、「成功」は不可能だと思いついてしまおうでしょう。

大業を教えるということは、学ばなければならないことだと理解すれば、このような行動を避けることができます。あらゆるティーチングの努力の中に、洞察力を身につけ、精神的な力学の理解を深める機会を見出すとき、私たちは自らに課した制限から解放されるのです。私たちが意見を交換し、経験を分かち合い、何が効果的なティーチングに寄与するかを分析するとき、仲間のバハイとの話し合いは最も実りあるものになります。私たち一人ひとり、次のことをするよう励まされています。

周囲で効果的にティーチングを実施する方法を定期的に振り返り、…信仰の恵みを与えられた魂は、親戚、友人、クラスメイト、同僚、そしてそれまで出会うことのなかった人々との会話を通してこの賜物を共有した

いという自然な願望をもっており、どこでも、そしていつでも聴く耳を探し求めています。さまざまな場面や状況がさまざまな方法に役立ちます。友らは、自分がいる場所で何が最も効果的であるかについての継続的な学びの過程に専念すべきです。²²

以下に示す状況を読んでください。もしあなたが、あらゆるティーチングの努力の中に学ぶ機会を見出そうと決心しているとしたら、それぞれの状況にどのように対応しますか？

1. あなたは、信教について話し合う集まりを毎週自宅で開くことに決めました。あなたは、それぞれ異なる機会に興味を示した 10 人ほどの人々を招待します。毎回、あなたは何かテーマを選び、それについて準備しておいた短い話をしてから、質疑応答に入ることで集まりを始めます。その後、交流したり歌を歌ったりする、もてなしの時間を持ちます。数週間後、2 人だけがまだ参加し続けています。あなたは決めます…。

_____ 集まりをもっと楽しく、社会的にする必要がある。

_____ 週ごとの集まりはティーチング計画から外すべき。結局のところ、そんなにいいアイデアじゃなかったんだ。

_____ 次の何回かの集まりで新しいやり方を試してみるべきだ。おそらく、特定のテーマについて、ゲストと一緒にいくつかの引用文を勉強し、聖なる御言葉に親しんでもらい、その経験を土台にしよう。

_____ もう来なくなった人たちをすべて探し出し、集まりに出席しなくなった理由をたず尋ねるべきだ。

2. あなたが信教について学んでいたとき、最も感銘を受けた原則がいくつかありました。だから今、あなたは人々にティーチングする最善の方法は、同じ原則を人々に示すことだと感じています。しかし、一般的に、話す相手は、あなたが表現するアイデアに特に熱意を感じているわけではないことに気づきます。あなたは決めます…。

_____ 原則を提示する練習がもっと必要だ。

_____ 自分と同じような人を探し、彼らだけにティーチングするべきだ。

_____ 自分は生まれながらの、教えを広める人ではないから、他の方法で信教に奉仕するべきだ。

_____ 今後、出会う人々の心の中にある悩みを理解し、彼らとの会話に信教の関連する教えを取り入れるように努めるべきだ。

3. あなたは、ある特定の人々に焦点を当てて、バハオラのメッセージを伝えることを決めたチームの一員です。しばらくして、あなたは、出された質問から、彼らが皆、一般に広まっている、神の概念に難色なんしよくを示しているように見えることに気づきます。チームは決めます…。

_____ この話題については話さない方がいい。話し合いの中で、この話題を出されたら、すぐに別の話題に移ることにする。

_____ 神という概念に難色を示す人は信教への受容性がないので、彼らにティーチングしようとして時間をかけるべきではない。

_____ もっと経験のある人に同行してもらい、訪問した先の人々と神の存在について話してもらおう。それでもだめなら、その人たちから離れ、もう主張しない。

_____ 聖典や書物の関連箇所をいくつか勉強した後、あなたのチームは、訪問した先の人々が、神についてバハオラが教えていることを理解するのを助けるための短い声明と一緒に準備する。彼らの反応に耳を傾け、その結果を振り返り、提起された質問に対する答えを見つけるために聖典や書物に戻り、チームが経験から得た洞察と、一緒に勉強した箇所から得た洞察に照らして声明を修正する。この作業を、努力が満足のいく結果をもたらすようになるまで続ける。

4. あなたは、ある近隣地区で非常に効果的なティーチング・キャンペーンに何度か参加したチームの一員です。かなりの数の家族が大業を受け入れました。彼らが信教についての知識を深めることがいかに重要であるかを認識し、あなたのチームはほとんどの家庭を定期的に訪問し、家族の人たちとブック2の第三章で扱われたテーマについて話し合いました。今、チームは、信教への彼らのコミットメントを高めると同時に、バハオラの教えを他の人々と分かち合うことができるようにするために、どのように進めるべきか悩んでいます。チームは決めます…。

_____ 幅広いテーマに関する30の講話のリストと一緒に準備し、訪問のたびに新しいテーマを紹介する。選んだすべてのテーマをカバーするよう、忠実にリストに従う。

_____ 各家族に信教に関する小冊子を渡し、訪問と次の訪問の間に一定のページ数を読むように頼む。訪問している間に、彼らからの質問について話し合う。

- _____ チームは、時間がかかりすぎるアプローチの活用を心配している。そこで、一
家族ずつ訪問を続ける代わりに、毎週、誰かの家で信教について話し合う集
まりに招待する。「本当に学ぶことに関心のある人は来るでしょう」と、あなた
方は互いに言い合う。
- _____ 信教に関連する基本的なテーマで、彼らがもっと知りたいと思うものを一つ考
え、そのテーマに関連する箇所を聖典や書物の中から探す。その後、いず
れかの家庭を訪問し、選んだ聖句を分かち合い、意見を交換する。その後、
集まりの結果を振り返り、聖典や書物に戻り、必要に応じて選んだ箇所を修
正し、別の家庭を訪問する際に修正した箇所を用いる。一方、最初の家族を
訪問したときのコメントを踏まえて、二回目の訪問のときに一緒に勉強する別
のアイデアと引用文を選ぶ。このようにして、一連のテーマを中心とした定期
的な訪問のパターンが確立するまで続ける。同時に、同じテーマについて、
隣人や親戚、友人とどのように話し合うことができるかを家族と共に検討する。

セクション 13

前のセクションの練習問題は、個人的なティーチングの努力に、または集団的な努力に携^{たずさ}
わる上で、私たちが行動し、その結果を振り返るときに、いかに重要な疑問が生じるかを理解
するのに役立ったでしょう。私たちがこのような学びの姿勢をとるとき、何度も出てくる疑問の多
くは、ティーチングへのアプローチの仕方や、この神聖な行いを遂行する際の態度に関係して
きます。大胆であるべきか、慎重で保守的であるべきか？ 会う人すべてにバハオラのメッセー
ジを即座に提供すべきか、それとも選んですべきか？ 今日の人類のための宗教としての信教
について直接話すべきか、それとも人々に受け入れられやすい原則の一般的な話し合いに
会話を限定すべきか？ 聞き手にとって挑戦的であるとわかっている教えの側面に触れるべき
か、それとも、そのような話題はすべて、その人が信教を受け入れた後に話すべきか？ 説得
力を持たせるために、プレゼンテーションを強く圧倒的なものにすべきか、それとも、できるだ
け熱を込めずに話すべきか？

以下の一節で、守護者はこの点について貴重なアドバイスをしておられます。見慣れない
言葉も出てくるかもしれませんが、引用文を勉強する前に、以下の言葉の定義のリストを参
照しておくといでしょう。

挑発的: 相手に怒りや強い不同意を起こさせる

怠惰^{たいだ}: のんびりしている

狂信的: 誤った、または極端な熱意で満たされている

極端に: 標準、または適切な範囲を超えている

自由主義的: 度量が大きい。伝統や規則^{しぼ}に縛られていない

譲歩的に: 相手に対して折れることをいとわない

俗人^{ぞくじん}: 聖職者ではない人

妥協のない: 妥協を許さない、断固としている、不動

では、守護者の著作からの引用文を読みましょう。

バハイの教えの基本的かつ際立^{きわだ}った特徴を説明する際は、挑発^{ちょうはつ}的であっても怠惰^{たいだ}であってもならず、また、狂信^{きやうしん}的であっても、極端に自由主義的であってもいけません。出会った相手が、貴族あるいは平民であろうと、北部人あるいは南部人であろうと、俗人^{ぞくじん}あるいは聖職者であろうと、資本主義者あるいは社会主義者であろうと、政治家あるいは王子であろうと、職人^{ものご}あるいは物乞いであろうとも、その人自身の精神的受容性に厳密にしたがって、ティーチングを慎重に、あるいは大胆にするか、敏速^{びんそく}に行動するか、あるいは好機が来るまで待つか、直接的あるいは間接的な方法にするか、挑戦的あるいは譲歩^{じょうほ}的にするかを選択しなければなりません。バハオラのメッセージを伝える時、ためらったり、怯^{ひる}んだりしてはなりません。貧しい人を軽蔑^{けいべつ}したり、地位の高い人の前^{おくびょう}で臆病^{おくびょう}であってはなりません。バハイの真理を説明する時は、聞き手が王族の一員であろうと、教会の第一人者であろうと、政治家であろうと、商人であろうと、市井の人であろうと、自らが掲げる真理を強調し過ぎたり、切り取ってはなりません。地位の高い人あるいは低い人に対しても、富める人あるいは貧しい人に対しても、すべての人に対して同じように両手を開いて、輝く心、雄弁な舌、無限の忍耐力、妥協^{だきょう}のない忠誠心^{しんえん}、深遠な英知、揺るぎない勇気^{ゆう}をもって、この危機の時に『救いの杯^{さかづき}』を差し出さなくてはならないのです ...。23

1. ショーギ・エフェンディは私たちに述べておられます。大業を教えるとき、私たちは信
教の_____かつ_____特徴を_____
_____際は、_____であっても_____であってもいけま
せん
2. また、私たちは説明する際に_____であっても、_____
_____であってもいけません。
3. 出会った相手の_____に厳密にしたがって、ティーチ
ングを_____に、あるいは_____にし、_____行動し、
あるいは_____待ち、_____
あるいは_____な方法を用い、_____あるいは_____
_____でなければなりません。
4. 大業を教えるとき、出会った相手が、貴族あるいは_____であろうと、北部人
あるいは_____であろうと、俗人あるいは_____であろうと、資本主
義者あるいは_____であろうと、政治家あるいは_____
_____であろうと、職人あるいは_____であろうとも、その人自身の_____
_____に厳密に_____行動しなければなりません。
5. バハオラのメッセージを伝える時、私たちは_____、_____
_____してはなりません。
6. 貧しい人を_____したり、地位の高い人の前で_____であっては
なりません。
7. バハイの真理を説明する時は、聞き手が_____であろうと、_____
_____であろうと、_____であろうと、_____
_____であろうと、_____であろうと、自らが掲げる真理を_____

_____はなりません。
8. すべての人に対して同じように_____手を開いて、_____心、_____
_____舌、_____忍耐力、_____忠誠
心、_____英知、_____勇気をもって、
この危機の時に『救いの杯』^{さかづき}を差し出さなければなりません。

セクション 14

では、上記の引用文をさらに詳しく調べ、その実践的な意味をいくつか発見しましょう。

1. この引用文は、私たちが大業を教えるとき、挑発的な表現をしてはならないと述べています。以下にいくつかの状況を挙げます。あなたのプレゼンテーションが挑発的であるものに「挑」をつけてください。

_____ 人類が新たな顕示者を必要としていることを他の信教の敬虔な信者に示すために、まず、その人の宗教が間違っている、すべての事柄に注意を向けさせることから説明を始める。

_____ 他の信教の敬虔な信者に、神の顕示者は太陽の光を反射する鏡のようなものだとして説明する。彼らは神の資質を映し出し、神の聖なる属性を明らかにする。『鏡』である彼らが異なるとしても、彼らはすべて同じ『太陽』の『光』を反射しているのだ。このようにして、バハオラを受け入れることは、バハオラより前に来た顕示者たちを拒否することではないことを、その人が徐々に理解するのを助ける。

_____ あなたは、神を信じているのかどうかわからない人にティーチングしている。まず、その人に、バハオラが神の最高の顕示者であることを伝えることから始める。

_____ あなたの家に小さなグループが集まった。出席者のほとんどは信教に大きな関心をまだ示しておらず、あなたは彼らの関心を引くような方法で教を紹介したいと考えている。話し合いの流れの中で、あなたは「将来、誰もがバハイになる」と力強く述べる。

_____ あなたは、人生における、あらゆる快適さを享受している人に対して、富は人と神との間を遮るヴェールである、と言ってプレゼンテーションを始める。

_____ あなたは、信教について学ぶことに純粋な関心を抱いている聖職者に会い、バハオラの教えのいくつかを説明してほしいと頼まれた。あなたはまず、この時代に、神は聖職を廃止されたことを伝える。

2. 大業を教えるとき、私たちは怠惰になってはいけません。次の状況のどれで、あなたのはのんびりしすぎていますか？ 該当するものに、「怠」をつけてください。

_____ ある人がバハイ信教のどこが特別なのかと尋ねる。あなたの答えは、「バハイ信教は他の宗教と同じです。その本質は、親切であること、互いに愛し合うことです」

_____ あなたが人にティーチングする方法は、信教が誰にでも受け入れられる崇高な原則の集まりであると示そうとすることだ。例として、次のように言う。「平和の確立、これを感じない人はいないでしょう」。こうして、彼らが信教に惹かれるようになったら、あなたは彼らを放っておいて、ときどき、望むなら本を読んでもいいと言う。そこまでがあなたのすることだ。

_____ 信教を受け入れようとしている人が、財政や献金について、あなたに尋ねる。あなたは、「もちろん、人生の他のことと同じように、物事を行うにはいくらかのお金が必要です。しかし、献金したい場合にのみ献金すればいいんですよ」とだけ答える。

_____ 信教を受け入れようとしている人が、財政や献金について、あなたに尋ねる。あなたは、信教の資金に貢献することはすべての信者の神聖な義務であることを告げ、より高いものを受け取るために、より低いものを諦める^{あきら}という犠牲^{ぎせい}の精神的意義を説明する。「基金への寄付は、より良い世界を築くための私たちの活動に不可欠なものです」。

_____ しばらくの間、信教を学んでいる友人が、永遠の聖約の概念について説明してほしいとあなたに頼む。あなたは、それは実に簡単なことだ、と次のように言う。「神と人類の間には契約がある。神は、時代ごとに顕示者^{つか}を遣わされ、私たちは彼を認め、彼の言うことを実行するよう最善を尽くすのです」。

_____ しばらくの間、信教を学んでいる友人が、永遠の聖約の概念を明確にしてほしいとあなたに頼む。あなたは簡潔に、次のように説明する。私たちに対する愛から人類を創造した神は、私たちを決して置き去りにはされず、時代ごとに、神の顕示者を通して、そのご意志と目的を私たちに知らせることを約束された。私たちの方では、私たちの時代の顕示者を認識し、彼の教えに従うことを約束する。

3. 大業を教えるとき、私たちはそのプレゼンテーションにおいて狂信的であってはなりません。以下のいくつかの状況の内、あなたのプレゼンテーションが狂信的であるものに「狂」をつけてください。

_____ 信教について調べている人が、バハイになるのはどういうことかと、あなたに尋ねる。あなたは、バハイになることは小事^{しょうじ}ではないと、その人に言う。「信教にすべてを捧げなければなりません。全てか無か、です」

_____ あなたは、初めて信教について聞きに来た数人の人々に、手をつないで「アラホ・アブハ」を歌うように頼んで、自分の家での集まりを始める。

_____ あなたは他の宗教の敬虔な信者に、その宗教の時代は終わったのだと言って、ティーチングを始める。その人は自分の宗教を捨てるべきだ。あなたはその人に言う。「今日の神の使者であるバハオラが来られたのです。あなたは過去を捨てるべきです」

_____ あなたはある人に信教を説明している。彼は、あなたが提起した論点の一つに反対している。あなたは、彼の宗教の聖典から、その人が間違っている証拠を見せると言って反論を始める。

_____ あなたはある人に信教を説明している。彼はあなたが提起した論点の一つに反対している。あなたは、その人がそのテーマについて非常に熱心に感じていることがわかる。あなたは彼の懸念^{けねん}を認め、こう言う。「お望みなら、この点については別の日に話し合しましょう。でも、私たちが同意できることはたくさんあります。今日は、そうしたことを一緒に探^{さぐ}っていきましょう」。

_____ あなたは友人に信教の法を説明している。「神の法に従うことが宗教の本質です。今日の世界が、このようなひどい状態になっているのは、人類がバハオラの法に従っていないからです。彼の法に従わない者は皆、次の世で裁^{さば}かれます」

_____ あなたは友人に信教の法を説明している。「バハオラは、彼の法は愛^{せつり}の摂理のランプであると教えています」と言い、続ける。「その法は私たちの道を照らし、真の幸福へと導いてくれます。それでも私たちは完璧ではなく、時には間違^{まちが}うこともあります。しかし、私たちがバハオラを受け入れ、バハオラに祈るとき、バハオラご自身が私たちの弱^{こくふく}さを克服するのを助け、彼の法に従う力を与えてくださるのです」

4. 信教を教えるとき、過度に自由主義的(リベラル)であってはなりません。次のうち、どのような場面で自由主義的になりすぎているか判断してください。それらに「自」をつけましょう。

_____ 信教について調べている人が、バハイ共同体に指導者はいるかとあなたに尋ねる。あなたは、「バハイ共同体には、神と私たちの間を取り持つ司祭や聖職者はいません。私たちは皆、自分の良心に従って生きています。誰も私たちに指図^{さしず}しません」と答える。

_____ 信教について調べている人が、バハイ共同体に指導者はいるかとあなたに尋ねる。あなたは、「バハイ共同体は、世界的な行政システムによって運営されており、そのシステムには、全国および地方の精神行政会と呼ばれる協議会が含まれています。これらの協議会は、推薦や選挙運動なしに、神聖な祈りの雰囲気の中で選出されます。また、行政会のアドバイザーとして、また、仲間のバハイを鼓舞^{こぶ}し、励ますために任命された優れた個人^{すぐ}のグループもあります。これらの機構はすべて、万国正議院と呼ばれる、バハイ信教の国際統治機関^{もと}の下にあります」と説明する。

_____ あなたが信教を教えているある人が、個人はバハイ行政にどのように関わることを期待されているのか、と尋ねる。あなたは、「そうですね、バハイ信教は何らかの行政の仕組みを持たなければならないので、9人のメンバーで構成される精神行政会と呼ばれるものがあります。選挙で選ばれたこれらの機構は、地方や国のレベルで信教の諸事^{しよじ}を管理しますが、あなたは自分の良心の命じるように彼らに従えば、それでよいのです」と答える。

_____ あなたはある人に信教を教えている。その人は、バハイが輪廻転生^{りんねんせい}を信じていないこと以外は、聞いたことすべてが気に入ったと言う。あなたは、「バハイは多様性の中の和合を信じているのですから、全く問題ありません。多様な意見もある、ということです」と言う。

_____ ある人が、あなたにバハイはどのように信教を広めているのかと尋ねる。あなたは「バハイは布教しません」とだけ言う。「私たちはただ『人生を生き』、人々から質問を受けたら、信教について話します」

_____ バハイ信教について読んだことがあり、興味を示した人が、バハイ共同体に加入する人には何が求められるのか説明してほしいとあなたに求める。「宗教は個人的なものです」と、あなたは言う。「それは生き方です。心の中で感じるものです。バハイ信教には、もちろんいくつかの法がありますが、自分の

良心の命じるままに従えばよいのです」

_____ バハイ信教について読んだことがあり、興味を示した人が、バハイ共同体に加入する人には何が求められるのか説明してほしいとあなたに求める。あなたは、「宗教の本質は、神の顕示者を通して神を知り、神の愛に確固として、神の教えに従うことです。神への私たちの愛は、神の創造物にも及びます。私たちは人類を愛し、社会をより良くするために働くことで、信教に対する責任を果たします」と答える。

_____ あなたは友人たちと子どもの教育について話している。そこで、あなたはこう言う。「バハイ信教では、子どもは生まれながらにして善良であり、もしあなたが彼らを愛し、神が彼らの内に置かれたものを発展させる手助けをするならば、子どもは立派に成長すると教えています」。

_____ あなたは友人たちと子どもの教育について話している。そこで、あなたはこう言う。「バハイ信教では、子どもたちには善良になる能力がありますが、同時に抑えるべき傾向おさももっていると教えています。子どもたちが正しい道を歩み、一人ひとりが与えられた偉大な可能性を伸ばすために、教育が必要なのです」

5. 以下の各状況において、あなたはどのように信教を教えればよいか決めようとしています。どのような対応が適切かを判断してください。選択肢の一つまたは複数がそれぞれに当てはまるかもしれません。

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| a. 慎重に | e. 直接的な方法を用いる |
| b. 大胆 <small>だいたん</small> に | f. 間接的な方法を用いる |
| c. 敏速 <small>おき</small> に行動する | g. 挑戦的に |
| d. 好機を待つ | h. 譲歩的に |

_____ ある人がその地域のバハイセンターにとっても興奮してやってきた。インターネットで信教について読んだことがあり、バハオラについてもっと知りたいと言う。彼女は、神は人類を決して見捨てず、また新たな顕示者を送ってくださると、心の奥底でいつも感じていたと説明する。

あなたは家族と共に、誰も知り合いのいない村に引っ越してきた。ある日、到着して間もなく、隣人があなたを歓迎し、自己紹介をするために家にやってきた。その際、彼は村人全員が自分たちの宗教で非常に和合していること、そして「他の」宗教がやってきて人々を分断しようとするやり方が気に入らないことを明言した。

あなたは家族と共に、誰も知り合いのいない村に引っ越してきた。ある日、到着して間もなく、隣人があなたを歓迎し、自己紹介するために家にやってきた。彼はテーブルの上いくつかのバハイの本があることに気づき、あなたに「バハイ信教とは何ですか？」と尋ねる。

あなたは平和の推進に関心を持つ人々の組織に参加している。あなたが会合で表明する考えに特に惹きつけられている人物の一人は、社会に有意義な変化をもたらす唯一の方法は党派的な政治活動であると固く信じている。組織が会合を開くたびに、彼はあなたと話をするようにしている。

あなたが一緒に働いている人の一人が、何度かあなたに、自分は神を信じていないと言う。しかし彼は、社会問題、例えば男女の平等や普遍的な教育の必要性に関連するあなたの考えの多くに惹かれている。

この地域の村長数人が参加する村の会合で、あなたは子どもの教育についていくつかの考えを述べた。その後、村長の一人があなたに話しかけに来た。彼は、あなたがバハイであることを知っていて、あなたの提案の多くを気に入っていると言う。彼は信教についてもっと知りたいと思っている。

共同体に加入したばかりの友人が、家族に会ってもらおうと、あなたを自分の家に連れて行く。家族の人たちは彼女がバハイであることに反対しており、信教から離れさせようとしている。

共同体に加入したばかりの友人が、家族に会ってもらおうと、あなたを自分の家に連れて行く。家族の人たちは信教のことを聞いてとてもわくわくしており、より多くを聞くのを待ちきれない様子だと彼女は言う。

6. ある人が次のような状態にあるとき、どのような態度が表れているか、どのような精神的資質が欠けているのかを考えてみましょう。

- 貧しい人を軽蔑している：^{けいべつ}_____

- 何らかの地位、権力を持っている人の前で内気である、あるいはおどおどする：

7. 信教の真理を説明する際に、人がどのように、下記のことをする可能性があるか、例を挙げてください。

- 真理を強調し過する：_____

- 真理を切り取る：_____

セクション 15

守護者からの次のガイダンスは、あらゆる物事においてそうであるように、どのような状況にあっても最も適切なティーチングのアプローチを決定しようとするとき、私たちはアブドル・バハ

に目を向けるべきであることを思い出させてくれます。

我らの愛する師が、我々に明確に示された模範もほんを心に留めよう。人にアプローチする際には思慮深く、機転があった。出会って間もない時は、相手を注意深く観察し、気を配られた。公おおやけの発言は常に度量が広く、寛大であった。大業の基本的真理は慎重に、徐々に明らかにされた。主張は情熱的に、しかし議論は冷静であった。口調は自信に満ち、不動の確信い、威厳げんある物腰ものごし、これらは我らの愛する御方がバハオラの大業を紹介される時に示された、際立った特徴である。²⁴

1. アブドル・バハの模範ならに倣おうとするとき、ティーチングのアプローチにおいて、あなたはどのようにあろうと努めますか？ _____

2. ある人に初めて接したとき、あなたはどのようにしますか？ _____

3. 公で信教について話すとき、あなたの言葉はどんな特徴を持つでしょうか？ _____

4. どのように、大業の真理を人々に知らせますか？ _____

5. 以下のそれぞれにおいて、どうあるよう努力しますか？
 - 主張は _____
 - 議論は _____
 - 口調は _____
 - 確信は _____
 - 物腰は _____

最後に、上の引用文を暗記しましょう。

セクション 16

私たちはまず、「在り方」と「行い」が、精神的な生活において相補的かつ不可分の側面であることを再認識することから、この章を始めました。そして、定期的かつ系統的なティーチング活動に携わる中で、私たち全員が発展させるよう努めなければならない精神的資質について、いくつかのセクションに渡って探求しました。謙虚さについての話し合いは、信教を教える際にとっても重要な、学びに対する姿勢について考えるきっかけとなりました。また、他の態度がどのようにティーチングを行う方法に影響を与えるかについての洞察も得ました。では、もう一步踏み込んで、ティーチングする相手と私たちの関係のあり方を探ってみましょう。この関係はどのようなものであるべきでしょうか。これについて、聖典や書物は何と述べているのでしょうか。

おそらく最初に思い浮かぶ概念は、親交でしょう。明らかに、個人的なティーチング活動においては、人々との友情の絆を築く能力が不可欠です。この同じ能力は、私たちが集団的なキャンペーンに参加する際にも重要です。例えば、奉仕の能力を高める手段として、ユースをインスティテュートのコースに招待する場合、子どもたちの精神的教育のために新しいクラスをつくったり、ジュニアユースの精神性を高めるためのグループをつくったりする場合、近隣地区や村で新しく信教に登録した人々の家を訪問して、彼らと一緒に様々なテーマを探求する場合、バハオラのメッセージに受容性がある人々の間で直接的なティーチング活動に従事する場合などです。どのような場合でも、温かい人間関係を築くことができるかどうか、出会う人々にどのように近づき、どのようにコミュニケーションをとり、彼らの心に触れることができるかどうかを左右します。

私たちが自らに問う必要があることは、この本質的な能力をどのように伸ばすかということです。もちろん、私たちの気質はそれぞれ異なります。育った環境であれ、生まれつきの傾向であれ、友人をつくるのが簡単だという人もいます。全くの見ず知らずの人とでも会話ができる人もいます。また、内気な性格で、友達をつくるのが難しい人もいます。しかし、どのような性格の人であっても、意識的に努力することによって、親交の精神をもって人々と交わることができるようになることを理解すべきです。聖典や書物には、このテーマに関する数多くの貴重な助言が記されています。以下に示す、引用符で囲まれた表現は、聖典や書物から直接引用したものです。何度か目を通し、グループの他のメンバーと話し合うことをおすすめします。

私たちは「疎隔そかくの闇ふっしょく」を払拭し、「すべての人を友とみなす」よう言われています。「あらゆる民族と一つになる」ことを期待されています。私たちの目を「古来の栄光の天」に向け、個々の創造物を「神のしるし」と考えなければなりません。「各々おのおのがこの世界に足を踏み入れた」のは彼の恵みと力によるものだからです。

私たちは、「見知らぬ人とも友人とも、愛情を持って交わり」、すべての人に「最大限の慈愛」を示し、「その人の能力の程度」を無視して、その人が「愛されるに値するかどうか」を問うことのないよう求められています。

私たちを「なじり、^{あざけ}嘲る者がいれば、私たちは「その人に愛をもって対応し」なければなりません。その人たちが私たちを「非難」するなら、私たちはその人を「賞賛」すべきです。「致命的な毒」を差し出されたら、その人に「^{えぬ}選り抜きの^{はちみつ}蜂蜜」を与えるべきです。私たちの命を「^{おびや}脅かす」のであれば、私たちはその人に「永遠に癒す薬」を与えるべきです。その人が「苦痛そのもの」となるなら、私たちはその人の「薬」となるべきです。そして、その人が「^{とげ}棘」となるなら、私たちは「バラと甘いハーブ」となるべきなのです。

「世界中のすべての人々や民族、また敵でさえもが」、私たちに「信頼、確信、希望」を寄せるよう、偉大な努力をするよう求められています。もし魂が「十万の過ち」を犯したとしても、「許されることを希望」することができるべきです。その人が「失望したり、悲しくなったりする」ことのないように。

私たちは「力強く互いを支え合い、永遠の命を求め」、神から「送られる^{いつく}慈しみと祝福」とならなければなりません。

私たちはすべての人に「親切と友情、思いやりと礼儀」を示し、「^{のど}喉が渴いているすべての人に^{さわ}爽やかな水を」、「^う飢えているすべての人に天のパンを」を与えるようにとされています。私たちは「この世のものではない優しさを示す」べきなのです。私たちは「愛と良き親交は天国の楽しみ」だと考え、「敵意と憎しみは地獄の苦しみ」だと考えるべきです。

私たちは、「どんな魂をも傷つけず、どんな心も悲しませない」ように注意しなければなりません。たとえその人が「悪人」で、私たちの「^{わざわ}災い」を望んでいたとしても、私たちは「他人の感情を害する」べきではありません。「創造物を」見るのではなく、「彼らの創造主」と向かい合うように、私たちは勧められているのです。

「共通の利益」のために自らを「犠牲」にし、「人類の繁栄の復興」のために「日夜努力」することが求められています。私たちは、神の創造物が流した「涙の上に」泣き、神の子どもたちの「^{いた}悲しみ」を悼むべきなのです。私たちは「世界の静穏の原因」となるために「安息と快適さ」を「放棄」するべきです。

私たちは「孤児^{こじ}にとっての優しい父親、無力な人にとっての避難所^{ひんじや}、貧者のための宝庫、病人のための治療薬」、また、「抑圧の犠牲者たち皆の援助者、恵まれない人々の支援者」となるよう言われています。私たちは「常に、人類一人ひとりに対して何らかの奉仕をすることを考え」るべきです。

私たちは「人の心と精神を清める」ために、「全力を尽くし」、「すべての魂を喜ばせる」ために努力すべきです。私たちは、自分が出会う「すべての人に何らかの良きこと」「何か役に立つことをな」すべきです。「一人一人の性格を向上させるようにし、人々の思考の方向性を変え」るよう努力しなければなりません。神の人々を「召喚し」、人類を「天の仲間たちの模範に従うよう促」すことが私たちのタスクです。

「除外された人たちを親密な友達の輪に」導くよう求められています。私たちは「彼らをまどろみから起こし」、「無思慮な者を意識ある者にさせる」べきです。「世界の闇の中で」私たちは「輝く炎」となるのです。「破滅の砂の中で」私たちは「命の水の源泉^{げんせん}」となり、「主なる神からの導き」となるのです。

アブドル・バハの聖典からの次の引用文を暗記するとよいでしょう。

おお汝ら、神を愛する者らよ、たとえ最も悲惨な災難が世界を襲^{おそ}つても、決してたじろくことのないほどの決意をもって、彼の大業における汝らの足取りをしっかりとものにせよ。何ごとによっても、どのような状況にあっても、心をかき乱されてはならない。汝らは高い山のようにしっかりと固定され、生命の地平線^{のぼ}に昇る星となり、和合の集まりにおける明るいランプとなり、友らの前で謙虚で慎^{つつ}ましい者となり、心は純真であれ。導きの印、神々しい光となり、世俗を離れ、確かで、強固な取っ手につかまり、生命の息吹を広め、救済の『箱舟^{はこぶね}』に乗るものであれ。汝ら、寛大の日の出、存在の神秘の夜明けの地点、靈感が降り来る地、輝きの立ち上^{のぼ}る地点であれ。汝ら聖霊によって支えられた魂、主に魅了^{みりよう}された者、神以外の全てを離脱した者、人間の性格を超えて聖なる者、天上の天使たちの属性をまとう者となれ。そうすれば、汝らはこの新しい時、この素晴らしき時代^{たまもの}に至高の賜物を勝ち取れよう。25

セクション 17

親交の精神ですべての人々と交わり、教えに沿った生活を送る努力をすることで、私たちは他の人々を大業に引き寄せるのです。もちろん、私たちは完璧であることを期待されているわけではありませんし、欠点がないと主張しているわけでもありません。しかし、教えに示された資質を反映する限りにおいて、私たちは神の芳香を広めるための効果的な水路となるのです。このような意味で、私たちは、模範によるティーチングということをしばしば口にします。しかし、「模範によるティーチング」という言葉が、ティーチングをしないことの言い訳にならないよう注意しなければなりません。たしかに、私たちは自分の内面状態、性格、行い、そして行いの清廉せいれんさに大いに注意を払う必要があります。しかし、だからといって、そのことで、人の心の都への門を開くのは、私たちの発言という鍵であるという事実を見失ってはなりません。この点を明確にするために、聖典や書物から二つの引用文のセットを見て、それらを一緒に理解してみましよう。まず、以下の引用文を読んでください。

主の大業を教えるために立ち上がる者は、その言葉が聴き手の心を捉えることができるよう、まず何よりも先に自分に教えなければならない。自分に教えなければ、口より発せられる言葉は探究者の心に影響を及ぼすことはない。²⁶

この神聖な大業の疑うことなき勝利を確実にする唯一のもの、それはすなわち、バハオラによって宣言された永遠の原則の輝きが、どの程度まで、私たちの内面生活と人格の様々な側面に反映されているかである。²⁷

この日、わが大業の加勢しやうせんに立ち上がり、称讃おほされる人格と高潔な行動を自らの援助者とするものの行為は、全世界を覆う影響力を持つであろう。このことを確信せよ。²⁸

自分たちの行動を通して、我こそは誠のバハイであると世界に向かって声高らかに叫ぼうではありませんか。行動こそが世界に向かってもの言うものであり、人類発展の原因となるものだからです。

もし私たちが真のバハイであるなら、言葉は不要です。私たちの行動は世界を助け、文明を広め、科学の進歩を助け、諸々の芸術もろもろの発展をもたら

すのです。物質界においては、行動がなければ何も達成されず、また精神界においても、行動の助けのない言葉は人を進化させることはできないのです。神の選民たちが聖なる域に到達したのは口先だけの言葉によってではなく、世界に光明こうみょうをもたらした実践的奉仕の忍耐強い生涯によってなのです。²⁹

では、次の引用文のセットを学びましょう。

今こそ、神の友らが機会を利用し、好機をつかみ、突進し、褒美ほうびを獲得するときである。もし彼らの活動が善行と助言にとどまるなら、何も達成されないであろう。彼らは発言し、証拠を詳細に述べ、明確な論拠ろんきょを示し、反論の余地のない結論を導き出し、『実在の太陽』が表した顕示の真実を立証しなければならぬ。³⁰

そして、汝の能力の程度を見るのではなく、バハオラの無限の援助を見よ。彼の恩恵はすべてを取り囲み、その恩寵は完全である。³¹

汝の顔を神の王国に向け、聖霊の賜物たんがんを嘆願しながら、言葉を発しなさい。そうすれば、『霊』の確証くだが下されるであろう。³²

おお、神に愛されし人々よ。創造者なる汝の主を認め、彼の身に降りかかったことを聞いたなら、長椅子ながいすに横たわるのではなく、直ちに奮起して彼の加勢に急げ。自らの舌を解き放ち、彼の大業を休むことなく宣言しつづけよ。こうすることは、汝らにとって過去と未来のすべての財宝にも増して価値のあることである。おお、汝ら、この真実を理解できたならば。³³

バハイが、どのような仕事をするにも、その資格が完全に得られるまで常に待っていたら、大業の仕事はほとんど行き詰ってしまうでしょう！しかし、奉仕しようと懸命に努力する行為そのものが、どれほど自分がふさわしくないと感じていても、神の祝福を引きつけ、その仕事にもっと適するようになることを可能にするのです。

今日、神のメッセージを聞くことに対する人類のニーズは非常に切迫しています。そのため、信者たちは、自分たちの欠点に頓着^{とんちゃく}することなく、自らの同胞がその最も暗い苦難の時に教えを聴くという切実なニーズに注意を払いながら、どこでも、どのような形であれ、その仕事に飛び込まなければなりません。³⁴

最初の引用文のセットを、ティーチングという主題に関する他のすべての箇所——二つ目のセットにはその内の数例のみが挙げられています——から切り離し、それだけに注目すると、ティーチングをしない言い訳として使ってしまうことになりかねません。自分自身の内面を改善し、ますます優れた人間になることが第一の課題であり、その結果、私たちが完璧な人間になり、教えるための言葉を必要としなくなれば、他の人々は私たちに惹きつけられ、自分で信教を調査するようになるだろうという結論に誤って達するとき、私たちはこの罠^{わな おちい}に陥ります。しかし、私たちは、私たちの誰よりも模範的な行いの生涯を送ったアブドル・バハが、その発言の力を使い、あらゆる適切な機会に、信教について話したことを知っています。

重要なことは、最初のセットの引用文の主要テーマは、信教をどのように教えるかではないということです。これらの文節は、私たちの内面状態の重要性についての深遠な精神的真理を明らかにしています。これらの文節は、称賛に値する人格と高潔な行いが私たちの行動に力を与えることを思い出させ、私たちの行動が私たちの言葉と矛盾してはならないことを警告しています。例えば、人が誰かに正直さを教えるのであれば、その人自身が心から正直であろうと努めるべきなのです。

一般的に、ティーチングのような広大で深遠なテーマを、一つか二つの引用文に基づいて結論づけるのは賢明ではありません。

このようなことを念頭に置いて、上記の引用文に戻り、以下の文章の空欄を適切な言葉で埋めながら考えてみましょう。

1. 主の大業を教えるために立ち上がる者は、

_____。
2. 自分に教えなければ、

_____。

3. この神聖な大業の疑うことなき勝利を確実にする唯一のもの、それはすなわち、_____
- _____
- _____。
4. この日、神の大業の加勢に立ち上がり、_____
- _____を自らの援助者とするものの行為は、_____
- _____。
5. 行動こそが_____、
- _____の原因となるものだからです。
6. もし私たちが真のバハイであるなら、_____。私たち
- の行動が_____と
- 世界に向かって声高らかに叫ぶでしょう。
7. 私たちの行動は_____、_____
- _____、_____、_____
- _____ののです。
8. _____においては、行動がなければ_____
- _____、また_____においても、_____
- _____言葉は_____
- _____。
9. 神のおそば近くにいた人々が聖なる域に到達したのは口先だけの言葉によってでは
- なく、_____
- _____。
10. もし私たちの活動が善行と助言にとどまるなら、_____
- _____。私たちは_____、証拠を_____
- _____、明確な論拠を_____、_____
- _____、『实在の太陽』が表した顕示の真実
- を立証しなければならない。

11. 私たちは、自分の能力の程度を見るのではなく、

_____を見るべきです。
12. 私たちは、顔を神の王国に向け、

_____, 言葉を発しなさい。そうすれば、
_____。
13. 創造者なる汝の主を_____, 彼の身に降りかかったことを聞いたなら、私
たちは長椅子に横たわるのではなく、
_____。
14. 自らの舌を解き放ち、_____ べき
です。こうすることは、私たちにとって_____
_____。
15. 私たちが、どのような仕事をするにも、その資格が完全に得られるまで常に待ってい
たら、
_____。
16. 奉仕しようと懸命に努力する行為そのものが、どれほど自分がふさわしくないと感じて
いても、

_____。
17. 今日、神のメッセージを聞くことに対する人類のニーズは非常に切迫しています。そ
のため、私たちは、_____
_____, _____がその最も暗い苦難の時に_____
_____に注意を払いながら、どこ
でも、どのような形であれ、
_____。

セクション 18

私たちのティーチングの努力を際立たせる精神的な資質と態度についての本章の最後を、
アブドル・バハが西洋を旅したときに示した模範を思い起こすことで締めくくりましょう。守護者

によって書かれた以下の一節は、アブドル・バハが出会った人々に、どのように、お父上のメッセージを伝えたかを描写しており、ティーチングという行いそのものを探求する次の章への準備となるでしょう。

これらの旅の間、アブドル・バハは、その活力、勇気、一心不乱さ、ご自分が成し遂げようとされた仕事への献身を示され、彼の日々の行動を間近で観察する特権を得た人々の心に驚きと賞賛をかき立てました。従者たちがしばしば師に訪れてほしいと望んだ、旅人の注意を決まって引きつける名所やもの珍しい場所には無関心でした。自身の快適さや健康にも無頓着で、夜明けから夜遅くまで、毎日毎日、全精力を費やされました。ご自身の旅費のための贈り物や寄付を一貫して拒否されました。病人、悲しむ人、虐げられた人への配慮を絶やしませんでした。社会的・経済的に恵まれない人種や階級を擁護することには妥協せず、貧しい人々に対する寛大さは降り注ぐ雨のように惜しみのないものでした。正統主義や宗派主義を信奉する警戒心の強い狂信的な唱道者たちによる攻撃をものともしませんでした。壇上や説教壇から、ユダヤ人に対するイエス・キリストの預言者としての使命、教会やシナゴグにおけるイスラム教の神聖な起源、あるいは唯物論者、無神論者、無宗教者に対する神の啓示の真理と宗教の必要性を論証しているときの率直さは驚くべきものでした。多様な宗派の聖域において、常にバハオラを賛美することを揺るぎなく明言しました。イギリスとアメリカの両国において、爵位や富を持つ人々に取り入ることを何度も断固として拒否しました。そして最後に、友人にも見知らぬ人にも同じように示される、比類なきありのままの自然さ、その思いやりの純粹さと温かさ、慈愛があります。それはお会いになった相手が信者であろうとなかろうと、金持ちであろうと困窮者であろうと、高い地位の人であろうと低い地位の人であろうと、その出会いが親密なものでであろうとさりげないものでであろうと、お会いになった場所が船上あるいは通りを歩く間であろうと、公園あるいは広場であろうと、レセプションあるいは宴会であろうと、スラムあるいは豪邸であろうと、信者の集まりあるいは学識者の集まりであろうと、示されました。あらゆるバハイの美德の化身であり、あらゆるバハイの理想の体現者である師は、物質主義に沈み、戦争の暗雲が

既に立ち込める世界に向かって、その父上の啓示に秘められた癒し、神から授かった真理を、三年という多忙な年月の間、高らかに知らせ続けたのです。³⁵

上の文章をもう一度読んだ後、アブドル・バハの人々との接し方や、信教についての会話に臨む姿勢を特徴づける資質や態度を表す文章をいくつか書いてください。例えば、「師は、活力、勇気、一心不乱さを示した」など。

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____
6. _____
7. _____
8. _____
9. _____
10. _____

参照文献

1. *Tablets of the Divine Plan: Revealed by 'Abdu'l-Bahá to the North American Bahá'ís* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1993, 2006 printing), no. 8.13, p. 54.
2. Ibid., no. 10.10, p. 72.
3. From a letter dated 8 November 1956 written on behalf of Shoghi Effendi to an individual, published in *Teaching the Bahá'í Faith: Compilations and a Statement Prepared by the Research Department of the Universal House of Justice* (Mona Vale: Bahá'í Publications Australia, 1995), no. 156, pp. 84–85.
4. From a letter dated 6 November 1949 written on behalf of Shoghi Effendi to an individual, published in *The Power of Divine Assistance: A Compilation of Extracts from the Writings of Bahá'u'lláh, the Báb and 'Abdu'l-Bahá and the Letters of Shoghi Effendi and the Universal House of Justice*, compiled by the Research Department of the Universal House of Justice (Ingleside: Bahá'í Publications Australia, 2020), no. 80, p. 40.
5. アブドル・バハ、パリ講話集, no. 21.6
6. From a letter dated 1 September 1933 written on behalf of Shoghi Effendi to an individual, published in *Teaching the Bahá'í Faith*, no. 92, p. 69.
7. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2010, 2015 printing), no. 216.1, p. 372.
8. From a letter dated 30 June 1937 written on behalf of Shoghi Effendi to an individual, published in *The Power of Divine Assistance*, no. 70, p. 37.
9. *Tablets of Bahá'u'lláh Revealed after the Kitáb-i-Aqdas* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 1988, 2021 printing), no. 10.10, p. 192.
10. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 213.1, p. 371.
11. Ibid., no. 214.2, p. 372.
12. 落穂集 5, par. 3.
13. 同上 132, par. 5.
14. 同上 100, par. 1.
15. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 204.2, p. 347.
16. 落穂集 142, par. 5.
17. From a letter dated 24 November 1924 written by Shoghi Effendi to the Bahá'ís of America, published in *Bahá'í Administration: Selected Messages 1922–1932* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1974, 1998 printing), p. 69.
18. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 217.1, p. 373.
19. Ibid., no. 15.3, pp. 46–47.

20. かくされたる言葉 アラビア編 no. 42
21. From a letter dated 31 March 1932 written on behalf of Shoghi Effendi to an individual, published in *The Power of Divine Assistance*, no. 66, pp. 35–36.
22. 万国正議院、大陸顧問団の大会に宛てた 2021/12/30 付けのメッセージ, no. 6.10
23. From a letter dated 5 June 1947 written by Shoghi Effendi, published in *Citadel of Faith: Messages to America, 1947–1957* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1965, 2014 printing), pp. 25–26.
24. From a letter dated 24 November 1924 written by Shoghi Effendi to the Bahá'ís of America, published in *Bahá'í Administration: Selected Messages 1922–1932*, pp. 69–70.
25. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 199.6, pp. 334–35.
26. 落穂集 128, par. 6.
27. From a letter dated 24 September 1924 written by Shoghi Effendi to the Bahá'ís of America, published in *Bahá'í Administration: Selected Messages 1922–1932*, p. 66.
28. 落穂集 131, par. 4.
29. パリ講話集, no. 26.5–6,
30. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 212.1, p. 370.
31. *Ibid.*, no. 153.3, p. 249.
32. *Ibid.*, no. 153.4, p. 250.
33. 落穂集 154, par. 2.
34. From a letter dated 4 May 1942 written on behalf of Shoghi Effendi to an individual, published in *Teaching the Bahá'í Faith*, no. 104, p. 72.
35. Shoghi Effendi, *God Passes By* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 1974, 2022 printing), pp. 446–48.



ティーチングの行い

目的

受容性を認識し、育む能力を強め、
個人的なティーチング活動の一環としてであれ、
集団的なキャンペーンの文脈であれ、状況に応じて、
信教についての説得力あるプレゼンテーションを行う能力を伸ばす。

セクション 1

第一章でティーチングの精神的本質を、第二章でティーチングをする人たちに不可欠な資質と態度を探求してきましたが、今度はティーチングという行いそのものに目を向けてみましょう。私たちは通常、この神聖な行いを、個人的な努力と、草の根における集団的な取り組みという二つの文脈のいずれかでを行っています。もちろん、私たちは、活気ある共同体を築こうとする活動に従事する、近隣や村の友人たちの成長しつつある核の一員として、様々な背景からの数多くの個人と接触するようになりました。いくつか例を挙げるなら、それは高校生や大学生、インスティテュートの教育プログラムに参加する子どもたちやジュニアユースの親御さんや親戚、教師、農家、村長、その他の地域の指導者などです。そして、彼らの何人かが信教についてもっと知りたいと関心を示しているのを見てきました。同様に、インスティテュート・プロセスへの私たちの参加は、魂をバハオラの啓示の大海へと導くために必要な能力、特に、深遠な概念についての理解を表現し、重要な会話の中で精神的現実を探求することを可能にする能力を、私たちの中で強化するために役立ってきました。これらの能力とともに、私たちが個人的なティーチングの努力を追求するときにも、集団的な取り組みに参加するときにも、発展させることが不可欠な、もう一つの能力があります。すなわち、バハオラのメッセージに対する受容性を認識し、育む能力です。この能力を高めることの重要性については、これから学ぶセクションで考えていくことにしましょう。しかし、最初に、次のバハオラの言葉を熟考してみましょう。この言葉を暗記しておくとい良いでしょう。

汝らは、^{かわ} 渴いた魂に出会ったときはいつでも、その人に永遠の命の ^{さかづき} 杯を飲ませなさい。また、聞く耳を見つけたときはいつでも、力強く、強大にして慈悲深き御方である神の言葉を暗唱して聞かせなさい。汝らは親切な言葉で舌を ^{ゆる} 緩め、人々の心が神の聖域へと ^{かたむ} 傾くのを見出したなら、彼らを真理へと呼び寄せなさい。… 1

セクション 2

受容性を認識し、育む能力を身につけたいと願う人々が理解すべき重要な概念は、ティーチングは単なる、信教の ^{せんぶ} 宣布に ^{とど} 留まらないということです。

宣布は、個人、共同体、そしてその機構によって、形式の程度は様々に行われる、非常に有益で必要な活動です。このような活動は、大業の崇高な目的と理想に人々を親 ^{した} しませ、信教に対する積極的な態度を強化するのに役立ちます。ティーチングには宣布の要素も含まれ

ますが、その主な目的は、魂がバハオラを、今日の『神の顕示者』として認識し、その啓示についての知識を深め、新しく獲得した信仰を確かなものにするのを助けることです。もちろん、宣布活動を通して、特に受容性のある魂が信教に魅了され、いくらかの探求の後、入信を決意することはあり得ます。しかし、少なくとも人類史の現段階では、宣布だけで多くの人々の心がバハオラに開かれることを期待すべきではありません。これは、どんなに精巧にプロジェクトが設計されても、どんなにプロフェッショナルにイベントが遂行されても、です。ティーチングとは、情報を与えて、その後は人々を放っておくというのを超えています。それには対話が必要です。それは、確証を得た魂と、バハオラの啓示の真理に耳を傾け、調べようとする人々との対話を必要とします。この点をさらに掘り下げるために、ある例を考えてみましょう。

信教を教える効果的な方法の一つは、ファイヤサイドです。ファイヤサイドは、信教に関心のある人々を招いて、自宅で開かれる温かく親密な集まりです。意見交換や実りある会話の絶好の機会を提供し、人々を、バハオラを受け入れることへと導くことができます。しかし、注意をおこたを怠れば、ファイヤサイドは簡単に宣布の場になってしまいます。

さて、私たちが検討するための例として、あなたが毎週、自宅でファイヤサイドを開いているとします。あなたは毎回、ゲストを歓迎し、その場にいるバハイの一人に祈りを唱えてもらうことからファイヤサイドを始めます。それから、招かれた話し手が、信教に関連する特定のテーマについて約 30 分から 45 分間話をします。最後に、あなたはゲストに質問を求め、通常は一つまたは二つの質問が出て、話し手が答えようとします。その後、軽食が出され、ゲストはあなたの家を後にします。このような集まりは、その長所もありますが、宣布のイベントとしてみなすのが最適であることに同意していただけますか？

しばらくして、集まりの性格をあなたが変わることにしましょう。そこで、あなたはファイヤサイドのたびに、才能ある友人を一人か二人招き、講演の後に短い音楽を演奏してもらうことにしました。音楽を導入することで、イベントの精神的な雰囲気が高まることを期待してのことです。こうすることで、あなたはファイヤサイドを宣布のイベントからティーチングのイベントへ変えたと思いますか？

ファイヤサイドを、さらに、ティーチングの活動とするには、どのような方法がありますか？

セクション 3

さて、ティーチングと宣布の区別を念頭に置いて、私たちはどのように、受容性のある魂、つまり真理を求める心を持つ人々を見分けるべきか考えてみましょう。もちろん、神がご自身のメッセージを受け取るために用意された人々のもとに私たちを導いてくださるよう、絶えず祈る必要があります。しかし、その次に、私たちは出会ったときに彼らを見分けることができなければなりません。これは必ずしも容易なことではありません。受容性の高い集団の間でティーチングするための集団的な努力をしている場合でさえ、すべての人がメッセージを聞き、その真理を受け入れたいと思うわけではないでしょう。バハオラの呼びかけに応える準備ができていて魂を見つけるのは、私たちに委ねられているのです。

受容性のある人は、必ずしも信教を探しているようには見えないかもしれませんが、宗教に特に関心があるわけでもないでしょう。実際、受容性と信心深さは同じではないことを理解することが重要です。必要なのは、人が教えについて学び、その真理をある程度オープンに探求しようとする状態です。私たちがティーチングの経験を積み、精神的な能力がますます鋭くなるにつれて、この状態を感じ取る能力が高まっていきます。

何が人を受容的にするのかについて、厳密な規則を設けることは不可能ですが、いくつかの要因を特定することはできます。これらの要因は、人生のある時点で、ある期間、人をより受容的にすることが多く、これは個人にも集団全体にも当てはまります。グループの他のメンバーとこのテーマについて話し合い、次の例のように、人の受容性に影響を与えると思われる要因をいくつか書き出してみましょう。

世界に広がる不正に気づく

次のセクションに進む前に、ショーギ・エフェンディが書かれた、次の引用文を考えてみることをおすすめします。この文章は、現代の動乱と、大業に対する受容性の関係について述べています。

動乱によって喚起かんきされている悲嘆、引き起こされている恐怖、生み出されている幻滅げんめつ、もたらされている困惑か、駆り立てられている憤りいきどお、誘発されている反感、引き起こされている不平、呼び起こされている不断の探求精神、そのすべてを含む、現代の動乱がもたらしている機会も同様に、バハオラの信教の救済の力の知識を広範囲に広める目的のために、そして絶えず増加している彼の信者の軍隊に新しい加入者を入れるために利用されなければなりません。²

何十年も前に守護者が伝えた世界的な動乱は、古い秩序が崩れ続けるにつれ、時間の経過とともに激しさを増しています。以下に、この動乱がもたらす状況をいくつか挙げます。それぞれが私たちのティーチングにどのような影響を与えるか、グループで話し合ってください。

- 喚起されている悲嘆
- 引き起こされている恐怖
- 生み出されている幻滅
- もたらされている困惑
- 駆り立てられている憤り
- 誘発されている反感
- 引き起こされている不平
- 呼び起こされている不断の探求精神

セクション 4

受容性のある人々を見つけると、私たちは彼らと、時には比較的短い、または継続的な会話に入ります。会話の目的は彼らがバハオラの地位を認めるのを助けることです。しかし、このような会話の中身はどうあるべきでしょうか。私たちはティーチングする相手に何を言うべきでしょうか。

この質問に対する答えは決して単純ではありません。信教の教えや原則を共同体の友人や家族たちと分かち合ってきた、これまでの経験から、私たちが学び、どのような状況でも誰に対しても繰り返すことができる公式というものはないことを、皆さんは既にご存知でしょう。私たちがそのような親密な会話をする相手は、それぞれ特定の精神的状態にあり、様々なニーズや疑問を抱いています。大業を教えようと努力するとき、私たちはその真理をどのように、すべての探求者に説明すべきか、何を言うべきか、どのような順序で考えを述べるべきかについて、常に考えなければなりません。

しかし、私たちは個人の違いを認識すべきですが、それを強調しすぎて人間存在の根底にある統一性を見失うような過ちを犯してはなりません。バハオラのメッセージに対する人々の反応は一定のパターンに従っており、そのパターンは同じ文化や背景を持つ人々の間で特に顕著になります。例えば、あなたが学生で、仲間内でティーチングしようとした場合、ほとんどの友達にとって効果的であるということが証明される、信教の導入的なプレゼンテーションを徐々に見つけるでしょう。その都度、異なる質問が尋ねられ、異なる関心が示されるので、話す内容の詳細は変わるでしょう。しかし、基本的なパターンは同じままでしょう。

他者に信教を説明する方法について系統的に考え始めるとき、あなたが伝えるメッセージの二つの側面について考えてみると役に立つかもしれません。一つ目は情報です。聞き手は当然、信教について多くの事実を知りたいと思うでしょう。いつ始まったのか？ バハイ共同体はどのくらいの規模なのか？ どのくらい普及しているのか？ バハイは死後の世界を信じるのか？ バハイ信教の基本原則は何か？ 想像できるように、信教に関連する事実の数は圧倒的な多さです。一定の機会にどのような情報を提供するかは、会話の内容によって異なります。しかし、探求者が調査の初期段階で通常学ぶ必要のある事実がいくつかあり、それらについて考えることは、非常に有益です。以下の空欄に、あなたが伝えたいと思う情報をいくつか書き出してください。リストを作成する際には、あまり厳密になりすぎる必要はありません。この後のセクションで、他のいくつかのポイントについて話し合った後で、リストを見直し、修正することが求められるでしょう。

セクション 5

前のセクションでは、私たちが信教を教える努力の中で人々に伝えるメッセージの一面、すなわち、情報について検討しました。しかし、私たちは、ティーチングは情報を与える以上のことを含んでいることを知っています。例えば、バハイの信念にとって最も中心的な事実である、バハオラが今日の『神の顕示者』であるということについて考えてみましょう。「バハイは、バハオラが今日の『神の顕示者』であると信じている」という声明は、それ自体、情報の一項目——疑いもなく、宇宙において最も重要な情報の項目ですが——に過ぎません。しかし、多くの人々がバハオラの地位を認めるのを助ける上で、これは十分な表明なのでしょうか。

次に、この事実に関連しているとはいえ、単なる情報ではないもの、すなわち、「バハオラは今日の『神の顕示者』である」という概念について考えてみましょう。情報の断片はただ与え、受け取るだけでよいのに対して、概念を吸収するには理解が必要です。バハオラは「神」、そして「顕示者」という言葉で何を意味しているのでしょうか、そして、今日の『神の顕示者』であるという彼の主張の本質は何なのでしょうか？

もう一つの例は、「バハイはバハオラによってもたらされた法に従う」という声明です。この文は明らかに情報の一項目であり、非常に重要なものです。しかし、この情報を単に提供することは、その人がバハイとして特定の法に従わなければならないことを誰かに対して説明する際のごく小さな部分です。その説明をするためには、相手の人がいくつかの関連するアイデアについて、少なくとも、ある程度の理解を得られるよう援助される必要があります。例として、バハオラがご自身の法を「わがしもべらに与えられたわが愛情あふれる摂理のランプであり、わが創造物に対するわが慈悲の鍵である」と述べるときに、バハオラによって描写された「法」の深く美しい概念があります。

一度、情報と概念の区別がつけば、かなりの数の概念を特定することは難しくないでしょう。その概念を理解することで、探求者はバハオラを認め、バハオラの信者の仲間入りをすることを助けます。そのようなリストを作ってみてください。リストの長さや順番は気にせず、頭に浮かんだ概念をすべて書き留めてください。また後で戻ってきて、リストを見直す時間をとるようになります。

さて、あなたのリストと、このコースを学んでいる仲間のリストを比べてみてください。

セクション 6

概念と情報の区別について考えてきましたが、次に、信教について学ぶことに興味があるが、信教についてほとんど知らない人と最初に交わす会話で、あなたが何を話すかに焦点を

あてて話し合ってみましょう。あなたの目的は、探求者の心の都の門をバハオラに向けて開く手助けをすることであることを忘れないでください。もちろん、あなたは聞き手に特定の情報を提供し、いくつかの基本的な概念を理解する手助けをしなければなりません。明らかに、あなたが伝えたい中心的な概念は、バハオラが今日の『神の顕示者』である、ということです。なぜなら、この理解に基づいて、その人はバハイ共同体に加わることを決めるからです。この中心的な概念を念頭に置きながら、その概念を明確にし、探求者をバハオラの地位の認識へと導く助けとなるような、多くのことを話さなければなりません。

あなたが提示する概念と情報、そして、それを行う順序を選ぶ際には、万国正議院によって書かれた次の一節に細心の注意を払う必要があります。

バハイであることを宣言する人は、教えの美しさ^{みりょう}に魅了され、バハオラの愛に心動かされていなければなりません。宣言する人は、信教の証明、歴史、法、原則をすべて知っている必要はありませんが、宣言に向かう過程で、信仰の火花を捉えることに加えて、信教の『中心人物』、従うべき法、従うべき行政の存在について基本的に知っておかなければなりません。³

さて、セクション 4, 5 で準備した概念と情報のリストに戻ってください。上記の万国正議院の言葉に基づいて、情報のリストに何を加え、何を除くか^{のぞ}を決めましょう。新しいリストを作成し、信教の紹介で提示する順番に項目を並べます。概念のリストも同じようにしてください。

情報: _____

概念： _____

セクション 7

信教を初めて説明するときに、どのような概念や情報を盛り込めばよいかをさらに考えやすくするために、想像上の状況を取り上げて、何が語られているかを分析してみましょう。

アンナは 17 歳のユースで、家族と一緒に小さな村に住み、近くの町の学校に通っています。彼女はカトリックとして育ち、4 年前に兄を通して信教を知りました。それ以来、彼女はインスティテュートのコースを学び、村の若い母親から助けられながら、週に一度、バハイ子どもクラスを開くなど、奉仕活動を行っています。

エミリアはアンナと同じ学校に通っています。彼女もまた、カトリックとして育ちました。バハイ信教については聞いたことはありますが、ほとんど知りません。彼女自身の信条については、

宗教にはあまり関心はありませんが、キリストの愛を心に抱いている、優しい人です。アンナが、自分が教えている子どもたちのクラスに来ないかと誘うと、エミリアは喜んで参加します。彼女はクラスを手伝い、子どもたちが祈りやバハイの聖典からの引用文を覚えるのを手伝うのが好きです。バハオラの言葉が彼女の心に触れ、彼女はアンナに言います。「バハイ信教について、もっと教えてくれない？」

この後のセクションでは、アンナが友達にティーチングし始めるに当たって、導入となる発言を読むこととなります。この文章をよく読み、それに対応する練習問題を注意深く実行してください。これらの練習問題は、あなたが様々なグループの人々に信教をどのように説明するかについて、結論を出すのを助けるよう設計されています。これらのセクションに進む前に、あなたがティーチングする可能性の高い人々の背景を以下に書いておくとよいでしょう。

セクション 8

アンナは、エミリアへの信教の説明を次のように始めます。

バハイ信教が世界宗教であり、その教えの中心は人類の一体性であることは既知っているでしょう。バハイはバハオラの信者で、バハオラこそ、すべての時代に約束された御方であると信じています。ほとんどすべての民族の伝統には、地上に平和と調和が確立され、人類が繁栄に生きる未来の約束が含まれています。私たちは、約束の時が来たこと、そしてバハオラこそ、その教えによって人類が新しい世界を築くことを可能にする偉大な御方であると信じています。バハオラは、聖典の中で次のように述べておられます。

一つの普遍的な大業、一つの共通の信教のもとに全人類が融合されること。主は、これを世の病を癒す最高の治療薬、そして最強の手段と定めたのである。⁴

もしよければ、バハイ信教の教えが神と私たちの関係をどのように描写しているかについて、最初に少しお話ししましょう。バハオラは、神はその本質において知ることができないと教えておられます。このことは、私たちの心にある神のイメージ、例えば、神を人間として考えることは、私たち自身の想像力の産物であることを意味します。一般的に、創造されたものは創造者を理解できません。たとえば、テーブルが、それを作った大工の性質を理解することはできません。大工の存在は、大工が作った物体にはまったく理解の埒外です。

神は万物の創造主です。人類は神の愛によって創造されたのだとバハオラは仰っています。彼は述べておられます。

おお人の子よ！われ汝の創造を愛した。さればこそわれ汝を創った。されば汝、われを愛せよ。われ汝の名を呼び、汝の魂を生命の生気もて満たし得んがために。⁵

ですから、神の存在は私たちの理解をはるかに超えています。神の愛は絶え間なく私たちの生命と存在に触れています。この愛が私たちに注がれる方法は、神の永遠の聖約を通してです。この永遠の聖約によれば、神は決して私たちに、導きもなしに独りにして置いていくということはありません。いつの時代も、人類が神から離れ、神の教えを忘れると、神の顕示者が現れ、神のご意志と目的を私たちに知らせます。

「顕示する」とは、明らかにすること、それまで知られていなかったものを表すことを意味します。神の顕示者とは、神の御言葉とご意思を人類に明らかにする特別な存在です。ですから、私たちが彼らの言葉を聴くとき、私たちは神の呼びかけに応えているのです。

バハオラによって教えられた「顕示者」の概念を理解するのに役立つ、物質界の例があります。この世界では、太陽はすべての暖かさや光の源であり、それなしには、この惑星に生命は存在しません。しかし、太陽そのものは地上に降りてくることはなく、私たちがもし太陽に近づこうとすれば、完全に焼き尽くされてしまうでしょう。

しかし、よく磨かれた鏡を太陽に向けたとします。鏡が完璧に磨かれていればいほど、その面に映る像は完璧なものとなります。神の顕示者は、完璧な『鏡』のように、『神の

光』をその輝き全てで映し出します。そして、これらの『鏡』はすべて同じ『光』を反射します。神は私たちの手の届かないところに在るのですが、これらの完全な『存在』は、時代時代に私たちのもとにやってきて、私たちの中に住み、私たちに導きを与え、私たちが物質的にも精神的にも進歩するために必要なエネルギーで満たしてくれます。

あなたは幸運にも、神の顕示者であり、『神の子』という地位にあるキリストを通して、約二千年前に神が人類に送られた教えに従って育てられてきました。今、あなたは、『神の栄光』を意味する称号を持つ、新たな顕示者バハオラの教えを受け取ることができます。バハオラの教えは、キリストの教えと完全に調和していますが、今日の人類の状況に対応するものです。人類の苦境について少し考えてみれば、神のもう一人の顕示者が現れるべき時が来ていることに、あなたが同意すると確信しています。私たちが生きている、この『日』について述べている、バハオラの聖典の一節を暗唱させてください。

今日こそは、神の最もすばらしい恩寵^{おんちよう}が人々の上に注^{そそ}がれている日であり、神の最も偉大なる恩恵^{おんち}がすべての創造物に浸透している日である。
汝^{なんじ}らの間の不和を解消し、完全なる和合と平和をもって神の保護と慈愛の木陰^{こかげ}に定住せよ。これは世界のすべての人々に課せられた義務である、人々はまた、この時代に彼らの地位を高め、彼らの真の利益を促進するものにすがらねばならない。⁶

先に進む前に、ここで一旦止まって、あなたが持っている疑問について話し合うことにしましょう。私が今、お話ししたことについて、どう思いますか？

セクション 9

では、アンナがこれまでに話したことを検証してみましょう。以下の練習問題で、彼女のプレゼンテーションの五つの側面を分析します。あなたが同意する声明に○をつけてください。これらの練習問題では、長々と話し合う必要はありません。それぞれの声明を読み、検証し、同意するかどうかを判断してください。覚えておくべき重要な点は、信教を教えるということは、学びの姿勢^{のぞ}で臨むべきだということです。

1. アンナはまず、バハイ信教が世界宗教であり、その教えの中心は人類の一体性であると述べています。そして、彼女はすぐにバハオラをすべての時代に約束された御方として紹介します。

_____ 約束された御方という概念は、どの宗教的伝統にも何らかの形で存在するから、バハオラを約束された御方として即座に紹介することは、キリスト教徒、ムスリム、ヒンドゥー教徒、仏教徒など、あらゆる宗教を信じる人々に信教を紹介する優れた方法だ。

_____ 現代人の多くは、たとえ宗教に属していたとしても、宗教にあまり関心がない。だから、バハオラという『人物』を即座に紹介しない方が最善だ。男女平等、あらゆる偏見の撤廃^{てっばい}、普遍的な平和など、様々な原則を少し詳しく説明しながら、バハイの信条についてまず話す方が効果的だ。

_____ 神を信じることに難色を示す人にティーチングする場合でも、あなたは、すぐにバハオラという『人物』を紹介することができる。しかし、その場合、最初は、彼を、時代時代に人類のもとにやって来る普遍的な教育者の一人として言及するだろう。その後で、「神の顕示者」という概念を導入する。

_____ もしアンナが、バハオラをすべての時代に約束された御方として紹介した後、エミリアにバハオラがそれぞれの預言^{よげん じょうじゅ}を成就する存在であることを証明するために、多くの預言を引用するのであれば、アンナのプレゼンテーションはさらに効果的なものになるだろう。

_____ 多くの場合、バハオラの地位の正当性を人々に納得させるために預言を用いると、困難が生じる。それは、人々を思慮深く考える気分^{きんぷん}にさせるのではなく、論争的にさせる傾向があるためだ。アンナは、バハオラがすべての時代に約束された御方であるという重要な考えを伝えているが、詳細には踏み込まないのが正しい。

2. バハオラという人物についてエミリアと話した後、アンナは神の概念と神と人間の関係について簡単に説明します。特に注目すべきは、彼女がこれらの考えを紹介する仕方です。彼女は、「バハイは……を信じている」、ましてや「私は……を信じている」という言い方をしませんでした。彼女は、焦点がバハオラから外れないように、バハオラの教えから引き出していることを明確にしています。

_____ 今日の世界では、信教についての会話で、神について、そして神と人類との関係について、あまりに早く話してしまうと、人々の興味を削いでしまう。ほと

んどの人は、精神的な問題よりも社会的な問題に関心がある。アンナは、この話題を持ち出さない方がいいだろう。

_____ バハイの教えの中で説明されているように、神は知ることのできない『本質』であるという考えを紹介することは、あらゆる宗教的背景を持つ探求者にとって、また神を信じるのが困難な人にとっても非常に有益だ。この考えを説明することで、即座に、信教と、あらゆる種類の迷信的で非合理的な信念との間に一線^{かく}を画すことができる。同時に、この考えは、自らの存在の『源』を認識したいという探求者の魂の切望に呼びかけるものだ。

3. アンナは、バハオラとキリストに言及するたびに、「顕示者」という言葉を使うように注意しています。鏡のイメージは、エミリアに、この概念を説明するのに役立ちます。

_____ 「顕示者」という言葉は難しすぎる。アンナは「預言者」という言葉を使うべきだ。

_____ カトリックの背景を持つ人は、キリストを預言者と呼ぶのは失礼だと考えるだろう。それと同じで、アンナがバハオラを「預言者」と呼ぶと、バハオラの地位はキリストの地位より下であるという印象をエミリアに与えることになる。

_____ ムスリムに教える場合、ムスリムはムハンマドを神の使徒^{しと}と呼ぶので、「使徒」という言葉を効果的に使うことができるが、「神の顕示者」という概念も説明すべきである。

_____ バハオラがキリストの再来であると明言することを避けるのが、アンナにとって正しいことだ。「再来」という概念は人々の頭の中で混乱しており、それがエミリアにとって何を意味するのか知る術^{すべ}がないからだ。鏡のアナロジー(類推)を使うことで、アンナは問題を混乱させることなく概念を伝えることができる。

_____ アンナが「神の子としてのキリスト」という概念にこだわらないのは賢明である。彼女は単にそのことに触れ、そしてバハオラは『神の栄光』であると述べている。そうすることで、アンナは会話の流れを逸^そらすことなく、ある真理を認めている。

_____ ヒンドゥー教の背景を持つ人にティーチングする場合でも、「顕示者」の概念を説明するために鏡のイメージを使うだろう。しかし、キリストに言及する代わりに、クリシュナの次の声明に言及する。「バーラトよ、正義が衰^{おとろ}え、無宗教

が台頭するときはいつでも、そのときこそ、わが霊を送り出すときである。善なる者を救い、悪しき者を滅ぼし、真の宗教を堅固に確立するために、私は時代から時代へと自らを顕示する」

_____ アンナは、神を知ることのできない『本質』であると紹介することで、神を知る扉は私たちには閉ざされていることを認めている。しかし、神はその慈悲ゆえに、完全な『鏡』として、神のすべての属性を反映し、神の御目的を明らかにする神の顕示者を私たちのもとに送ってくださる。この「神の顕示者」という概念の説明は、神を信じることに難色を示す人々を含む、すべての人に適している。神を信じることの困難は、たいてい、一般に神が描写される仕方に起因するものだ。

4. エミリアと話している間、アンナは何度かバハオラの聖典から直接引用しています。

_____ 引用文の言葉は難しすぎる。アンナとしては、聖典からの直接の引用は避け、特にプレゼンテーションの初めにおいては自分の言葉で考えを述べた方がいいだろう。それに、伝道者が話しているように聞こえてしまう危険性もある。

_____ アンナは自然な方法で引用文をプレゼンテーションに織り込んでおり、バハオラによる助言に非常に忠実である。たとえ、彼女の友人エミリアがその引用文を完全に理解していなくても、その言葉は彼女の心に影響を与えるだろう。

5. アンナはまた、エミリアと難しい概念について話し合う際に、二つのアナロジー(類推)を使っています。上述したように、太陽と鏡のアナロジーは、アンナが「神の顕示者」という言葉を説明するのに役立ちます。もう一つは、大工とテーブルのアナロジーで、神は人の理解を超えた存在であるという概念を説明しています。

_____ 信教を説明するときにアナロジーを使うと、相手に、自分は見下されていると思わせてしまう。人は子ども扱いされたくないものだ。

_____ アナロジーを使うことは、若い人、年配の人、学校に通っていない人、正式な教育を受けた人、すべての人にティーチングする効果的な方法だ。実際、アナロジーなしには、信教の教えに含まれる非常に奥深い真理を理解することは非常に難しいだろう。

セクション 10

アンナは、友達に自分の気持ちを表現したり質問したりする機会を与えるために間を置きましたが、この会話の初めの段階では、エミリアはほとんど何も言いません。彼女はアンナに、これまで聞いた話が好きだと言うだけです。彼女は特に、バハイ信教が物事を説明する際の明確な理由付けに感銘を受けています。アンナはさらに続けることにしました。

では、バハイ信教の中心的な教えである、人類は一つであるということに関連した考えをいくつか、お話ししましょう。バハオラは、私たちは一つの木の果実であり、一つの枝の葉であると教えています。私たちは、肉体的には互いに異なっていますが、才能や能力が異なっていますが、同じ根から生えているのです。私たちは皆、一つの人類家族に属しています。

人類は、あらゆる形、色、香りの花々が隣り合って育つ、広大な庭園にたとえることができます。庭園の魅力と美しさは、この多様性にあります。私たちは、身体的特徴、気質、生い立ち、思考や見解など、私たちの間に存在する違いを、対立や争いの原因にしてはいけません。私たちは、人類を構成する一人ひとりを、人類という庭に育つ美しい花と見なし、この庭に属することを喜ぶべきなのです。

人類の一体性は紛れもない真理ですが、地球上の人々はそこから遠く離れており、彼らを統一することは容易なことではありません。もしあなたがバハイ信教に入信することを選ぶなら——そして、そうしてくれるなら、私はとてもうれしいです——、あなたはバハオラを今日の『神の顕示者』として受け入れ、その教えを自分の生活だけでなく、私たちと共に、活気に満ちた統合された共同体を築く努力に生かすでしょう。私たちは皆、自分の思考と行動を、人類の一体性という信念に一致させようとしています。戦争への思いが心に浮かんだら、すぐに平和への思いに置き替えるべきだと言われています。憎しみの感情が心に形をとり始めたら、すぐにそれを愛の感情に置き換えるべきです。私たちは、偏見を克服するためにできる限りのことをすべきです。人種、肌の色、国籍、文化、宗教、性別による偏見は、より良い世界を築く上で最大の障害のいくつかです。バハイの聖典や書物には、和合の道を歩む方法と、他の人々が同じ道を歩むのを助ける方法を教えてくれる文節がたくさんあります。後でお話する、アブドル・バハという人物の講話の中に、私が暗記している、素晴らしい一節があります。彼は述べておられます。

バハオラは和合の輪わ えがを描かれました。彼はすべての人々を和合させ、普遍的和合のテントのもとに彼らみなを集合させる設計図を作られました。これは聖なる恩寵おんちようの仕事であり、私たちは、私たちの中に真の和合を築く

まで心をこめて精進しょうじんしなければなりません。精進すれば私たちには必要な力が与えられます。⁷

セクション 11

以下の練習問題は、アンナが行ったプレゼンテーションの二つの側面を分析するのに役立つでしょう。

1. この具体的なケースでは、アンナはまず、神とその顕示者について話し、次に和合の原則について話すことを選んでいきます。和合の原則から始めて、その後に神とその顕示者について論じるという、逆の順序で始めることもできたでしょう。おそらく、彼女はエミリアのことを知っているから、彼女にとって適切な順序だと思う最初の順序を選んだのでしょう。どちらか一方の順序に利点があると思いますか？ あなたが信教を提示するために選ぶ考えの順序は、ティーチングする相手によって変わるでしょうか？ だとしたら、どのように変わりますか？ いくつか例を挙げてください。

2. プレゼンテーションの中で、アンナは、エミリアがバハイとなり、個人としての成長を育み、活気に満ちた統合された共同体を築くために、教えを活用することを学ぶように

なることを希望しています。以下の声明のうち、あなたはどれに同意しますか。○をつけてください。

_____ まだ信教のことをほとんど知らない人をバハイ共同体に誘うのは愚かなことだ。エミリアは、友達が自分を改宗させようとしていることに憤慨しているだろう。

_____ エミリアにバハイになってほしいという希望を表明することで、アンナは節度を逸脱し、彼女を改宗させようとしている。

_____ 友達がバハイになることを願っていると表明することで、アンナは、エミリアがいつでもバハイ共同体に加わることを歓迎されていることを、早い段階で明らかにしている。しかし、彼女は、エミリアが不当なプレッシャーを感じないような方法でこのことを伝えている。

_____ アンナがエミリアに入信してほしいという希望を表明する理由はない。アンナは友達がますます共同体への奉仕活動に参加できるように手助けをすれば十分だ、本当に大切なのはそれなのだから。

_____ バハイ共同体に人々が加わることを望むなら、彼らが信教に近づくまで、いずれ彼らが何をしなければならぬかについては何も言うべきではない。さらに言うなら、そういった話は彼らが宣言した後まで待つべきだ。

_____ 悲しいことに、ほとんどの人は自分を利するものにだけ関心があり、自分の周りの世界のために何ができるかということには関心がない。アンナは、エミリアに、活気に満ちた統合された共同体を築く努力に参加することについて話すよりも、信教に入ったときに人が感じる愛と親交について話すべきだ。

_____ アンナは友達に、彼女がバハイになることが実際的に何を意味するのか、適切なバランスで伝えている。アンナは、バハイになることを深く考えさせる仕方では話しているが、圧倒させるような話し方ではない。アンナが選んだ引用文は特に効果的で、なぜなら、これによって、エミリアは自分の村の和合と進歩のために働く努力の中で自分が強められると理解するからだ。エミリアがバハイ共同体の一員になれば、彼女は受動的な観察者ではなく、大業のための積極的な働き手になるだろう。

セクション 12

現代人の多くがそうであるように、エミリアも和合に関するバハイの教えに強く惹かれていました。統合された共同体を築こうと、多くの場所で行われているバハイの努力について聞いたことに感激した彼女は、あらゆる種類の偏見によって引き起こされる害について、短いながらも活発な会話をアンナと始めました。その後、アンナはプレゼンテーションを再開します。

バハオラは 1817 年、イランの首都テヘランでお生まれになりました。幼少の頃から、バハオラは偉大さのしるしを見せました。家庭で多少の教育は受けたものの、学校教育を受ける必要はありませんでした。なぜなら、神から生来の知識を授かっていたからです。バハオラは高貴な家柄の出身で、若い頃、国王の宮廷で高い地位を提示されましたが、それを拒否されました。彼は、虐げられている人々、病人、貧しい人々を助け、正義の大義を擁護することに自分の時間を捧げたいと願いました。

バハオラの生涯の中で、特に触れておきたい二つの側面があります。一つは、彼が耐え忍んだ苦しみです。もう一つは、人々の心と知性に多大な影響を与えたことです。この二つは、実は、すべての『神の顕示者』の人生を特徴づけるものです。

バハオラの苦しみは、彼が神の大業を宣言するために立ち上がった瞬間から始まりました。彼の人生は、追放、投獄、迫害の連続でした。バハオラは、テヘランの暗く悲惨な地下牢に鎖でつながれました。彼は四回、ある土地から別の土地へと追放されました。この長い追放の間に啓示された書簡の一つに、彼はこう書いておられます。

私のいない時でも私の恵沢を忘れず、私の過ごした日々と、この辺境の牢獄での私の苦難と追放とを、日々記憶せよ。そして、たとえあなたの上に敵の剣が雨と降り注ぎ、天地が共にあなたに齒向かっても決してたじろぐことのないほどに私の愛に確固としたものであれ。⁸

バハオラは最終的にオスマン帝国の牢獄都市アッカに送られました。アッカのことを「最大の牢獄」と呼ぶほど、そこでの苦しみは激しいものでした。私は、小さなノートにバハイの聖典や書物の中から特に心に響いた文節を書き留めていて、いつもバッグの中にそのノートを入れています。バハオラがご自身の苦しみについて述べておられることを読んでみましょう。

古来の美が鎖に繋がれることに同意したのは、人類がその束縛から解放されるためであり、この最も強固な砦の囚人となることに甘んじたのは全世界が真の自由に達するようにするためである。古来の美は、地上のすべての人々が永遠の喜びを得て歓喜に満たされるよう悲哀の杯を飲み干したのである。これは汝らの主の慈悲である。彼こそは憐れみ深く、最も慈悲深き御方におわす。おお、神の一体性を信ずるものらよ。われは、汝らが高められるようにと卑しめられることを受け入れ、汝らが繁栄するようにと無数の苦悩に耐えるのである。全世界の再建のために到来した彼のおかれた状況を見よ。自らを神の協同者と称するものらによって、彼は最も荒廃した都市に住むことを強いられたのである。⁹

イラン国王とオスマン帝国皇帝の二つの強力な宮廷は、バハオラに反対し、その教えの普及を阻止するためにあらゆる努力を払いました。しかし、『真理の光』はそう簡単に消されることはありません。炎を消すために、この火に注がれた水そのものが油に変わり、火はさらに激しく燃え上がるのです。何もかも、バハオラの影響の拡大を止めることはできませんでした。当局が彼を追放すればするほど、彼の教えに惹かれ、彼の力と威厳を認める人々の数は増えていったのです。絶え間ない迫害にもかかわらず、バハオラは40年以上にわたって神の御言葉を啓示し続け、最終的には全世界を再生させるほどの途方もない精神的エネルギーを放出されました。

バハオラは1892年にこの世を去りました。私たちが地上で最も神聖な場所と考えている彼の廟は、アッカ市の近くにあります。ここに、廟の入り口とそれを取り囲む庭園の写真があります。私がどれほど聖地へ巡礼に行きたいか、きっとわかってもらえないでしょう。いつの日か、あなたも聖地へ巡礼に行くことができるよう願っています。

セクション 13

以下の練習問題は、バハオラの生涯についてのアンナの話の様々な側面を探るものです。

1. バハオラの生涯を話すにあたって、アンナは伝えたい二つの主要な概念を選んでいきます。その過程で、彼女はバハオラの生涯についていくつかの事実を提示しますが、明らかに多くの情報を伝えようという意図からではありません。アンナは自分が望んで

いるように、もしエミリアがバハイになれば、バハオラの生涯についてもっと詳しく学ぶ
だろうとわかっています。彼女が伝えようとしている二つの概念とは何でしょうか？

a. _____

b. _____

2. なぜ、彼女はこの二つの概念を選んだと思いますか？ _____

3. この二つの概念が、エミリアにとって今の段階で理解すべき最も重要なものだというア
ンナの意見に同意しますか？ そうでない場合、他に提案はありますか？

4. アンナがバハオラの生涯についての話で伝えた情報の項目をリストにしてください。

5. この段階で提示する必要があると思われる、他の情報はありますか？

6. アンナは、二つの主要な概念と必要な情報を伝えようとしているだけでなく、明らかに、ある感情をエミリアに伝えようとしています。それは何でしょうか？ 彼女はそれに成功したでしょうか？

-
-
7. バハオラの生涯についてのアンナのプレゼンテーションについて考えてきましたが、異なる宗教的背景を持つ人、あるいはそれを全く持たない人に話すとしたら、その内容を修正する必要があると思いますか？ もしそうなら、どのような変更を加えるか、いくつか例を挙げてください。
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

セクション 14

バハオラが被^{こうむ}った苦しみについての彼ご自身の言葉を聞いて、エミリアは目に見えて感動していました。彼女はもちろん、キリストが人類の救済のために命を捧げたことを覚えています。そこで二人の友人は、力に満ち給う御方でありながら、私たちが真の自由を得るために苦悩を進んで受け入れる『神の顕示者』たちの苦しみの意味について、しばらく会話しました。それから、アンナは、プレゼンテーションを続けて、バハイ信教のもう一人の中心人物であるバブを紹介してもいいか、エミリアに尋ねました。彼女は次のように続けます。

バハオラがその使命を宣言する数年前、神はバハオラの到来を告げる特別な使者を

つか
遣わされました。この偉大な人物は、自らも『神の顕示者』であり、「門」を意味する「バブ」という称号を名乗りました。彼はまさに、神の知識への門であり、人間存在における新しい時代への門だったのです。彼は6年間、自分よりもさらに偉大な御方の出現が近いことを絶え間なく教え、その御方の到来への道を準備しました。彼は人々に、新しい時代の夜明け、『約束された神の日』の夜明けをあなたたちは目撃しているのだ、と告げました。そして、「神が顕し給う御方」を認めることができるように、地上の虚栄から心を清めるよう呼びかけました。

何千、何万という人々がバブのメッセージを受け入れ、その教えに従い始めました。しかし、イラン政府と、大衆を支配する強力な聖職者たちは、バブに反旗を翻しました。バブの信者たちは迫害され、多くの人々が死刑に処せられたのです。政府の命令のもと、バブを公の広場に吊るし、バブに向かって発砲した兵士の連隊によって、バブご自身が31歳で殉教なされました。

バブの言葉がいかにか心に貫くものかを知ることができるように、バブの祈りを二つ暗唱させてください。

神の他に困難を除去し得るものがあるだろうか。おお神に誉れあれ。彼こそは神におわします。すべてが彼の僕であり、すべてが彼に従うものであります。¹⁰

ことあ
言挙げよ。神はすべてのものを超えてすべてに満ち足り給う。天上にも地上にも神の他に満ち足らしめ給うものなし。まことに、神こそは知り給う御方、支え給う御方、全能なる御方におわします。¹¹

多くのバハイは、特に最初の祈りを暗記しており、困難の中にある時に暗唱します。もし望むなら、ここで少し時間を取って、それを暗記することができます。この祈りを暗記するのは本当に簡単ですよ。

エミリアが暗記をしてから、アンナは続けます。

殉教後まもなく、バブのご遺体は信者たちによって取り戻され、信教の敵の目から常に隠されながら、あちこちに運ばれました。そしてついに、聖地のカルメル山に移されまし

た。ハイファ市にあるバブの廟と、同市と湾を隔てたアッカ市にある他の聖なる場所の写真がいくつかここにあるので、見てください。今日、この二つの市はバハイ信教の精神的・行政的な中心地です。精神的な中心地であるのは、バブとバハオラの廟とその他の聖なる場所がここにあるためであり、行政的な中心地であるのは、信教の最高統治機関である万国正義院の座がカルメル山に位置しているためです。

セクション 15

下の練習問題は、アンナのプレゼンテーションのこの部分について考える助けとなるでしょう。

1. アンナがバブの生涯について話す中で伝えている重要な概念や情報の項目をリストにしてください。

概念: _____

2. アンナが行っているような信教のプレゼンテーションにおいて、なぜ早い段階で、バブという人物を紹介することが重要なのでしょうか？

セクション 16

いつい
一対の顕示者の生涯を簡単に説明した後、アンナはアブドル・バハについて、そして、バハオラの聖約について話を進めます。

バハイとしての私たちの生活の最も中心となる考えは、私たちがバハオラと、ある契約を結んだということです。ご存知のように、他のすべての宗教では、顕示者の逝去後、その信者たちの間で果てしない論争が起こり、その結果、宗教は多くの宗派しゅうはに分裂しました。不和の原因は、複数の、野心的な個人の側からの、指導者になりたいという欲望であることもありました。しかし、誠実な信者同士でさえ、顕示者の言葉の意味するところにつ

いて意見の相違が生じたとき、それを解決する権限を顕示者ご自身から与えられた者は誰もいなかったため、このことが対立と不和を助長しました。解釈のそれぞれ一式が、異なる宗派を生み出すことになったのです。

バハオラは、このような分裂から信教を守るために、比類のない力、すなわち聖約の力を授けられました。逝去される前に、バハオラは、ご自身の逝去後、すべてのバハイはアブドル・バハに顔を向けるべきであると、最も明確な言葉で文書に述べられました。バハオラの長男であるアブドル・バハは、こうして、バハオラの言葉の唯一の解釈者であり、バハオラの聖約の『中心』であると指名されたのです。彼はバハオラご自身によって育てられ、幼い頃からバハオラの地位を認め、お父上の苦しみを分かち合ってきました。彼こそ人類に与えられた最も貴重な贈り物、バハイの教えのすべての完全な『模範者』でした。

アブドル・バハは 77 年間、この地上で生きられました。彼は 1844 年にバブがその使命を宣言した同じ夜に生まれ、1921 年 11 月にこの世を去りました。その生涯は苦悩に満ちたものでしたが、ご自分の面前に立ったすべての人に、彼はこの上ない喜びと幸福をもたらしました。お父上の逝去後、バハイ共同体に対する責任は彼の肩にかかり、彼は東洋と西洋に信教を広めるために、日夜、精力的に働かれました。彼は何千もの書簡をあらゆる地の個人やグループに向けて書き、お父上の教えをはっきり説明しました。彼の解釈は現在、バハイ信教の聖典の重要な一部となっています。

バハオラの聖約の『中心』としてアブドル・バハに焦点を置くことで、世界のバハイは、バハイの人生を生き、社会の変革に貢献する努力において、和合し続けることができます。私たちは、バハオラとの約束の一部として、互いに愛し合うこと、そして、アブドル・バハの中に、愛の完全な^{あらわ}顕れを見るということを心に^と留めています。私たちは、正義を支持しなければならないこと、寛大でなければならないこと、他の人の欠点を見過ぎなければならないこと、そして、アブドル・バハの模範から正義、寛大さ、許しを学ぶことを心に留めています。何よりも、アブドル・バハに焦点を合わせることで、バハオラの信者たちの和合を壊すことを決して許さず、世界的な共同体として和合し、人類の一体性がしっかりと確立されるまで精力的に働くというバハオラとの契約を私たちは常に意識するのです。

アブドル・バハはその遺訓^{いくん}の中で、ご自身の孫であるショーギ・エフェンディを信教の守護者に指名し、アブドル・バハの逝去後、彼はバハオラの言葉の、権威ある解釈者となりました。彼は 36 年間、祖父の仕事を引き継ぎ、顕示者の教えをはっきりと説明し、地球上のあらゆる場所でバハオラの信教を確固たるものにしました。守護者が亡くなって 5 年半後、世界のバハイは、バハオラによって構想され、アブドル・バハと守護者によって明確に

説明された万国正議院を選出しました。万国正議院は、今日、世界のすべてのバハイが顔を向ける、信教の最高の機構です。

セクション 17

おそらく、アンナのプレゼンテーションのこの部分が重みのあるものであることにお気づきでしょう。というのも、アンナはエミリアに対し、非常に奥深い概念をわずかな言葉で説明しているからです。以下の練習問題は、彼女の発言をより詳細に検討するのに役立つでしょう。

1. ここまでのところ、アンナは、セクション 6 で引用した万国正議院の声明に従って、エミリアに、信教の『先駆者』^{せんくしゃ}であるバブとその『著者』であるバハオラの地位について話してきました。彼女は今、エミリアがアブドル・バハの地位を認識するのを助けたいと考えています。そのために、アンナはバハオラの聖約の概念も紹介します。彼女は、エミリアが相互に関連する、この二つの概念をある程度理解するのを助けるために、多くの事実を提示しています。

以下に、そうした事実のいくつかを列挙します。それぞれの声明は、エミリアがこの二つの概念のどちらか一方、あるいは両方について理解するのに役立つことを意図しています。アブドル・バハの地位の概念を大きく補強していると感じるものには「1」を、バハオラの聖約の概念に向けられていると感じるものには「2」を書いてください。ある声明が両方の概念の理解に等しく寄与していると感じる場合は、その横に「1」と「2」を書いてください。

- _____ 他のすべての宗教は、明確に、権威を授けられた解釈者がいないために、数多くの宗派に分かれている。
- _____ アブドル・バハはバハオラの聖約の『中心』だ。
- _____ アブドル・バハはバハオラの言葉の解釈者である。
- _____ 万国正義院の設立は、バハオラによって構想された。
- _____ アブドル・バハは、遺訓の中でご自身の孫を信教の守護者に指名なされた。
- _____ アブドル・バハは、信教の教えを明確にする何千もの書簡をお書きになった。
- _____ バハオラは、聖約の力を与えることによって、信教を分裂から保護された。

- _____ アブドル・バハは、バハオラの教えの完全な模範者だ。
- _____ アブドル・バハは、彼の面前に立つすべての人に喜びと幸福をもたらした。
- _____ バハオラは、ご自分の逝去後、すべてのバハイはアブドル・バハに顔を向けるべきであると、最も明瞭な言葉で文書に述べられた。
- _____ 指導者になりたいという欲望は、宗教の不和の原因となり得る。
- _____ アブドル・バハは、東洋と西洋に信教を広めるために、昼も夜も精力的に働かれた。
- _____ 世界のバハイは、守護者の逝去後、速やかに万国正義院を選出した。
- _____ 宗教における、権威を授けられた解釈者の不在は、対立と不和の扉を開く。

セクション 18

バハオラの聖約とアブドル・バハの地位について説明している間、アンナはエミリアがやや圧倒されていることに気づきました。彼女は素早く、頭の中で、目の前にある二つの選択肢を比較しました。時間をかけてこのテーマについてもっと深く話し合うか、それともこのままプレゼンテーションを続けて、近いうちにまた別の会話で聖約のテーマを一緒に学ぶか。彼女は二つ目の行動の道筋を選び、こう続けました。

この最後のテーマについて私が説明した考えの多くは、じっくり考えることが求められます。もし同意してくれるなら、別の機会に、このテーマについてもっと深く話し合いたしましょう。その話し合いのために、バハオラの『聖約の書』と『アブドル・バハの遺訓』からいくつかの文節を準備してくるので、一緒にそれを読みましょう。しかし、バハイ信教について最初から知っておくことが重要な、他の考えがいくつかあるので説明を続けさせてください。

エミリアはそれに同意し、今、聞いた説明が気に入ったこと、バハオラの聖約の重要性を垣間見ることができたこと、このテーマについてもっと学ぶのが楽しみであると、丁寧に述べました。アンナはうれしそうに、そしてリラックスして、こう続けました。

どの宗教にとっても重要なのは、人類を正しい道に導くために顕示者がもたらす法です。これらの法や命令の中には永遠なものもあれば、人類の進歩や進化に伴って変化するものもあります。信教では、バハイの法をひと揃いの規則、一連のやるべきこと・やって

はいけないこととして考えるべきではないと教えられています。バハオラによれば、バハイの法は「わがしもべらに与えられたわが愛情あふれる摂理のランプであり、わが創造物に対するわが慈悲の鍵」^{かぎ}なのです。また、私たちは罰を恐れて、これらの法に従うべきではありません。次のように、バハオラが彼の最も聖なる書に述べておられるからです。「わが美を愛するがために、わが法をしたがえ」。

バハイの法の例をいくつか挙げれば、これらのアイデアがさらに明確になるでしょう。物質的世界では、人間は毎日食事をしなければなりません。これは人間の身体の要求なのです。食べなければ病気になり、すぐに死んでしまうでしょう。つまり、毎日食べることは、従わなければならない、物質的存在にとっての法なのです。同じように、バハオラの命令の一つに、毎日祈りなさいというものがあります。私たちの身体と同様に、私たちの魂も絶え間ない栄養を必要としており、祈りは私たちの精神的成長のための栄養を提供してくれます。バハオラやバブ、アブドル・バハによって啓示された美しい祈りがたくさんあり、一人でいるとき、そして集まりのときに唱えることができます。いくつかの祈りは義務的なもので、他のいくつかの祈りと共に特別な効力を持ちます。日々の必須の祈りの一つは次のとおりです。

神様、あなたが私を創り給いましたのは、あなたを知り、あなたを崇拜^{すうはい}するためでありますことを証言いたします。今こそ私の無力なことと、あなたの御力^{おお}の大きいなることを、また私の貧しさ^{おん}と、あなたの御豊さとを証言いたします。

あなたの他に神はいまさず、あなたは危難^みの中の御救いにおわし、ご自力にて存在し給う御方にまします。¹²

これは短くて美しい祈りです。祈りの一節を暗記することがあなたにとって、いかに簡単かをさっき見たので、この祈りも何度か繰り返せば、きっと暗記できると思います。

もう一つの命令において、バハオラは陰口^{かげぐち}や中傷を禁じています。これは重要なことです。というのも、よく考えてみれば、和合の最大の敵の一つは陰口だからです。そして残念なことに、他の人の欠点をその人のいないところで話すことは、ほとんどの人類の間で確立された習慣となっています。誰もが他の人の欠点を気にしているようであり、その欠点は絶えず言われることでますます大きくなっていきます。アブドル・バハは、私たちに逆

のことをするように言うておられます。私たちは他の人の欠点を見過ごし、許しの目で見
るべきです。神のために人を愛するべきです。アブドル・バハは、すべての人間には欠点
があり、人間そのものに目を向ければ、私たちは必ず不幸になると教えています。しかし、
もし私たちが神の方を向くなら、私たちは彼らを愛し、彼らに親切になるでしょう。

アンナの最後のコメントを特別な関心をもって聞いていたエミリアは、最近、学校で起こった
陰口で多くの人が傷ついた出来事を思い出します。二人の友達は、噂話^{うわさばなし}がいかにかに友情を壊
すかについてしばらく話し合った後、アンナはノートから次の文章を探し、読み上げました。

おおわが玉座^{ぎよくざ はんりよ}の伴侶よ！悪^あしきことを聞くな。また悪^あしきものを見る
な。汝^{なんじ}自らを卑^{いや}しくするな。歎^{なげ}き悲^{なげ}しむな。悪^あしきことを語るな。されば
それが汝^{なんじ}に語られることもなし。他人^{あやま}の過^{なんびと}ちを誇^{くつじよく}張^{くつじよく}して語るな。されば
汝^{なんじ}自らの過^{なんびと}ちも大^{なんじ}げさに思^{なんじ}われず。何^{なんじ}人の屈辱^{なんじ}をも望^{なんじ}むな。されば汝^{なんじ}自
らの屈辱^{なんじ}もさらされまい。かくて汝^{なんじ}儂^{はかな}き一瞬^{はかな}よりも短^{はかな}き汝^{なんじ}の生涯^{はかな}の日々
を、汚^{けが}れなき心と清^{けが}き心情^{けが}と純潔^{けが}なる思考^{けが}と、また汝^{なんじ}の聖^{きよ}められたる性格^{きよ}
とをもちて生きよ。されば汝^{なんじ}自由^{なんじ}に満足^{なんじ}してこの死^{けいがい}すべき形骸^{けいがい}を放棄^{けいがい}し、
神秘^{しん び}なる楽園^{しん び}に行き、永遠^{しん び}に不滅^{しん び}なる王国^{しん び}に永久^{しん び}に住^{しん び}むを得^{しん び}ん。¹³

アンナは次のように続けます。

バハオラはまた、飲酒や、もちろん薬物乱用も禁じています。飲酒は、今日の世界に存
在する最大の社会悪の一つです。暴力の最も一般的な原因の一つであり、健全な家庭
生活を台無しにするものです。実を言うと、私はなぜ人が自分の知性を妨げ、明晰な思
考能力を失わせるようなものを摂取するの^{さまた}か、まったく理解^{めいせき}できません。私たちは実際
には気高く創造されたというのに、酒は人を恥^{さまた}ずべき行動^{めいせき}に走^{さまた}らせませす。気高さについて、
バハオラの聖典の中に美しい言葉があります。

おお心霊^{しんれい}の子よ！われ汝^{なんじ}を豊^{なんじ}かに創^{なんじ}れるに、何^{なんじ}故^{なんじ}汝^{なんじ}自ら貧^{なんじ}しくするや。
気^{なんじ}高くわれ汝^{なんじ}を創^{なんじ}れるに、何^{なんじ}故^{なんじ}汝^{なんじ}自ら卑^{いや}しくするや。知識^{せい か}の精^{せい か}華^{せい か}もてわれ汝^{なんじ}
を^{しょう}生^{なんじ}ぜしに、汝^{なんじ}何^{なんじ}故^{なんじ}われより他^{もと}の者^{もと}に教^{もと}化^{もと}を求^{もと}むるや。愛^{もと}の粘^{もと}土^{もと}もてわれ
汝^{なんじ}を創^{なんじ}りしに、汝^{なんじ}何^{なんじ}故^{なんじ}他^{まなこ}のもの^{まなこ}に没^{まなこ}頭^{まなこ}するや。汝^{なんじ}の眼^{まなこ}を汝^{なんじ}自ら^{まなこ}に向けよ。
されば汝^{なんじ}、汝^{なんじ}のうちに威^{じそん}光^{じそん}に輝^{じそん}き力^{じそん}強^{じそん}く自^{じそん}存^{じそん}しつ^{じそん}つあるわれを見^み出^みさん。¹⁴

バハオラのもう一つの命令で、特に私の心に響くものは、子どもを教育するという、両親

と社会の義務についてです。このことをよく説明している、アブドル・バハの聖典の短い一節が、私のノートにあります。

それゆえ、主に愛されし者らと、慈悲深き御方の侍女らは、心魂込めて、子どもを教育し、美德と完全性の学舎で教えなければならない。また、この点に関して、少しの怠慢や欠点も大目に見てはならない。...

神に愛されし者ら、慈悲深き御方の侍女らの第一の義務は、あらゆる手段を使って、女の子も男の子も、すべての子どもを教育することである。後者も前者と同じであり、両者には何の違いもないからである。女の子であれ男の子であれ、無知は非難されるべきであり、無頓着も非難されるべきである。「知っている者と知らない者、彼らは等しいだろうか」。¹⁵

この命令は非常に重要であるため、バハイ共同体はこの地域一帯の村々で、幼い子どもたちの精神的教育のためのクラスを開いています。私は今、バハイのトレーニング・インスティテュートが提供するコースを受けていて、その学びは、このようなクラスの一つを教える能力を養うのに役立っています。エミリア、あなたが何度か手伝いに来てくれたクラスです。インスティテュートのコースは、コースを学ぶ誰にでも、私たちの共同体への奉仕の道を開くものです。もし興味があれば、いつか、インスティテュートのコースについてお話ししましょう。

セクション 19

アンナが提示したアイデアについて考えるために、以下の練習問題を解いてください。

1. プレゼンテーションのこの部分において、アンナは万国正議院のガイダンスに従って、信教において従わなければならない法の存在を探求者に伝えようとしています。あなたは以下の声明のどれに同意しますか？

_____ 現段階では、アンナは法の問題を一切持ち出さない方がいいだろう。現代社会では、人々は個人の自由を重んじ、「宗教的な法」という考え方は彼らを遠ざけてしまう。

_____ アンナは、エミリアにバハイの法の全てではないにしても、ほとんどを述べる

べきだ。たとえば、相続、結婚、埋葬、ホゴゴラの法について。そうでないと、エミリアはバハイであることの意味を十分に知らされたことにならない。

最も重要なことは、エミリアがバハイ信教に法が存在するという事実を理解し、その法の性質をある程度わかって、バハイとして、自分が将来、法に従わなければならないことを認識することである。この段階では、彼女はすべての法が何であるかを知る必要はない。

アンナの目的のためには、一つの法、つまり祈りの法の例を挙げるだけで十分である。彼女は四つの法を提示することで、やり過ぎている。

アンナによる祈りの法の説明は非常に効果的である。まず私たちの身体的存在を支配する法を示すことで、アンナは私たちの精神的存在を支配する祈りの法の意味を説明することができる。このようなアプローチにより、アンナは、一般的に行われているような、神の法を一連の規則に矮小化することはしていない。

探求者に、バハオラによる酒の使用の禁止について話すことは、特に自立を確立し、大人になりつつあることを示そうとしている若者に対しては良い考えとは言えない。若者は当然、酒を飲んでみたくなるもので、それを禁止する法の話は、その人を信教から遠ざけるだけだ。

アンナが、バハオラによる酒の使用の禁止を紹介する方法は適切だ。酒が知性の明晰さに及ぼす影響について語ることで、彼女は法の知恵を示している。さらに、気高さという主題を導入することで、法をより高次の、精神的な文脈に置いている。

アンナは、バハオラの法への服従についてもっとしっかりと語らないことで、間違いを犯している。それどころか、彼女は行政的な制裁の問題を持ち出して、エミリアが従わなかったら、どのような結果になるかをわからせるべきだ。

アンナは、バハオラの法への服従について強調はしないが、服従は罰への恐れからではなく、神への愛から生まれるという考えをエミリアにはっきりと伝えている。エミリアがバハイになれば、法に従うことはバハオラへの愛の自然な帰結となるだろう。

あなたが、飲酒の問題を抱えている人にティーチングする場合、その人に酒

の使用を禁止する法を説明することが最も重要だろう。この場合、もちろん、バハイになったら、直ちに飲酒を止めなければならないと伝えねばならない。
あなたが、飲酒の問題を抱えている人にティーチングする場合、その人に酒の使用を禁止する法を説明することが最も重要だろう。しかし、その人の問題を認識した上で、バハイになった後も、誰にも見られない限り、酒を飲み続けても構わないと説明することもできるだろう。

あなたが、飲酒の問題を抱えている人にティーチングする場合、他の法と一緒に、その人に酒の使用を禁止する法を説明することが重要だろう。また、以下のことをあなたはその人に伝える。すべての法を守ることは必ずしも容易ではない。私たちは完璧ではなく、時には間違ふこともある。しかし、私たちがバハオラを受け入れ、バハオラに祈るとき、バハオラご自身が私たちの弱さを克服するよう助け、彼の法に従う力を与えてくださる。

2. もしあなたが、神を信じることに難色を示している人をティーチングしているとしましょう。それでもあなたは、その人に祈りの法を伝えますか？ その場合、どのようにしますか？

セクション 20

信教についての、アンナとエミリアの最初の会話は終わりに近づいています。エミリアは、アンナが提示したバハイの教えに大きな関心を示し、それに促されて、アンナはあるアイデアを比較的詳しく説明しました。さて、アンナは最後にこう述べなければなりません。

あなたは、私があなたに宗教に加わるよう招待しているのであって、単に素敵な理想のコレクションを受け入れるよう勧めているのではないことに気づいていると思います。実際、バハイ信教は非常に組織化された宗教であり、信者はバハオラの教えを自分自身の生活や社会生活に適用するために系統的に働いています。この仕事を世界文明の建設と考えることは、あなたにとって役に立つでしょう。万国正義院は、この努力に携わる三つの参加者がいて、それぞれが非常に重要な役割を担っていると教えています。

最初の参加者は個人です。個人の義務は、聖約に堅く留まり、自分の人生をバハイの教えに沿わせるために日々努力し、人生は死によって終わるものではなく、神との関係は永遠であるという事実を常に意識しながら、人類に奉仕することです。死後も、私たちの魂は神に向かって永遠に進歩し続けます。ここでの私たちの人生は、母親の胎内にいる子どもの人生によく似ています。子どもは約9ヶ月の間、目、耳、手など、この世に生まれた後に使われる能力を胎内で発達させます。これと同じように、私たちは神の他の世界で進歩するために必要な精神的能力を、ここで発達させるのです。もちろん、考えているだけでは目的は達成できません。むしろ、社会をより良くするために働く奉仕の現場でこそ、私たちは精神的にも知的にも成長するのです。

二番目の参加者は共同体です。人間は単独で存在するために創造されたわけではありません。私たちは共同体の中で生き、新しい文明を興すために協力しなければならないのです。私たちに最も近い共同体は、私たちの村や町のバハイで構成される地元の共同体です。しかし、私たちがどこに住んでいようと、奉仕の能力を高め、近隣地区や村の進歩に貢献する私たちの努力に加わるよう、誰もが招かれています。友人や隣人と共に働き、互いに協力し、共に前進し、和合することを学ぶのは地元の共同体においてです。地方レベルの共同体の一員であることに加えて、私たちは国レベルの共同体の一員でもあ

り、さらに、あらゆる宗教的背景、国籍、民族、人種、部族から絶えず、人々を惹きつけ、拡大している世界的なバハイ共同体の一員でもあるのです。

万国正義院は、信教の諸機構は新しい文明の建設における第三の参加者であると述べておられます。このことについては、聖約について話し合うときに、もう少しお話する必要があるでしょう。今のところ、バハオラの命令の中には、社会の組織のあり方に関するものが多く含まれているとだけ伝えておきます。過去において、神の顕示者たちは、その信者たちがどのように自分たちを組織すべきかについて多くを語らず、人々は自分たちでその方法を見つけなければなりません。しかし、バハイ信教の場合、私たちは、神の力によって考案された行政秩序の恩恵を受けています。つまり、バハオラご自身が、私たちがどのような機構を創るべきか、どのようにそれが機能するべきか、そして、人類がどのように自らを統治するべきかを教えてくださったということです。

最高の機構である万国正義院については、もうお話ししましたね。各国で、バハイは年に一度、全国精神行政会(NSA)を選出し、それぞれの地方では地方精神行政会(LSA)を選出します。あなたが最も早く知ることになる機構が、地方精神行政会です。バハイ信教には司祭や聖職者はおらず、共同体の諸事を切り盛りし、その地方の個々のメンバーの幸福を見守るのは地方精神行政会です。地方精神行政会は、祈りの雰囲気の中で、共同体の成人全員による無記名投票で選出された9人のメンバーで構成されます。精神行政会はバハイにとって非常に重要です。精神行政会を通して、私たちは人間の諸事がどのように管理されるべきか、そして、どのようにして社会に新しい秩序を築くことができるかを学びます。その秩序とは、将来、バハオラの世界秩序として知られるものです。

アンナとエミリアの会話はここで一区切りついたらと想像できるでしょう。エミリアは明らかに、また別の日に話し合いを続けたいと思っています。アンナはバッグから小さな祈りの本を取り出し、エミリアにプレゼントして、お別れする前に一緒にお祈りをしましょうと提案します。エミリアは本を開いて読みました。

おおわが神よ、私の心を清らかなものとなし給え。おお希望の君よ、私に安らかな良心をよみがえらせ給え。おおわが最愛なる御方よ、威力の靈により私を御教えに確固たらしめ給え。おおあこがれの的よ、ご栄光の光であなたの道を示し給え。おおわが存在の源よ、すべてを超越するあなたの強大なる御力により、私をあなたの聖き天上に引き上げ給え。おおわが

神にまします君よ、あなたの^{くおん}久遠の微風により私を喜ばせ給え。おおわが友よ、あなたの永遠の^{しら}調べを通じて私の上に安らぎの息吹を^{ただよ}漂わせ給え。おお師よ、^{いにしえ}古より続くお顔の^{とみ}富で私をあなた以外のあらゆるものから^と解き放ち給え。おお明らかなるものの中の最も明らかなる御方におわし、^{はな}隠れたるものの中の最も隠れたるものにまします君よ。あなたの^{ふきゅう}不朽のご^{しんずい}真髓の啓示の^{きつぼう}吉報により私に喜びをもたらし給え。¹⁶

アンナとエミリアの間での会話は、現実のものではありませんが、世界中の何千人ものバハイの経験に基づいています。物語の終わりとして、私たちは、数日後、さらに一度か二度の会話の後、エミリアがバハイ共同体に加わり、アンナの助けを得て、大業への奉仕の道に踏み出すと自信を持って言うことができるでしょう。

セクション 21

次の二つの練習問題を通して、アンナの全体的なプレゼンテーションを検証してみましょう。

1. アンナが友達と分かち合った考え、特に、その結びの言葉は、エミリアが、共同体の一員としての自らの責任、共同体の諸事への参加、信教の機構との将来的な関係をどのように認識するかに大きな影響を与えるでしょう。

アンナはどのような個人像を伝えようとしているのでしょうか？ その個人の特徴にはどのようなものがありますか？

アンナはバハイ共同体について、どのようなイメージを伝えようとしていますか？ その特徴にはどのようなものがありますか？

アンナは信教の機構について、どのようなイメージを伝えようとしていますか？ その特徴にはどのようなものがありますか？

2. 全体を通して、アンナは明らかに、エミリアがバハイ共同体に加わるための扉を開こうとしています。彼女が伝えようとしていることの主旨は次の内、どれだと思えますか？

_____ バハイはいい人たちであり、バハイ共同体は和合している。だから、あなたに、私たちに加わってほしいと願っているということ。

_____ バハイ信教には最も進歩的な精神的・社会的原則が含まれており、それをあなたは受け入れているのだから、あなたはバハイであるということ。

_____ 私があなたに伝えた短い紹介を聞いた今、あなたはバハイ信教を徹底的に勉強し、その後、バハイになるかどうかを決定する必要があるということ。

_____ 私が述べたこと、そしてあなたが持つかもしれない質問に対する更なる説明に基づいて、あなたがバハオラを今日の『神の顕示者』として認め、彼の献身的な信者の一人になりたいと感じるようになることを願っているということ。

セクション 22

私たちがこれまでのページで検討したプレゼンテーションは、セクション 6 の万国正議院の声明に大まかに従ったもので、バハイ信教についてほとんど知らないが、もっと学びたいと興味をもっている人に、バハイ信教の本質的な特徴を説明するための説得力ある一連の考えを示しています。私たちは、個人的なティーチングの努力という文脈で、二人の友達の間で、この探求を行いました。当然ながら、私たちが遭遇する状況は様々であり、自分のプレゼンテーションを特定の状況——自分が接触する人々の受容性の程度、信教に対する知識の程度とバハイ共同体との関連性の程度、および彼らの特定の背景——に合わせるために、すべてのティーチングの努力において準備する必要があります。ですから、アンナがエミリアと分かち合っているアイデアのプレゼンテーションをよく学ぶことが奨励されますが、さらに重要なのは、その根底にある論理を理解することです。そうすることのみ、あなたはアンナのプレゼンテーションを容易に利用し、それを一つの公式に変換しようとする衝動に抵抗し、それを状況に合わせて調整することができるのです。

ここで立ち止まり、何が問題になっているのかを少し考えてみることは、あなたにとって有益かもしれません。これらのコースによって開かれた奉仕の道を歩み始めてから、皆さんはバハイの教えとその『著者』について、他の人と会話するために必要な能力を着実に身につけてきました。あなたは今、さらに進んで、多様な状況下で知り合ったり、会ったりする人々の受容性と関心^{こた}に応えるような、説得力ある、信教のプレゼンテーションを行う能力を伸ばすよう求められています。本書で、プレゼンテーションと共に提供されている練習問題は、この能力の本質と、それがあなたに要求するものについて考える助けとなることを意図しています。以下に、あなたが最初に考えたことをいくつか書いてみてください。

セクション 23

上述したように、考察の対象になっている能力は、行動の場で発展し、より多くの人々に信教を教えるにつれて、時間をかけて強化されます。私たちの物語に登場するアンナのように、私たちは皆、友達や親戚、同僚や仲間を持ち、その一人ひとりが各自の方法で真理を探求しています。その内の何人かは、説得力ある直接的な方法でバハオラの教えを提示する会話において、バハオラのメッセージを探求することに対してオープンでしょう。私たちは、村や近隣地区の受容性のある集団の中での集団的キャンペーンの一環として、出会ったばかりの人々と同じような会話をすることもできません。後者の場合、私たちは万国正議院からの次のガイドンスを心に留めておくべきです。

そのような新しい友達との出会いが、すぐにバハイ共同体のメンバーに加入するよう誘うか、それとも共同体の活動の一つに参加するよう誘う出発点になるのかは^{あつとう}圧倒されるほどの問題ではありません。もっと重要なのは、バハイ共同体と一緒により良い社会の建設に貢献したいと思う人は誰でも歓迎されるということです。人類への奉仕の道を歩み始めると、その

道のりで、歩き始めた頃であっても、または後の方であっても、正式な加入が起こり得るでしょう。¹⁷

私たちが忘れてはならないのは、私たちと共に共同体づくりに取り組んでいる人々、あるいは様々な形でそれを支援している人々の中には、最初に、人類に奉仕したいという願望に突き動かされ、今ではバハオラの啓示をより深く飲む準備ができている人々がいるということです。これに関連して、万国正議院はこう書いておられます。

もちろん、共同体は、^{きょうじゃく}強弱を問わず、人が維持したいと望むすべての程度 of 関係を歓迎します。しかし、バハオラを神の顕示者として認識し、バハイ共同体のメンバーに特有の特権と責任を受け入れることは、バハイの活動に定期的に参加することやバハイ信教の原則に対する支持を表明することとは全く異なる、人の精神的発達における唯一無二の瞬間です。これまでの経験によれば、^{そうしゅつ}地域での共同体づくりの取り組みによって創出された環境により、この一步を踏み出したいと願う人は誰でも比較的簡単にそうすることができます。これらの取り組みが行われているところではどこでも、^{とびら}信教の扉が広く開かれていることを友らが心に留め、^{しきい}その敷居に立っている人々に励ましを与えることが重要です。¹⁸

ですから、個人的なティーチングの努力であれ、集団的な取り組みであれ、私たちは、上記のようなオープンな会話、つまり、大業の^{とりで}砦の敷居に立つ人々に、そこに足を踏み入れ、聖約がもつ統合する力から強さを引き出すよう促すのに役立つ会話をする用意ができていくべきなのです。

セクション 24

私たちが取り組むティーチングの行いには、一般的に、個人的な努力と集団的なキャンペーンという二つの文脈があると述べました。これからの数^{すう}セクションにわたって、この二つの文脈を順番に検証していきます。まず、個人的なティーチングの努力について考えてみましょう。下に示す引用文は以前のコースの学びで既に見覚えがあると思いますが、その意味をより詳しく熟考してください。この引用文から、あらゆる個人的なティーチング計画の基礎を形作る精神的原則を見出すことができます。

おお、神の道を旅するものよ。神の恩寵おんちようの大海より汝の分け前にあずかり、その深海に秘められたものを逸いっするな。その財宝きようじゆを享受する人々の一員となれ。この大海の雫しずくの一滴は、それが天と地にある万人ばんにんに注そそがれるなら、それだけで彼らを神のめぐみに富とますに充分なのである。神は全能者におわし、すべてを知り、すべてに賢かしこき御方におわす。無欲なる手もて、この大海より生命を与える水を汲み上げ、全創造物さんすいに散水せよ。そうすることにより万物は、人間が造り上げたあらゆる限界より清められ、この栄光に輝く神聖なる場所に近づくことができよう。この場所こそは神の強大なる座ざである。

汝、たったひとりでこの事業に従事していても、それを決して嘆なげいてはならない。神をして、汝を完全に満ち足らすものとなせ。神の霊と親密に語らい、感謝するものであれ。天と地にあるすべてのものに、汝の主の大業を宣言せよ。汝の呼びかけこたに応えるものがあれば、神の霊が汝に与えた主なる神の英知の真珠ひろうを披露こぼせよ。そして、まことに信たいきやくずるものであれ。逆に、汝の提供するものを拒むものがあれば、退却し、汝の信しゆ頼と確信もろもろを主なる汝の神、諸々の世の主しゆに置け。¹⁹

1. 次の文を完成させましょう。

- a. 私たちは、_____の大海より自らの_____に与あずかるべきです。
- b. _____手もて、この大海より_____を汲み上げるべきです。
- c. 私たちは神の恩寵の生命を与える水を_____に散水すべきです。
- d. もし私たちが_____でこの仕事に従事していたとしても、_____べきではありません。
- e. 私たちは_____語らうべきです。
- f. 私たちは_____者であるべきです。
- g. 私たちは天と地にあるすべてのものに私たちの主の大業を_____するべきです。

h. 呼びかけに応える者があれば、主の_____をその人に_____
_____すべきです。

i. 私たちの提供するものを拒む者があれば、_____し、私たちの_____
_____を神に置くべきです。

2. 私たちが神の恩寵の大海から自らの分け前に与^{あずか}るべきであるとはどういう意味ですか？

3. その深海に秘められたもので、もし発見されれば、ますます効果的に大業を教えることができるようになるものとは何でしょうか？ _____

4. 神の恩寵の大海の雫の一滴には何ができますか？ _____

5. この大海の生命を与える水を汲み上げるのに、なぜ「無欲なる手」を用いなければならないのでしょうか？ _____

6. 神の恩寵の大海から汲み上げた水で、私たちは何をすべきですか？ _____

7. この散水はどのような効果をもたらすでしょうか？ _____

8. 私たちは常に他のバハイの助けを得て、信教を教えなければいけませんか？ _____

9. 私たちが大業を宣言し教えるとき、神以外の誰かを必要としますか？ _____

10. 私たちが大業を宣言し教えるとき、誰と語らうべきですか？ _____

11. 私たちが大業を宣言し教えるとき、何に感謝しているべきですか？ _____

12. 私たちは誰に対して大業を宣言するべきですか？ _____

13. 私たちは誰に対して大業を教えるべきですか？ _____

14. 提供したメッセージが拒まれたとき、私たちはどうするべきですか？ _____

15. メッセージを拒む人たちから退却するべきだということは、もう彼らと友人になるべきではないということでしょうか？ それとも単に、彼らに信教を教えようと固執するべきではないということでしょうか？

16. 以下はティーチングに関するいくつかの考えを述べたものです。どれがバハオラの聖典の上記の一節と最も一致するかを判断して、○を付けてください。

_____ 私がティーチングすべき相手は親友のミゲルだと決めた。だからこの5年間、私は彼だけに自分の努力を集中してきた。彼はなかなか^{こた}応えてくれないが、いつかは応えてくれるだろう。基本的に、これが私の個人的なティーチング計画だ。

_____ 人々に信教を宣言することは私たちの責任だと思う。そして、それ以上、探求するかどうかは、その人の自由だ。もし本当に望むのであれば、読む本を求めることができる。そうすれば、その人は自分で決めることができる。

_____ 昨日、一緒にコーヒーを飲みながら、近所の人にバハオラのメッセージを説明した。しばらくして、彼女は私の熱意を尊重しつつも、自分の宗教に満足していると言った。しかし彼女は、信教についての今後の会話への扉を閉ざしたわけではないことがわかるような言い方をした。だから、次に一緒になったときは、彼女が興味を持ちそうな教えの側面を特定し、この『日』のための『神の顕示者』に彼女が近づけるよう努力するつもりだ。

_____ 誰かが私に、信教について聞くことに興味がないと言ったからといって、必ずしもそうだとはい限らない。私はただ主張する。

_____ 私がバハイであることを知っていても、信教について質問しない人は、興味がないということだ。

_____ もし私と一緒に共同体づくりの活動をしている人が、どうすれば人は信教に登録できるかを尋ねたことがないとしたら、それはその人がバハオラを受け入れるという精神的なコミットメントをしたくないということだ。

_____ 私はできるだけ多くの人に会うようにし、機会があれば信教の教えの一部を共有する。もし彼らに受容性があれば、最終的に信教に加わるよう招待できるまでティーチングし続ける。

セクション 25

『神の正義の到来』という著書の中で、守護者は個人の系統的なティーチング計画の基本的な要素を雄弁に描写する一節を提供しています。この一節は以下の短いセクションに分けられています。それぞれを読み、その後続く文章の空欄を埋めてください。

自ら率先し、敵であれ味方であれ、また、それが故意であろうと無意識であろうと、道を遮ろうとする妨害にもひるまず、立ち上がり、ティーチングの呼びかけに応じる決意をした者は、信教の仲間さえぎに引き入れようとしている人々の注目を捉え、関心を維持し、信仰を深めようとする個人的な試みにおいて、利用し得るあらゆるアプローチうの手段を注意深く検討しましょう。自分が住んでいる特有の生活環境が提供する可能性を調査し、その利点を評価し、心に抱く目標いだを達成するために、それらを賢明に、系統立てて利用しましょう。²⁰

1. 守護者は、私たちが自ら_____し、_____、_____の呼びかけに_____決意をするべきだと述べておられます。
2. そうする中で、私たちは_____であれ_____であれ、また、それが_____であろうと_____であろうと、私たちの行く道を遮ろうとする障害物が、私たちが意図するところから逸らすことを許してはなりません。
3. 決意に確固として、信教の仲間さえぎに引き入れようとしている人々の_____を捉え、_____を維持し、_____を深めようとする個人的な試みにおいて、利用し得る_____の手段を注意深く検討するべきです。
4. 決意に確固として、信教の仲間さえぎに引き入れようとしている人々の注目を_____、関心を_____、信仰を_____とする個人的な試みにおいて、_____し得るあらゆるアプローチうの手段を注意深く_____するべきです。

5. 私たちは自分が住んでいる特有の_____が提供する可能性を_____
_____するよう言われています。
6. 私たちは自分たちの前にある、可能性の利点を_____すべきです。
7. そうすることで、私たちは、それらを信教のティーチングの手段として、_____
に、_____すべきです。

また、禁酒、道徳、社会福祉、宗教的・人種的寛容、経済協力、イスラム、比較宗教といった、大業の教えや理想に似通っている主題を扱っているクラブ、展示会、団体、講演と関わる方法、あるいはまた、社会的、文化的、人道主義的、慈善的、教育的組織や事業に参加する方法を案出することを試みましょう。そうすれば、信教の高潔さを保護する一方で、接することになる人々の共感、支持、最終的には、忠誠を次々と得られるさまざまな方法や手段が目の前に開けてくるでしょう。²¹

8. 私たちはまた、大業の_____や_____に似通っている主題を扱っている_____、_____、_____と関わる方法を考えてみるべきです。
9. さらに、私たちは、信教の高潔さを_____一方で、_____、_____、_____、_____や_____に参加する方法を見つけるよう試みるべきです。
10. 接することになる人々の_____、_____、最終的には、_____を得られるさまざまな_____や_____が目の前に開けてくるよう、私たちは努力するべきです。

そのような接触がなされている間、信教から絶えず要求されている主張である、信教の威厳と地位を保ち、その法と原則の高潔さを擁護し、その包括性と普遍性を立証し、その多岐にわたる重要な利益を敢然と守ることを心に留めておきましょう。まず、聞き手の受容力を考慮し、直接または間接的なティーチング方法のいずれが適しているかを自ら決めましょう。それによ

り、探求者に神のメッセージの重要性を強く認識させ、既に信教を受け入れている人々と運命を共にするように確信させることができます。²²

11. 私たちがそのような接触をしている間、信教の威厳と_____を_____、その_____と_____の高潔さを_____し、その包括性と_____を_____し、その重要な_____を敢然と_____という責任を決して忘れてはいけません。
12. 守護者は、私たちが、聞き手の_____を考慮し、_____または_____なティーチング方法のいずれが_____を自ら決めるべきだと述べておられます。
13. いずれの方法を選ぶ際にも、私たちの目的は、探求者に神のメッセージの_____を_____させ、既に信教を受け入れている人々と_____に_____させることにありと心に留めておくべきです。

教える者は、アブドル・バハによって示された模範と、受け手がそのような教えを体現している大業と自分を同一視するよう自発的に駆り立てられる程の親切を受け手である探求者に雨と降り注ぎ、教える者が探求者に染み込ませたいと願う教えの精神を体現するようという師の不断の訓戒を思い起こさなければなりません。最初は、探求者の新しく目覚めた信仰に、あまりにも重い負担をかけかねない法や規則を遵守するよう要求することは控えましょう。そして、忍耐強く、如才なく、しかも断固として、その人が十分な成熟に達するように育て、バハオラによって定められたことは何であれ、無条件に受け入れると宣言するようになるまで援助しなければなりません。²³

14. 私たちのティーチングの努力において、アブドル・バハによって示された_____と、_____を、探求者に_____、教える者が探求者に染み込ませたいと願う教えの_____を_____よう努力するようという師の不断の訓戒を思い起こすべきです。

15. 私たちは、探求者が大業と自分を同一視するよう_____程に、アブドル・バハの模範に従うよう注意深くあるべきです。
16. 探求者を信教に引きつけたら、最初は、探求者の新しく目覚めた信仰に、あまりにも_____や_____を_____しないよう注意するべきです。
17. 私たちは、忍耐強く、如才なく、しかも断固として、その人が_____に達するように_____、バハオラによって_____ことは何であれ、_____と宣言するようになるまで_____しなければなりません。
18. 私たちは、_____、_____、しかも_____、その人が十分な成熟に達するように育て、バハオラによって定められたことは何であれ、無条件に受け入れると_____ようになるまで援助しなければなりません。

その段階に達したらすぐ、教える者は、仲間である信者たちにその人を紹介し、途切れなく続く親交とその地方の共同体活動への活発な参加を通して、共同体生活を豊かにすること、その仕事の促進、その利益の強化、姉妹共同体との活動の調整にその人が貢献することが可能になるよう努めましょう。²⁴

19. 探求者がその段階に達したらすぐ、私たちは、仲間である信者たちにその人を_____するべきです。
20. その時点から、私たちは、_____とその地方の_____への_____を通して、共同体生活を_____こと、その仕事の_____、その利益の_____、他の共同体との活動の_____にその人が_____ことが可能になるよう努めるべきです。

そして、自らの精神的な子が、自主的に立ち上がり、他の魂を覚醒させるためにエネルギーを捧げ、自身が新しく取り入れた信教の法と原則を支持したいと駆り立てられるほどの強い願望を吹き込むまで満足してはなりません。²⁵

21. 守護者は私たちが、自分がティーチングしている人たちに、彼らが_____に立ち上がり、他の魂を覚醒させるために_____を_____、信教の法と原則を支持したいと駆り立てられるほどの強い_____を_____込むまで満足すべきではないと述べておられます。

セクション 26

ここまでの二つのセクションの文章を念頭に置きながら、次はあなた個人の系統的なティーチング計画を考案することに集中してください。最初の一步として、ショージ・エフェンディが指摘した要素が、あなたの計画の中でどのように具体化されるかを考える必要があります。以下の練習問題を行うことが、その助けとなるでしょう。

1. 明らかに、あなた個人のティーチング計画の重要な要素は、受容性のある魂を見つけ、彼らにティーチングするために具体的な努力をするという揺るぎない決意です。何かをしようと固く決意するときには、必ず、その決意が試されます。障害が生じるのは避けられません。ティーチングの場合、私たちの行く手に立ちはだかる障害の中には、信教に対する反対や私たちを取り巻く世界の状況から来るものもあります。例えば、社会における物質主義は、ティーチングをする私たちの努力をより困難にしますし、精神的な事柄に対する人々の一般的な無関心も同様です。世の中の状況から生じる障害で、あなたがティーチングに着手しようとするときに遭遇しそうなものには、どのようなものがありますか？

- a. _____
- b. _____
- c. _____
- d. _____
- e. _____
- f. _____

2. 立ち上がり、信教を教えることを決意した皆さんは、自分の置かれている状況や、自分の生活の状況について考える必要があるでしょう。もちろん、その中心となるのは、あなたの村や近隣地区での共同体づくりの活動への参加であり、これによって、あなたにティーチングする機会が開かれることは既に述べたとおりです。しかし、それとは別に、あなたの人生の他の側面についても考えてみましょう。それらを説明する短い段落を書いてください。例えば、あなたは学生ですか、親ですか、祖父あるいは祖母ですか？ 職業はなんですか、またはどのようにして生計を立てていますか？ どのようなグループや団体に所属し、日常的にどのような人々と出会っていますか？

以上のことを念頭に置いて、あなたの人生に存在する、系統的なティーチングの様々な可能性を書き出してみてください。

-
-
-
3. 上に挙げた可能性の他に、個人的なティーチング計画の一つの要素として、信教の高潔さを守りながら、常に新しい人々、その内のいくらかはバハオラのメッセージに受容的であることを示す人々と出会うことができる様々な方法を考案する必要があります。例えば、教えと調和した目的を持つ団体に参加することができます。教育的施設の近くに住んでいるならば、大業の教えと理想に似た主題の講義に出席することができます。あなたの計画における、この要素は非常に重要です。なぜなら、新しい人に会い続けなければ、来る年も来る年も、同じ数人の個人に全神経を集中させることになります。そして、そのほとんどの人は受容的でさえないかもしれません。より多くの人と接触する方法をいくつか書き出してみましょう。
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

4. 練習問題 2 と 3 で述べたような、あらゆる可能性を通して、あなたはますます多くの人々と接するようになり、バハオラの啓示の目的を、どのように賢く、品位ある方法で彼らに知らせるかを考える必要があるでしょう。あなたの行いを通して、彼らは必ずバハオラの教えの美しさを垣間見ることになるでしょうが、あなたは信教の様々な側面について彼らと話し合う適切な機会を見つけたいと思うでしょう。ブック 2 の第二章「高揚する会話」の学習とその後の経験から、あなたはそのような話し合いに進む方法を知っています。計画のこの要素について考えるとき、あなたが接することになる様々な

グループの人々のことを心に留めておくに役に立つでしょう。どのようにすれば、最も効果的に大業の目的と理想に対して、各グループの人々の注意を引くことができるでしょうか？ 明らかに、あなたが今ここでできることは、最初のアイデアを書き留めることだけです。なぜなら、人々に何を伝えるべきかを確実に知ることができるのは、あなたが実際の状況に置かれたときだけだからです。さらに経験を積むにつれて、あなたのアイデアは進化していくでしょう。

- より多くの人々に大業の崇高な目的と理想を知らせることを続けながら、あなたはその受容性を見出した人々にティーチングし始めるでしょう。どのように進めるかは、状況によって異なります。ある人には、アンナが友達のエミリアに接したように、信教の要点をわかりやすく明確に示すのが最善だと判断するかもしれません。他の人とは、例え

ば、定期的なファイヤサイドの場で会話を継続するかもしれません。また、あなたが、村や近隣地区で開かれる祈りの会に招待する人もいるでしょう。そして、新しい世界秩序というバハオラのビジョンに既にコミットしており、あなたの温かい励ましを必要としている人もいるでしょう。どのような場合でも、もちろん、あなたは神に絶えず顔を向け、あなたがティーチングしている魂が神の大業の庇護の下に入るように神に願うでしょう。あなたの目的は、彼ら一人一人がバハオラの教えを、より深く理解できるようにすることです。そして、彼らがバハオラをこの『日』のための『神の顕示者』として認め、バハオラの信者の仲間入りをするとき、あなたは彼らが知識を深め、バハオラの大業に仕える努力をするのを助ける必要があります。ただし、もし彼らが新たに得た信仰が、社会に作用している道徳崩壊の力に耐えるものであるなら。このように彼らを育むのを助けるために、あなたができることをリストにしてください。

セクション 27

個人のティーチング計画の要素を確認したら、次は数週間か、数ヶ月といった一定期間の最初の行動計画を立てるとよいでしょう。計画は、具体的にするのが最も効果的です。あなたが知っている人の名前を挙げ、取ろうとしている明確なステップを示してください。計画を進めていくうちに、新たな機会が生まれ、人間関係が発展していき、あなたは適宜、新たなステップを考案するでしょう。

セクション 28

個人のティーチング計画の要素について考え、最初の行動計画を立てたときに、おそらく、気づいたと思いますが、多くの場合、私たち個人のティーチングの努力は、村や近隣地区で展開されている、活動パターンに織り込まれています。そのような個人の努力が、このパターンにどのように貢献し、強化しているかをあなたも見たことでしょう。しかし、共同体の成長のパターンを加速させ、いえ、広く拡大させるには、集団的なキャンペーンが必要です。このようなキャンペーンに効果的に参加するには、集団的な行動が意味するものを明確に理解する必要があります。例えば、次のようなシナリオを考えてみましょう。

ATC(地域ティーチング委員会)が呼びかけたティーチング・キャンペーンを計画するために、近隣の村や地区から友人たちが参加している集まりにあなたが参加しているとしましょう。集まりは精神的な雰囲気の中で行われ、ティーチングの重要性や個人の役割についての心動かされる話がいくつか発表され、大いに盛り上がります。お話が終わると、各村や近隣地区ごとにグループとなって、ティーチング・キャンペーンの計画について協議します。しばらくすると、すべてのグループがまた一つになって、それぞれの計画を共有します。あるグループの代表者は、協議の成果を次のようにまとめました。「このキャンペーンに貢献するために、私たちが考案した計画は単純明快です。各人が、少なくとも一回はティーチングが成功するよう毎日祈ること、各人が毎日少なくとも一人に対して信教について話すこと、そして、どの家庭でも少なくとも 19 日に一回はファイヤサイドを開催するようお願いすることです」

このグループの仲間たちが、自分たちの村、または近隣地区に、この計画を持ち帰ったとしましょう。全員がグループの奨励に献身的かつ熱意をもって従うために立ち上がるなら、間違いなく、その共同体は人数と能力の両面で成長し、さらに大きな取り組みに乗り出す準備が整うと想像できるでしょう。しかし、このテーマについての理解を深めるためには、このような計画が、系統的な集団的行動という概念にそもそも合致するものなのかどうかを問うことが役に立ちます。上述の計画は、他の人もまた同様の活動に取り組んでいるという認識から生じる熱意を明白に加えることで、個人が各自のティーチングの努力を続けるよう奨励する以上のもので構成されているのでしょうか？ 集団的行動は、個人の才能と能力が互いに補強し合い、その力を倍増させるような形で設計されるべきではないのでしょうか？ 集団の和合した行動は、個々人の努力の総和よりもはるかに大きな成果をもたらすべきではありませんか？ グループの他のメンバーとともに、これらの質問について考えてみましょう。

セクション 29

上記の質問について話し合うことで、おそらく、あなた自身の経験から既に理解し始めていることを確認できたことでしょう。村や近隣地区で共に働く個人の拡大する核の一部として、統合された行動の力学において、私たちの力がいかに増大するかを、あなたは間違いなく目にしてきたはずです。この章の残りの目的は、信教の拡大と強化という文脈の中で、このような力学について、いくらかの洞察を得ることにあります。

まず、世界的な信教の成長に対する私たちのアプローチについて、おそらく皆さんがもうご存知であろうことを手短かに復習しましょう。現時点では、成長のプロセスを加速させるための努力は、クラスター内の特定の近隣地区や村で行われることがほとんどです。「クラスター」とは、計画をする上で管理可能な規模の小さな地理的地域を指します。ATCはこのレベルで活動しています。クラスターという環境の中で、私たちは万国正義院により、「その周期は、集中的な活動の成果として生じる突発的な拡大の時期、新しいメンバーがお祈り会やフィーストに参加したり、自宅への訪問を受けたりすることによって、必要とされる強化を受ける時期、そして、全員が反省したり、計画を立てたりする機会からなる」、「共同体成長のための活動の3ヶ月周期」で活動するよう奨励されています。

サイクルは、拡大、強化、振り返り、計画という段階が連続することを特徴とします。各サイクルは、前のサイクルの成果を土台としています。拡大の波が来るたびに、より多くの人々がインスティテュートのプロセスに参加するようになり、学んだことを実践し始めるにつれて、集団としての能力が高まっていきます。その結果、祈りの会、子どもクラス、ジュニアユース・グループ、スタディサークルなど、成長のプロセスの核となる、一連の相互に関連した活動が拡大し、信教を積極的に支援する核が増えることで、活動全体のテンポが速まります。このようにして、成長のプロセスは段階的に加速していきます。

拡大期は最も高いレベルの強度が要求され、多くの場合、集団的キャンペーンの実施によって達成されます。その目的は、前述のようにクラスターの状況によって異なります。あるときは、核となる活動のいずれかへの参加者数を増やすことを意図したキャンペーンが行われることもあるでしょう。また、直接的なティーチングに重点を置く場合もあります。多くの場合、後者の努力は、活動が共同体生活に形を与え始めている地域で実施され、人々の家庭を訪問することを伴います。この種のキャンペーンについて、万国正議院は次のようなガイダンスを示しておられます。

従って、ことの^{かくしん}核心は、家庭訪問による信教のティーチング・キャンペーンが近隣で行われている他の活動とどのように関連しているかということとす。すなわち、それが、より広い共同体における礼拝の性格を強める集まりを開催するための努力や、子どもたちの精神的成長を育むクラスを提供すること、ジュニアユースのエネルギーを発揮させるグループをつくること、様々な背景の人々が平等に前進でき、また個人や集団的な生活への教えの適用を探求できる、すべての人に開かれた学習のサークルを確立すること、などに関連しているかということなのです。²⁶

セクション 30

上記の引用文が示唆するように、ティーチング・キャンペーンを他から隔絶した状態で行うものだと考えるべきではありません。それは、私たちの成長へのアプローチの一要素を構成するものに過ぎません。さらに、信教の大規模な拡大と強化のための努力は、特定の集団の中で長期間にわたって系統的に行われるときに、最も実り多いものとなります。

この章では、「受容性のある集団」という用語について何度か触れてきました。経験上、個人と同様に、ある集団は、自分たちの集団的な生活に対する信教の意味を探求する準備が他の集団よりも整っていることがあります。万国正議院は、そのような受容性は、しばしば「核となる活動によって動き出した共同体作りのプロセスに進んで参加する気持ちとして現れます」と述べておられます。どのクラスターにおいても、友人たちの前にある課題は次のとおりです。

そのような感受性が見られる特定の一つ、あるいは複数の集団にティーチングし、直接的にバハイの原則を説明して、社会が彼らに押し付けてい

る無気力を捨て去り、自分たちの近隣地区や村で互いに協力し合い、集団的変革のプロセスを始めたいと切望している人々を探し出すことです。²⁷

つまり、問題となっているのは、新しい世界秩序と豊かで調和のとれた文明というバハオラのビジョンに向かう人々の運動(movement)なのです。世界中のクラスターで進行中のこのプロセスの意義をさらに考えるために、正議院によって書かれたメッセージから、以下の抜粋を読みましょう。

人類の大衆が目覚め、神の信教に加わるとき、新しいプロセスが動き出し、新しい文明の成長が始まります。キリスト教とイスラム教の出現を見てください。これらの大衆は一般の人々であり、自分たちの伝統に染まりながらも、神の新しい御言葉みに対して受容性があり、それにより、彼らが御言葉みに真しんにこたへたとき、出会った人たちを変容させるまでの影響を受けたのです。

神の基準は人間の基準とは異なります。人間の基準によれば、名声や地位によって評価される著名な人々によって受け入れられることが、ある主張の価値と偉大さを決定します。しかし、バハオラの言葉によれば、「われより発した声明と教えは、決して特定の国のみに宛てられたものでも、特定の民族のみを利するものでもない。この啓示によって下されたことは、全人類がそれをことごとく厳守げんしゅしなければならない」。²⁸

いたるところのクラスターで展開されている変革のプロセスの性質について、正議院が書かれた別のメッセージには次のようにあります。

バハイ共同体の内外から生まれる力に促され、世界の人々が様々な方向から動き出し、互いに近づきつつある様子が見て取れます。その行く先は将来生まれるであろう世界文明であり、その性質はあまりにも素晴らしく、今それを想像しようとしても全く無駄であるほどです。人々のこの求心的な動きが地球規模で加速すると、各々の文化のなかの信教の教えに合わない要素は次第に消滅する一方で、他の要素が強化されるようになります。同様に、バハオラの啓示に心を動かされた人々が様々な集団から集まり、彼の教えに啓発された思考や行動のパターンを表すことによって、時を経て新しい文化の要素が進化していくでしょう。…²⁹

1. 上記の二つ目の引用文をもとに、次の質問に答えてください。

a. 人類の大衆が目覚め、神の信教に加わるとき、何が起こるのでしょうか？

b. 人類の大衆が神の御言葉に真に応えるとき、彼らの中にどのような変化が起こりますか？

c. 上記の文節は、神の基準と人間の基準の差異の一つをどのように説明していますか？

2. 上記の三つ目の引用文をもとに、次の声明のどれが正しいか判断してください。

_____ 聖典や書物に描かれた世界文明に近づくためには、すべての集団が、ある支配的な文化の要素を取り入れる必要がある。

_____ 世界のあらゆる文化には、称賛に値する要素と、捨てた方が良い要素がある。

_____ どのような文化においても、何が正しく、何が好ましくないかの基準は、バハオラの啓示だ。

_____ 文化の名の下に、あるグループが女性を男性より劣っていると見なすことは容認できない。

_____ 協調性を重視する文化の側面は、評価され大切にされるべきである。

_____ ある文化の称賛に値する側面は、人類家族全体の多様性と美を高めることに貢献する。

- _____ ある文化の容認し難い^{がた}側面は、それが信教の光に照らされるようになるにつれて、変わっていかなければならない。
- _____ 何らかの形で、あるグループの人々を貶す^{けな}ジョークや発言は、面白いものではない。人類の子ども時代の名残^{なごり}で、せいぜい捨てられるべきものだ。
- _____ ある集団が信教に加入すると、教えにそぐわない文化的要素を徐々に捨てていく。
- _____ ある集団が信教に加入すると、教えに沿う文化的要素が補強され、強められていく。
- _____ どの集団も、やがて、バハオラの啓示に触発された文化の新しい要素を取り入れるようになる。それは例えば、若い世代の教育に重きを置くというようなことだ。
- _____ 複数の集団がバハオラの啓示の大海に近づくにつれ、集団同士が必然的に互いに近づくことになる。
- _____ 多様な集団が、バハオラの教えに従うかどうかにかかわらず、それぞれの発展の道を追求する中で、最終的には互いに近づいていこう。
- _____ 受容性のある集団の中で、より多くの人々が核となる活動に参加することで、バハオラの新しい世界秩序のビジョンにますます近づいていく変化のプロセスが動き出す。

以上のことを踏まえて、お住まいのクラスターにおける、あなた自身の経験を振り返ってみてください。奉仕の道を歩み始めて以来、あなたは相互に関連し合う一連の活動を強め、拡大することに貢献してきました。これは、あなたの村の住民の間であろうと、近隣地区の特定の地域に住む特定の集団の間であろうと、クラスター全体に分散している集団の間であろうと同様です。これらの活動を全体として捉え、それらが引き起こした変化のプロセスを考えてみましょう。あなたがその一員である成長しつつある核が、以下のことを首尾一貫して学ぶ中で、集団の動きがどのように生み出されているかを説明してください。共同体の祈りの性格を育むこと。より多くのジュニアユースを精神的・知的に力づけるよう助けること。奉仕の道を歩むようにますます多くの若者^{まね}を招き、その道を進む中で援助を与えること。より多くの子どもたちに精神的教育を提供すること。子どもやユースの家族のより多くの人々が教えを学び、自分たちの生活に生かすことを可能にすること。

セクション 31

さて、あなたの村や近隣地区における、友人たちの拡大しつつある核の努力が、新しい世界秩序のバハオラのビジョンに向けた住民の運動をどのように生み出しているのかについて考えたところで、このような集団的行動を効果的なものにする条件について検討してみましょう。最初に満たさなければならない条件が和合であることに、あなたは同意するでしょう。アブドル・バハは次のように仰っています。

もし汝らが真に和合し、本質的な目的であることを推進し、すべてを統合する愛を示すことに同意するならば、我は、種を芽生えさせ、そよ風を漂ただよわせる御方にかけて誓う、汝らの顔から、天の高みに届くほど偉大な光が輝き、汝らの栄光の名声ちかが海外に宣言され、汝らの卓越性の証拠があらゆる地域に広がり、汝らの力が万物の実相じっそうに浸透し、汝らの目的と目標は偉大で強大な国々に影響力を及ぼし、汝らの精神は、存在の世界全体を包含するようになる。そして、汝らは、自らが『王国』の領地の王であり、見えざる領域の栄光の冠かんむりをかぶり、平和の軍隊の元帥げんすいとなり、光の勢力の王子となり、完全性の地平線から輝く星となり、人間にその輝きを放つ見事なランプとなることを発見するであろう。³⁰

アブドル・バハの上記の言葉にあるように、私たちの力が倍増するほど和合することは、一度きりで達成できる状態ではありません。その達成には、日々の努力が必要です。計画をいく

ら上手に立てることを学び、計画を実行する能力をいくら身につけたとしても、少しでも緊張や争いが忍び込めば、それが実を結ぶことはほとんどないでしょう。

意見の対立の原因はたいていの場合、些細なもので、悪意によって引き起こされることはほとんどありません。緊張が生じるのは、誰かが他の人の不手際に焦ったり、自分のやり方を主張したりするためであることが少なくありません。その解決策は、度量の大きさと、人生における些細なことを超越する能力です。アブドル・バハは私たちにおっしゃっています。

おお、神に愛される汝らよ、今こそは熱心に努力すべきときである。必死に努力し、奮闘せよ。『古来の美』は殉教の場に日夜さらされたのだから、次は我々が必死に働き、神の忠告に耳を傾け、熟考する番である。命を投げ打って、短く数少ない我々の日々を放棄しよう。我らの目を、この世の多岐にわたる形式の虚ろな空想から遠ざけ、代わりにこの卓越した目的、この壮大な設計に奉仕しよう。自分自身の想像のために、天来の恵みの手によって植えられたこの木を切り倒すことのないようにしよう。自らの幻想、利己的な利益の暗雲で、アブハの領域から流れ出る栄光を消し去ることのないようにしよう。全能の神のうねる大海原を遮る障壁とならないようにしよう。『全てに栄光ある美』の庭から流れる純粋な甘い香りが遠く、広くまで吹き渡るのを妨げないようにしよう。再会のこの日に、天上からの祝福の春雨を遮らないようにしよう。『真理の太陽』の輝きがいずれ衰え、消えてしまうということに同意しないようにしよう。これらは、誠実な人々への神の勧告を伝える、神の聖典、聖書、書簡に記されている神の訓戒である。

栄光、神の慈悲、そして神の祝福が汝らの上にあらんことを。³¹

守護者は述べておられます。

あなたの視線を、この成長し奮闘する神の信教の強大な可能性、計り知れない祝福、不屈の精神に据えなさい、そして、現在の些細な論争や避けられない相違によって、大業の未来がその堅固で勇敢な支持者のために用意している輝かしい栄光のビジョンを曇らせることを許してはなりません。³²

以下のような文章を暗記し、内面化することは、私たちの集団的努力における和合に貢献する助けとなるでしょう。

もし汝らの間に何らかの不和が生じたならば、汝らの眼前に立つわれを見よ。そして、わが名のために、また、燦然と輝くわが明白なる大業への汝らの愛の証として、互いの欠点に目をつぶれ。わが御心の樂園に汝らが常に融和と一致をもって交わるのを見、汝らの行動より親愛と和合、慈愛と友情の芳香を感知することをわれは愛す。すべてを知り、忠実なる者は汝らにこのように忠告する。われは常に汝らと共にある。汝らの友好の芳香を嗅ぐことによりわが心は必ず喜びに満たされよう。また、それ以外にわれを満足させ得るものは何もない。真の理解力を有するものはすべてこのことを証言する。³³

和合を維持しやすくなるのは、やるべき仕事の意義と達成すべき目標の崇高さを全員が認識しているときです。そのような理解があれば、人々が互いの違いを脇に置き、無私の心で目の前の仕事に全力を尽くすことの難しさは小さくなります。ここで一旦止まって、次の問いを考えてみてください。あなたは、次のいずれかのために、待っている、多くの魂をバハオラの啓示に近づけるよう定められているプロセスを害しても構わないでしょうか？

- _____ 他の人の行いを許したくないから。
- _____ 自分の欠点で頭がいっぱいだから。
- _____ みんなが同意した、行動の流れに沿いたくないから。
- _____ 自分が正しく、他の人は間違っていると信じているから。
- _____ たとえそれが不適切で他の人に不快感を与えるものであっても、機会があれば、いつでもジョークを言うのが好きだから。
- _____ 自分が気づいた欠点を、それがグループの熱意にどう影響するかに関係なく、しつこく批判するから。
- _____ 集団的な努力における集中度の必要性を理解していないから。
- _____ 誰かから、嫌な言い方で話をされたから。
- _____ 人の家を訪問することが心地よくないから。
- _____ 自分の特定の才能が引き出されないのが不満だから。

セクション 32

村や近隣地区で働く献身的な友人たちの核となるメンバーの間に存在する和合は、彼らを結びつける愛情に満ちた親交だけにとどまりません。それは、共通の目的を共有する明確さに顕れます。目的の一致は、統合された行動に不可欠な、もう一つの条件です。それは、私たちが集団として共に働いているときだけでなく、子どもクラスを開催する、ジュニアユース・グループのアニメーターとして奉仕するといった個人的な奉仕の行いをするときにも、私たちの努力に方向性を与えてくれます。それは私たちの行動に浸透し、私たちの行動に意味を与えてくれます。私たちは、個人の努力がいかに関係的な取り組みと織り合わされて、集団を前進させる活気に満ちた、活動パターンを作り出しているのかを目の当たりにします。万国正義院は、次のように述べておられます。

共同体は、インスティテュートが媒体となった個人の努力と集団的行動が進歩達成のために互いに補足し合う場としての役割を一層果たせるようになりました。共同体の活気と、共同体の努力の源となっている目標の一致とにより、人類安寧のために時間とエネルギーを捧げたいと願う世界中のあらゆる分野の人々が拡大を続けるこの共同体に引き込まれています。³⁴

この共通の目的意識は、地方のレベルを超えて広がっていきます。私たちは、村や近隣地区で拡大しつつある核の一部としての私たちの努力が、私たちが住むクラスターでの活動を前進させるという、より大きな目的にいかに関与しているかを認識します。ひいては、このことがどのように私たちの国の共同体の進歩や、最終的にバハオラの世界秩序の出現につながる、信教の地球規模の計画の展開を促進するかがわかるのです。

1. なぜ、近隣地区や村での私たちの努力がより大きな目的に貢献するという意識が重要なのでしょうか？ _____

2. 個人の目的や目標を信教の目的と一致させるにはどうすればいいのでしょうか？ _____

3. インスティテュートを媒体とする、個人の努力と集団的な取り組みは、どのように補完し合うのでしょうか？ その補完性を理解することが、なぜ統合された行動に不可欠なのでしょうか？

4. 目的を一致させることはどのように、共に奉仕する仲間同士の愛の絆をさらに強めるのでしょうか？ _____

セクション 33

私たちは、目的の一致が統合された行動に不可欠であり、奉仕の分野で^{たゆ}弛みなく働くよう私たちを鼓舞するものであることを見てきました。共通の目的を実現するためには、時間とエネルギーを費やす必要があります。何時間にも及ぶ、難しくも喜びに満ちた努力です。世の中には、何が楽しいことなのかについての誤った観念があります。何度も、人生の目的はまさに楽しむことであり、それは些細な娯楽で定義されるというメッセージを私たちは聞かされます。しかし、そのような「楽しみ」が、バハオラのメッセージを他の人々と分かち合うこと、彼らが信仰の精神によって高揚するのを見ること、子どもクラスやジュニアユース・グループの参加者の家族と有意義な会話を交わすこと、インスティテュートの幹コースを学ぶ人々が理解と奉仕の能力を高めていくのを^ま目の当たりにすることの本当の喜びに匹敵するのでしょうか。集団的な取り組みにおいて、安らぎやしたい放題にすることへの欲求が強くなるのであれば、完全な『模範者』

であるアブドル・バハと、大業を広めるための彼の弛まぬ努力を思い起こすことで、それに打ち勝つことができます。以下に、アブドル・バハの言葉をいくつか引用します。

アブドル・バハの足跡をたどり、アブハの美の道において、一瞬一瞬に汝の人生を捧げることを熱望しなさい。真昼の星のように輝き、海のように休みなくたゆたうように。天の雲のように野や丘に汝の生命を注ぎ、四月の風のように人間の木々に新鮮さを吹き込み、その花を咲かせなさい。³⁵

…人は、生ける犠牲の境地に達するほどに、自らの意志を全く神に委ね、自らの目的の追求を全く忘れるべきである。したがって、その人が眠るなら、それは肉体の安静のためにではなく、あくまでも自らの力を回復するためであり、それにより自らが行う論議がより明瞭になり、自らの発言がより喜ばれるようになり、神の創造物に仕え、神の証明を説くことができるようになるためである。そして、目が覚めたら、常に気を配り、神の大業への奉仕に従事し、自らの欲望と好みを神のご意志の中に完全に沈めなければならない。この地位に到達するとき、聖霊の確証がその人を取り囲み、そのような力で武装したその人は、地上のあらゆる人々に耐えることができるであろう。³⁶

精神を蘇らせる御方の恩恵により、汝が一瞬たりとも静止することなく、この世の体の動脈のように脈動することを妨げられることなく、汝が人々の心に生命の精神を吹き込み、人々の魂が天上の領域へと舞い上がることを可能にすることを願う。³⁷

これらの人々は昼も夜も絶え間なく働き、苦難や苦悩をかえりみず、中断することなく努力し、休息を求めず、いかなる安楽や快適さも無視し、超然として、汚れることなく、生涯の過ぎゆく一瞬一瞬を神の芳香を拡散し、聖なる御言葉を高揚することに捧げるであろう。彼らの面は天来の喜びで輝き、その心は歓喜に満ちるであろう。彼らの魂は鼓舞され、その基盤は揺るぎないものとなる。彼らは世界中に散らばり、全ての地域を旅行する。彼らはあらゆる集まりで声をあげ、あらゆる集会に美を添え、生き

返らせる。彼らはあらゆる言語で話し、すべての隠された意味を明解にする。彼らは王国の神秘を明らかにし、すべての人に神の徴しるしを顕あらわす。彼らはあらゆる集まりの中心で燃える蠟燭ろうそくのごとく明るく燃え、あらゆる地平線上に昇る星のように光を発する。彼らの心の庭から漂ただよう優しいそよ風は、人々の魂たましいに香りを与え、蘇らせ、彼らが思考し表現したことは、にわか雨のように、世界の国々と民族を再び活気づけるであろう。³⁸

セクション 34

私たちの間の和合を生み出し、それを強固なものとし、共通の目的意識を維持するために私たちに与えられた重要な手段の一つは、協議です。行動、行動に対する振り返り、そして協議を通じて、私たちは思考の一致を達成することができます。私たちの活動の性質や、私たちが用いるアプローチや採用する目標についての思考の一致は、効果的な、統合された行動の別の必要条件です。

友人たちの拡大しつつある核が思考の一致を維持しながら一貫して行動するにつれ、その行動の有効性について定期的に振り返る能力と規律を継続的に強化しなければなりません。振り返り、協議し、学習する中で、友人たちの核は、経験と書物の関連箇所、特に万国正議院からのガイダンスを活用します。このような、行動・振り返り・協議・学習のパターンが、友人たちのグループの集団的な活動の仕方を定義するようになると、学びが彼らの活動様式となります。持続的な成長は、サイクルに次ぐサイクルで得られた強みの上に築かれることで、可能であることが証明されます。活動の活力を維持し、あらゆる背景の人々の参加を得、膨大な数の諸事を管理すること——要するに、継続的に成長すること——、これがあらゆるクラスターにおける学びの目的です。

友らは、…参加のレベルを上げるよう努力しなければなりません。苦心して確立したシステムが内向きにならないよう、いやむしろ、もっと多くの人々を包み込めるものにするため徐々に拡大するよう努めなくてはなりません。また、あらゆる階層の人々と交流し、バハオラとその啓示について会話する能力に自信を得たとき、そこで見出した驚くべき受容性、いや、受容性どころか、自分たちを待ち受けていた高い期待感を見失わないようにしましょう。³⁹

1. 私たちは何を上げるよう努力すべきですか？ _____

2. 私たちは何を確実にするために努めるべきですか？ _____

3. 私たちは何を失ってははいませんか？ _____

4. あなたがその一員である拡大しつつある核は、一貫して行動し、行動を振り返り、共に協議する中で、間違いなく、あなたの村や近隣地区の成長のプロセスについて多くの洞察を得てきたことでしょう。このことで、インスティテュートのコースが描いた奉仕の道を歩む個人の能力向上と、活動の規模やその参加人数の増加という、二つの発展の間には相互関係があることがわかったと思います。この関係性と、成長のプロセスにおける、この関係性の中心性について、あなたが得た洞察のいくつかを話し合ってください。

活動様式としての学びの意味合いと、それを定義する、行動・振り返り・協議・学習のパターンについてさらに考えるために、万国正議院が書かれた次の文章を読んでください。読みながら、あなたが属し、あなたの村や近隣地区で熱心に奉仕している友人たちの核について考えてみましょう。

私たちは、ますます多くのクラスターで、そしてその中の近隣や村で、行動やリフレクションを通じて、ある特定の時点において自分たちの周辺で成長のためのプロセスが進むために必要なことを発見する友らの核が台頭してきたことを喜んでいます。彼らは、共同体の精神的かつ物質的繁栄に貢献するための能力を向上させるインスティテュートという強力な道具を利用し、そして彼らが行動するにつれて、彼らに加わる者らの数が増えていきます。当然のことながら、場所によって条件は大きく変わりますし、成長の特徴も違います。しかし、系統的な努力によって、皆が手近にある仕事へより効果的に貢献できるようになります。あらゆる状況において、早晚、精神的感受性を目覚めさせるようになる、有意義で精神を高揚させる会話に他の魂を引き込むことに純粹な喜びがあります。信者の心に灯る炎が明るければ明るいほど、その暖かみに触れた者が感じる引力は強いでしょう。そして、バハオラへの愛に燃える心にとって、同士の魂を探し出し、奉仕の道に入る時に彼らを励まし、彼らが経験を積む過程で同伴し、そして、おそらく最大の喜びと言えるでしょうが、彼らが信仰に確信を持ち、自律的に立ち上がり、他の者たちを同じ旅において助けることを目撃すること以上に相応しい仕事は想像できるでしょうか。これらが、この浮き世の人生が与えてくれる時の中で最も大切に思える瞬間です。⁴⁰

「学び」が活動様式として機能するためには、すべての参加者が謙虚な姿勢を保たなければなりません。この状態では人は自己を忘れ、神に完全に信頼をおき、すべてを支え給う神の力に頼り、神の尽きない援助を確信し、神のみがブヨを驚に変え、しずくを果てしない海に変えることを認識します。またこうした状態では、人は常に共に働き、己の達成よりも他人の進歩と奉仕に喜びを感じます。そして、彼らはいつも互いに神の大業への奉仕という高さに達し、神の知識の天上に舞い上がれるよう助け合うことだけを考えます。⁴¹

セクション 35

もちろん、サイクル毎の私たちの努力が成功するかどうかは、すべて神の援助にかかっていることを私たちはよくわかっています。当然ながら、神との私的な交わりの中で、私たちの努力

が、たとえ小さなものでも、神の聖なる敷居で受け入れられるようにと神に懇願します。次のような文節を思い起こすことは、どれほど尊いことでしょう。

主よ、私はあなたの果てしない空間に舞うことを切望する翼破れた小鳥
であります。あなたの摂理とご恩寵、あなたよりの確証とご助力なくして
どうしてそのようなことが私にできましょう。⁴²

あなたの啓示の源泉におわし、あなたの御しるしの曙にまします御方
により嘆願いたします。私の心をあなたのご慈愛とご記憶の器となし給
え。そして、そこからあなたの英知の活水が、また、あなたの誉れと賛美
の清く澄みわたる流れが漂い出るよう、その器をあなたの大なる大海に
結びつけ給え。⁴³

存在の王におわし、目に見えるもの、見えぬものすべてのものの庇護者に
ましますあなたに嘆願いたします。御教えに仕えるために立ち上がる者をみ
な、御心のままに動く海となし給え。彼らをして、あなたの聖木にともる
火に燃えさかり、あなたの御心の天上の地平線に輝くものとなし給え。⁴⁴

おおわが神よ。あなたの僕が、御言葉を高く掲げ、空虚なことや偽り
を拒み、真理を立証し、聖句を四方へ広めるよう助け、輝きを現わし、正
しい人々の心に朝の光をもたらすことができますよう援助し給え。⁴⁵

おおわが神よ。おおわが神よ。あなたは卑しく、か弱い私を見給う。そ
してその私が、最も大なる事業に取り組み、大衆にあなたの御言葉をも
たらし、あなたの民に教えを広める決意をしているのを見給う。あなた
が、聖霊の息吹をもって助け、勝利をおさめるよう栄光の御国の軍勢をも
って援助し、私の上に確証をふり注ぎ給わなければ、どうして私に成功が
ありましょう。ただあなたの確証のみが、ぶよを驚に変え、一滴の水を川
や海と化し、一個の原子を光や太陽に変えることができるのです。⁴⁶

私たちはまた、全能者である神が私たちの集団的な努力、特に集中的なキャンペーンの間に確証を与えてくださるよう願うために集まります。

おお主よ。あなたの地に、謙虚^{けんきょ}で従順な魂^{たま}たちを現^{あらわ}し給え。その魂^{たま}たちは、導きの光で顔を輝かせ、この世から切り離され、あなたの御名^{みな}を称賛し、あなたの賛美を語り、人々の間にあなたの神聖さの芳香を放散させます。⁴⁷

おお神よ、わが神よ。あなたの信頼^{しんらい}される僕^{しもべ}らが優しく愛情深い心を持つよう助け給え。僕^{しもべ}らが地上^{いちどう}のあらゆる国々に天上の一同より出^いずる導きの光を広めることができるよう助け給え。⁴⁸

おおわが主よ、まことに、あなたを愛する者らは喉^{のど}が渴^{かわ}いております。彼らを恩恵^みと御恵みの泉へと導き給え。まことに、彼らは空腹であります。あなたの天上の食卓^{くだ}を彼らに下し給え。まことに、彼らは裸^{はだか}であります。彼らに学識と知識の衣服を着せ給え。⁴⁹

おお類^{たぐ}いなき神よ、御国^みの主^{しゅ}よ。ここに集^{つど}う者はあなたの天上^{ぐんぜい}の軍勢であります。彼らを助け給え。そして、彼らの一人一人が連隊^{れんたい}にも匹敵^{ひってき}する力を発揮し、神の愛と、聖^{きよ}き御教^みえの光明^{こうみょう}とによりこれらの国々を征服することができますよう、至上^{しじょう}の集合の一団^えをもって彼らに勝利^えを得させ給え。⁵⁰

セクション 36

ここで、ティーチングという行いについての考察を終えることにします。ティーチングを、個人的なイニシアチブとしてだけでなく、集団的な取り組みとして考えるとき、間違いなく、どちらにも同じ精神的原理が働いていることに気づくでしょう。しかし、数人の友人に信教を紹介し、彼らがバハオラの啓示の大海^{きしべ}の岸边に到達するのを助けるプロセスと、何千、何万という地域の住民が同じ岸边に到達するのを助けるプロセスとは、明らかに異なります。次の簡単なアナロジー(類推)がこの点を明確にするでしょう。植物の成長を支配する原理は、小さな花壇^{かだん}でも、何百ヘクタールにも広がる農場でも同じです。しかし、個人の庭^{たがや}でいくつかの植物を世話すると、広大な土地を耕すのとはまったく違うのです。

あなたの友人の何人かがバハオラを認め、彼の信者の仲間入りをしたら、あなたはその一人ひとりをあなた自身の個人的なティーチング計画の一部として育み続け、彼らと一緒に時間を過ごし、バハオラの教えの知識を深め、彼の大業に奉仕する努力において彼らを支援するでしょう。今度は、地域全体に意識を向けてください。受容性のある集団を対象とした取り組みによって、大勢の人々、特に若者たちが、自分たちの共同体に奉仕する道を歩む意志があり、そして、実はそれを熱望していることが明らかになったとき、そして、努力の結果、かなりの割合の人々が、アンナとエミリアの間で展開されたような会話を通じて、信教に入る準備ができていくことが明らかになったとき、まったく別のプロセスが必要になります。それは、何人もの人々が立ち上がり、神から与えられた能力によって大業に奉仕することを可能にするプロセスです。このような重大な仕事は、個人の努力だけでは達成できません。

この章の後半では、信教の大規模な拡大と強化が、どのように相伴って前進できるかを垣間見ることができたでしょう。この二つのプロセスを支えることができるシステムの要素は、何十年にもわたる学習を通じて丹念に発見され、洗練されてきました。そのうちのいくつかはここで述べたとおりですが、他の要素について、さらに重要なことに、それらがどのように組み合わさって強固なシステムを作り上げているのかについては、あなたが経験と学習を続けることによつて見識を深めることができるでしょう。その中には、「クラスター」の構成、拡大と強化の段階を持つ活動のサイクル、調整のスキーム、行動・振り返り・協議・学習の方法論などがあります。しかし、それらすべてにおいて重要なのは、一つの中心的な要素です。すなわち、奉仕のための能力を構築する適切な手段です。

「加速度的な拡大と強化の多くの仕事を遂行するために必要な、精神的洞察力、知識、スキル」を、増え続ける先頭部隊に与えるために、トレーニング・インスティテュートが創設されました。「限りない可能性」をもつこの手段によって、「多様な状況下で、そして、ほとんどすべてのクラスターにおいて」「ごく数人の仲間が核となり、それが徐々に拡大し、やがては新しい世界秩序の目標への動きを創り出す」ことが可能だと万国正義院は書かれています。次の一節は、インスティテュートが育む能力の発展が、どのようにティーチング活動を推進し、この運動を前進させるかを要約したものです。

クラスターで進化している活動パターンの中心は、神の御言葉を介してもたらされる個人、および集団の変革です。一連のコースの初めから、参加者は礼拝、人類への奉仕、魂の生命、子どもやユースの教育といった重要な課題について考えることでバハオラの啓示にめぐり合います。人が神の創造的な言葉について学習し、深く考える習慣を身につけると、この変革の過程

は、有意義な会話において、深遠な概念の理解を表現し、精神的現実を探究する能力として現れてきます。このような能力は共同体内の交流を一層強く特徴付ける高められたディスカッションのなかだけでなく、バハイのユースとその仲間の間はもとより、さらには共同体の教育プログラムの恩恵を受けている娘や息子をもつ両親たちとの間にまで及ぶ、広い範囲で進行中の会話にも表れているのです。この種のやりとりを通して、精神的な力についての意識が高まり、表面的には対立しているように思えるものは予想外の洞察にとって代わり、一体感や共通の使命感が固められ、より良い世界を創ることができるという確信が強まり、行動に対する覚悟がはっきりしてきます。このような特徴的な会話によって、次第に多くの人々が惹きつけられ、共同体のさまざまな活動に参加するようになります。信仰や確信というテーマは、活動に関わる人々の受容性や経験に促されて、自然に浮かび上がります。明らかかなことは、クラスター内のインスティテュート・プロセスが勢いを増すにつれて、ティーチング活動が友人たちの生活のなかでより重要な位置を占めるようになるということです。⁵¹

インスティテュートのコースに参加することによって、上述の万国正義院のビジョンを実現していることを知ることは、あなたにとって大きな喜びの源であるに違いありません。次に学ぶブックが、ルヒ・インスティテュートのコースのチューターとして奉仕する能力を伸ばすのに役立つと知ることも、同様に喜ばしいことでしょう。この奉仕の行いは、インスティテュートのコースを通じて着実に、常に広がり続ける個人の流れを前進させるという点のみではなく、クラスターの成長のプロセス全体にとっても極めて重要です。しかし、皆さんの当面の課題は、本書で学んだことを実践することです。ティーチングの意義について理解を深めた今、「それ(ティーチング)を私たちの人生の支配的な情熱としましょう」という守護者の、私たち全員に対する呼びかけに耳を傾けること以上の至福があるでしょうか。

参考文献

1. *Days of Remembrance: Selections from the Writings of Bahá'u'lláh for Bahá'í Holy Days* (Haifa: Bahá'í World Centre, 2016), no. 29.13, p. 147.
2. Shoghi Effendi, *The Advent of Divine Justice* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 2006, 2018 printing), par. 73, p. 72.
3. From a message dated 13 July 1964 to all National Spiritual Assemblies, published in *Messages from the Universal House of Justice, 1963–1986: The Third Epoch of the Formative Age* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 1996), no. 18.4, p. 39.
4. 落穂集 120, par. 3.
5. かくされたる言葉 アラビア編 no. 4
6. 落穂集 4, par. 1.
7. パリ講話集, no. 15.12
8. バハオラ、「バハイ 祈りの書」(2015 年版), p.329
9. 落穂集 45, par. 1.
10. バブ、「バハイ 祈りの書」(2015 年版), p.126
11. 同上, p.154
12. バハオラ、「バハイ 祈りの書」(2015 年版), p.307
13. かくされたる言葉 ペルシャ編 no. 44
14. 同上、アラビア編 no. 13
15. *Tablets of Abdul-Baha Abbas* (New York: Bahá'í Publishing Committee, 1916, 1930 printing), vol. 3, pp. 579–80. (authorized translation)
16. バハオラ、「バハイ 祈りの書」(2015 年版), p.16
17. 万国正議院、2010 年レズワン・メッセージ
18. 万国正議院、大陸顧問団の大会に宛てた 2021/12/30 付けのメッセージ
19. 落穂集 129, par. 1-2.
20. Shoghi Effendi, *The Advent of Divine Justice*, par. 78, pp. 76–77.
21. Ibid., par. 78, p. 77.
22. Ibid., par. 78, pp. 77–78.
23. Ibid., par. 78, p. 78.
24. Ibid.
25. Ibid.
26. From a letter dated 28 December 2008 written on behalf of the Universal House of Justice to a National Spiritual Assembly, par. 4.
27. 万国正議院、2010 年レズワン・メッセージ

28. From a message dated 13 July 1964 to all National Spiritual Assemblies, published in *Messages from the Universal House of Justice, 1963–1986*, no. 18.1–2, pp. 38–39.
29. 万国正議院、世界中の全国精神行政会に宛てた 2011/12/12 付けメッセージ
30. ‘Abdu’l-Bahá, cited in a letter dated 5 June 1947 written by Shoghi Effendi, published in *Citadel of Faith: Messages to America, 1947–1957* (Wilmette: Bahá’í Publishing Trust, 1965, 2014 printing), pp. 29–30.
31. *Selections from the Writings of ‘Abdu’l-Bahá* (Wilmette: Bahá’í Publishing, 2010, 2015 printing), no. 207.9–10, pp. 364–65.
32. Postscript in the handwriting of Shoghi Effendi, appended to a letter dated 9 May 1933 written on his behalf to an individual.
33. 落穂集 146, par. 1.
34. 万国正議院、2008 年レズワン・メッセージ
35. *Selections from the Writings of ‘Abdu’l-Bahá*, no. 200.11, pp. 339–40.
36. *Tablets of Abdul-Baha Abbas* (New York: Bahá’í Publishing Committee, 1915, 1940 printing), vol. 2, p. 460. (authorized translation)

37. *Tablets of Abdul-Baha Abbas*, vol. 3, p. 727. (authorized translation)
38. *Selections from the Writings of ‘Abdu’l-Bahá*, no. 204.2, pp. 347–48.
39. 万国正議院、大陸顧問団の大会に宛てた 2010/12/28 付けのメッセージ
40. 万国正議院、2019 年レズワン・メッセージ
41. 万国正議院、2010 年レズワン・メッセージ
42. アブドル・バハ、「バハイ 祈りの書」(2015 年版), p.264
43. バハオラ、「バハイ 祈りの書」(2015 年版), p.250
44. 同上、p.252
45. アブドル・バハ、「バハイ 祈りの書」(2015 年版), p.256
46. 同上、p.272
47. 同上、p.268
48. 同上、p.257
49. 同上、p.258
50. 同上、p.261
51. 万国正議院、大陸顧問団の大会に宛てた 2015/12/29 付けのメッセージ